

Oracle9i Lite

Palm 開発者ガイド

リリース 5.0.1

2002 年 4 月

部品番号 : J06006-01

ORACLE®

Oracle9i Lite Palm 開発者ガイド, リリース 5.0.1

部品番号 : J06006-01

原本名 : Oracle9i Lite Developers Guide for Palm, Release 5.0.1

原本部品番号 : A95911-01

Copyright © 1999, 2002, Oracle Corporation. All rights reserved.

Printed in Japan.

制限付権利の説明

プログラム（ソフトウェアおよびドキュメントを含む）の使用、複製または開示は、オラクル社との契約に記載された制約条件に従うものとします。著作権、特許権およびその他の知的財産権に関する法律により保護されています。

当プログラムのリバース・エンジニアリング等は禁止されています。

このドキュメントの情報は、予告なしに変更されることがあります。オラクル社は本ドキュメントの無謬性を保証しません。

*オラクル社とは、Oracle Corporation（米国オラクル）または日本オラクル株式会社（日本オラクル）を指します。

危険な用途への使用について

オラクル社製品は、原子力、航空産業、大量輸送、医療あるいはその他の危険が伴うアプリケーションを用途として開発されておりません。オラクル社製品を上述のようなアプリケーションに使用することについての安全確保は、顧客各位の責任と費用により行ってください。万一かかる用途での使用によりクレームや損害が発生いたしましても、日本オラクル株式会社と開発元である Oracle Corporation（米国オラクル）およびその関連会社は一切責任を負いかねます。当プログラムを米国国防総省の米国政府機関に提供する際には、『Restricted Rights』と共に提供してください。この場合次の Notice が適用されます。

Restricted Rights Notice

Programs delivered subject to the DOD FAR Supplement are "commercial computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs, including documentation, shall be subject to the licensing restrictions set forth in the applicable Oracle license agreement. Otherwise, Programs delivered subject to the Federal Acquisition Regulations are "restricted computer software" and use, duplication, and disclosure of the Programs shall be subject to the restrictions in FAR 52.227-19, Commercial Computer Software - Restricted Rights (June, 1987). Oracle Corporation, 500 Oracle Parkway, Redwood City, CA 94065.

このドキュメントに記載されているその他の会社名および製品名は、あくまでその製品および会社を識別する目的にのみ使用されており、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

目次

はじめに	xv
1 概要	
1.1 概要	1-2
1.1.1 Oracle Lite DBMS	1-2
1.1.2 Mobile Sync	1-3
1.1.3 Mobile SQL	1-3
1.1.4 サンプル	1-3
1.1.5 Mobile サーバー	1-4
1.2 環境	1-4
1.3 開発インターフェース	1-5
1.3.1 ODBC	1-5
1.3.2 Oracle Lite OKAPI	1-5
1.3.3 Mobile Sync API	1-5
1.4 開発過程	1-6
1.4.1 開発システムの構成	1-6
1.4.2 スナップショット定義の作成	1-6
1.4.2.1 宣言によるスナップショット定義の作成	1-7
1.4.2.2 プログラムによるスナップショット定義の作成	1-7
1.4.3 Palm OS Emulator のセットアップ	1-9
1.4.4 エミュレータでのレプリケーション	1-9
1.4.5 Palm 用のモバイル・アプリケーションの開発	1-9
1.4.6 デバイス上でのテスト	1-10
1.4.7 アプリケーションのパッケージ化	1-10

2 開発システムの構成

2.1	一般要件.....	2-2
2.2	開発環境の構成.....	2-2
2.2.1	Palm Computing Platform の開発環境	2-2
2.2.1.1	開発システムでの Oracle Lite のインストール	2-2
2.2.1.2	ディレクトリ構造	2-2
2.2.1.3	静的ライブラリ、共有ライブラリおよびスタブ・ライブラリ	2-4
2.3	Palm Emulator の構成.....	2-4
2.3.1	TCP/IP 構成	2-5

3 同期

3.1	概要.....	3-2
3.1.1	パブリケーションとサブスクリプション	3-2
3.1.2	クライアント・デバイス・データベースの DDL 操作	3-2
3.1.3	データベース・サポート	3-3
3.1.4	ユーザー定義の PL/SQL パッケージのバインド	3-3
3.1.5	データベースのベース・オブジェクトで許可される特殊文字	3-3
3.1.6	ビューの高速リフレッシュおよび更新操作	3-4
3.1.6.1	更新可能な親表	3-4
3.1.6.2	親表のヒントと INSTEAD OF トリガーの使用	3-4
3.1.6.3	ビューの高速リフレッシュ	3-4
3.1.6.4	ビューの完全リフレッシュ	3-5
3.1.7	更新可能パブリケーション項目の外部キー制約	3-5
3.1.7.1	外部キー制約違反の例	3-5
3.1.7.2	BeforeApply および AfterApply での制約違反の回避	3-5
3.1.7.3	表の比率を使用した制約違反の回避	3-6
3.1.8	レプリケーション・エラーと競合	3-7
3.1.8.1	バージョンング	3-7
3.1.8.2	ウィニング・ルール	3-7
3.2	Oracle サーバーとデバイス間でのデータ型のマッピング	3-8
3.2.1	Oracle Lite データベースのデータ型	3-8
3.2.2	Satellite Forms データ型	3-9
3.3	パブリッシュ・サブスクライブ・モデル.....	3-10
3.3.1	パブリッシュ・サブスクライブ・モデルの実装	3-11
3.3.2	API リファレンス	3-12
3.3.3	Mobile サーバーへの接続	3-12

3.3.4	Resource Manager クラスのユーザー関数	3-12
3.3.4.1	ユーザーの作成	3-12
3.3.4.2	パスワードの変更	3-13
3.3.4.3	ユーザーの削除	3-13
3.3.5	パブリケーションの作成	3-14
3.3.5.1	パブリケーション項目の定義	3-14
3.3.5.2	データのサブセット化	3-14
3.3.5.3	Satellite Forms を使用したパブリケーションの作成	3-16
3.3.6	パブリケーション項目の作成	3-16
3.3.6.1	Null Sync コールアウト	3-17
3.3.7	パブリケーション項目名の取得	3-18
3.3.8	パブリケーション項目索引の作成	3-18
3.3.8.1	クライアント索引の定義	3-19
3.3.9	パブリケーションへのパブリケーション項目の追加	3-19
3.3.9.1	読取り専用パブリケーション項目	3-20
3.3.9.2	競合ルールの定義	3-20
3.3.9.3	表の比率の使用	3-21
3.3.10	パブリケーションへのユーザーのサブスクリプト	3-22
3.3.11	順序の作成	3-22
3.3.12	クライアント・デバイスに対する順序のパーティション化	3-23
3.3.13	パブリケーションに対するクライアント・サブスクリプション・パラメータの定義	3-24
3.3.14	サブスクリプションのインスタンス化	3-25
3.3.15	代替パブリケーション項目を使用したスキーマの発展	3-25
3.3.15.1	パブリケーション項目の変更	3-26
3.4	パブリッシュ・サブスクリプト・メソッド固有の関数	3-26
3.4.1	選択同期	3-26
3.4.2	構成と適用を使用したコールバックのカスタマイズ	3-26
3.4.3	カスタマイズ DML 操作の定義	3-27
3.4.3.1	PL/SQL コードの例	3-28
3.4.4	仮想主キー	3-30
3.4.4.1	仮想主キー列の作成	3-30
3.4.4.2	仮想主キー列の削除	3-31
3.4.5	制限選択条件	3-31
3.4.6	エラー・キューを使用した競合の解決	3-31
3.4.6.1	トランザクションの実行	3-31
3.4.6.2	トランザクションのページ	3-32

3.5	Palm OS Emulator のセットアップ	3-33
3.6	Emulator でのレプリケーションのテスト	3-35
3.7	Mobile サーバーのシステム・カタログ・ビュー	3-37

4 Orders サンプル・アプリケーション

4.1	概要	4-2
4.2	Orders サンプル・アプリケーションのファイル	4-2
4.3	Sample Orders アプリケーションを使用可能にする方法	4-2
4.4	Palm Computing Platform 用のサンプル・アプリケーションの使用法	4-3
4.4.1	Main フォーム	4-3
4.4.2	ソート順序の変更	4-3
4.4.3	Order フォーム	4-4
4.4.4	Order Item フォーム	4-5
4.5	デバイスでのサンプル・アプリケーションのインストール	4-6
4.6	デバイスへのデータのレプリケート	4-6

5 Palm アプリケーションのプログラミング

5.1	開発インタフェース	5-2
5.1.1	ODBC	5-2
5.1.2	Oracle Lite オブジェクト・カーネル API	5-2
5.1.3	Mobile Sync API	5-3
5.1.3.1	ocSessionInit	5-3
5.1.3.2	ocSessionTerm	5-3
5.1.3.3	ocSaveUserInfo	5-4
5.1.3.4	ocDoSynchronize	5-4
5.1.3.5	ocSetTableSyncFlag	5-5
5.1.4	Mobile Sync API のデータ構造	5-6
5.1.4.1	ocEnv	5-6
5.1.4.2	ocTransportEnv	5-7
5.2	Palm Computing Platform 用アプリケーションの開発	5-8
5.2.1	ツール	5-8
5.2.1.1	Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform	5-8
5.2.1.2	PUMATECH 社の Satellite Forms	5-9
5.2.1.3	GNU GCC PRC ツール	5-9
5.2.1.4	Metrowerks 社の CodeWarrior	5-9
5.2.1.5	Palm OS Emulator	5-10

5.2.2	開発システムでの Oracle Lite データベースの作成	5-11
5.2.3	Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform の使用方法	5-11
5.2.3.1	Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform のインストール	5-11
5.2.3.2	Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform の起動	5-12
5.2.3.3	Oracle Lite Mobile SQL でのデータベースの新規作成	5-12
5.2.3.4	Oracle Lite Mobile SQL での表の表示	5-12
5.2.3.5	Oracle Lite Mobile SQL での SQL の使用方法	5-14
5.2.4	Metrowerks 社の CodeWarrior でのプロジェクトの作成	5-15
5.3	Palm OS Emulator でのアプリケーションのテスト	5-18
5.3.1	Metrowerks 社の CodeWarrior で作成したアプリケーションのテスト	5-18
5.3.2	Palm OS マシンでのアプリケーションのテスト	5-19
5.3.2.1	Palm OS マシンでの Mobile Development Kit のインストール	5-19
5.3.2.2	Palm OS マシンでのアプリケーションのインストール	5-20
5.3.2.3	Palm Computing Platform デバイスでの転送の構成	5-21
5.3.2.4	HTTP の使用	5-21
5.3.2.5	HTTP Sync への HotSync 方式の再割当て	5-23
5.3.2.6	HotSync を使用した HTTP 転送の構成	5-24
5.3.2.7	Mobile Sync Client for Palm 用のセットアップ	5-24

6 パッケージ・ウィザードの使用

6.1	パッケージ・ウィザードの概要	6-2
6.2	パッケージ・ウィザードの起動	6-2
6.3	プラットフォームの選択	6-4
6.4	新規アプリケーションの命名	6-5
6.4.1	プラットフォーム・ファイルの配置	6-6
6.5	アプリケーション・ファイルのリスト表示	6-7
6.5.1	ソート	6-9
6.5.2	フィルタ	6-9
6.6	データベース情報の入力	6-10
6.7	レプリケーション用スナップショットの定義	6-11
6.7.1	新規スナップショットの作成	6-13
6.7.2	スナップショットのインポート	6-14
6.7.3	スナップショットの編集	6-16
6.8	アプリケーションの完了	6-18
6.8.1	アプリケーション・ファイル	6-18
6.8.2	JAR ファイルの作成	6-18

6.8.3	SQL ファイルの作成	6-19
6.8.4	パッケージ・ウィザードの再起動	6-19
6.8.5	アプリケーションのパブリッシュ	6-19
6.8.6	アプリケーションの編集	6-21

A システム・カタログ・ビュー

A.1	Oracle Lite データベースのカタログ・ビュー	A-2
A.1.1	ALL_COL_COMMENTS	A-3
A.1.2	ALL_CONSTRAINTS	A-3
A.1.3	ALL_CONS_COLUMNS	A-4
A.1.4	ALL_INDEXES	A-4
A.1.5	ALL_IND_COLUMNS	A-5
A.1.6	ALL_OBJECTS	A-5
A.1.7	ALL_SEQUENCES	A-6
A.1.8	ALL_SYNONYMS	A-6
A.1.9	ALL_TABLES	A-7
A.1.10	ALL_TAB_COLUMNS	A-8
A.1.11	ALL_TAB_COMMENTS	A-9
A.1.12	ALL_USERS	A-10
A.1.13	ALL_VIEWS	A-10
A.1.14	CAT	A-11
A.1.15	COLUMN_PRIVILEGES	A-11
A.1.16	DATABASE_PARAMETERS	A-12
A.1.17	DUAL	A-12
A.1.18	SNAPSHOTS	A-12
A.1.19	TABLE_PRIVILEGES	A-15
A.1.20	USER_OBJECTS	A-16

B SQL サポート

B.1	Oracle Lite for the Palm Computing Platform の SQL サポート	B-2
B.1.1	サポートされる SQL 文	B-2
B.1.2	CREATE TABLE	B-3
B.1.3	DROP TABLE	B-3
B.1.4	CREATE INDEX	B-4
B.1.5	DELETE	B-4
B.1.6	DROP INDEX	B-5

B.1.7	INSERT	B-5
B.1.8	SELECT	B-6
B.1.9	UPDATE	B-7
B.1.10	COMMIT	B-7
B.1.11	ROLLBACK	B-7
B.1.12	条件	B-8
B.1.13	比較演算子	B-8
B.1.14	リテラル値	B-10
B.1.15	サポートされるデータ型	B-11
B.1.16	サポートされるグループ関数	B-12
B.1.17	サポートされる日付関数	B-13

C ODBC サポート

C.1	Oracle Lite for the Palm Computing Platform の ODBC サポート	C-2
C.1.1	SQLAllocConnect	C-3
C.1.2	SQLAllocEnv	C-4
C.1.3	SQLAllocHandle	C-5
C.1.4	SQLAllocStmt	C-7
C.1.5	SQLFreeConnect	C-7
C.1.6	SQLFreeEnv	C-8
C.1.7	SQLFreeHandle	C-8
C.1.8	SQLFreeStmt	C-9
C.1.9	SQLConnect	C-10
C.1.10	SQLDisconnect	C-11
C.1.11	SQLBindParameter	C-11
C.1.12	SQLPrepare	C-12
C.1.13	SQLExecDirect	C-13
C.1.14	SQLExecute	C-13
C.1.15	SQLFetch	C-14
C.1.16	SQLBindCol	C-15
C.1.17	SQLDescribeCol	C-16
C.1.18	SQLError	C-17
C.1.19	SQLGetData	C-18
C.1.20	SQLNumResultCols	C-19
C.1.21	SQLRowCount	C-19
C.1.22	SQLTransact	C-20

D Mobile SQL

D.1	概要.....	D-2
D.1.1	データベース・アクセス	D-2
D.2	インストールとセットアップ.....	D-3
D.2.1	Mobile SQL の起動と停止	D-3
D.3	Main フォーム	D-3
D.4	Table フォーム	D-4
D.5	SQL フォーム	D-6
D.6	「行の編集」オプション.....	D-7
D.7	Palm OS 固有の機能	D-8

用語集

索引



3-1	Mobile SQL アイコンと Mobile Sync アイコン	3-34
3-2	インストールされるファイル	3-34
3-3	Oracle Mobile Sync 画面	3-36
4-1	Palm 用の Main フォーム	4-3
4-2	Order フォーム	4-4
4-3	Order Item フォーム	4-5
5-1	開発インタフェース	5-2
5-2	Code Warrior の画面の例	5-10
5-3	Mobile SQL	5-12
5-4	Mobile SQL の表	5-13
5-5	Mobile SQL の表の例	5-13
5-6	SELECT 文の例	5-14
5-7	「New Project」メニュー	5-16
5-8	ターゲットの設定	5-16
5-9	アクセス・パス	5-17
5-10	CodeWarrior の「Preferences」	5-18
5-11	Mobile Development Kit アイコン	5-20
5-12	Mobile サーバー用の転送の構成	5-21
5-13	「ネットワーク環境設定」画面	5-22
5-14	ログイン画面	5-23
5-15	「mSync」画面	5-25
6-1	「ようこそ」パネル	6-3
6-2	プラットフォームの選択画面	6-4
6-3	「アプリケーション」パネル	6-5
6-4	「ファイル」パネル	6-8
6-5	「フィルタ」パネル	6-9
6-6	「データベース」パネル	6-10
6-7	「スナップショット」パネル	6-11
6-8	「新規スナップショット」ウィンドウ	6-13
6-9	「データベースへの接続」ウィンドウ	6-15
6-10	「表」ウィンドウ	6-15
6-11	「スナップショットの編集」ウィンドウ	6-16
6-12	「アプリケーションの定義が完了しました。」ウィンドウ	6-18
6-13	「アプリケーションをパブリッシュします。」ウィンドウ	6-20
B-1	CREATE TABLE 文の構文	B-3
B-2	DROP TABLE 文の構文	B-3
B-3	CREATE INDEX 文の構文	B-4
B-4	DELETE 文の構文	B-4
B-5	DROP INDEX 文の構文	B-5
B-6	INSERT 文の構文	B-5
B-7	SELECT 文の構文	B-6
B-8	UPDATE 文の構文	B-7
B-9	COMMIT 文の構文	B-7

B-10	ROLLBACK 文の構文	B-7
B-11	WHERE 句の構文	B-8
D-1	Mobile SQL の概要	D-2
D-2	Mobile SQL データベース画面	D-3
D-3	表ビュー	D-4
D-4	コマンド入力メニュー	D-6
D-5	「行の編集」の例	D-7

表

2-1	ディレクトリ構造	2-3
3-1	Oracle Lite データ型	3-8
3-2	Satellite Forms データ型	3-9
3-3	パブリッシュ・サブスクライブ・モデルの要素	3-10
3-4	パブリッシュ・サブスクライブ・モデルを実装する方法	3-11
3-5	ユーザー作成パラメータの例	3-13
3-6	パスワード設定パラメータの例	3-13
3-7	ユーザー削除パラメータの例	3-14
3-8	パブリケーション作成パラメータの例	3-15
3-9	client_storage_type 定数値	3-15
3-10	パブリケーション項目作成パラメータの例	3-16
3-11	パブリケーション項目名取得パラメータの例	3-18
3-12	パブリケーション項目索引作成パラメータの例	3-19
3-13	パブリケーション項目追加パラメータの例	3-20
3-14	サブスクリプション作成パラメータの例	3-22
3-15	シーケンス・パーティション作成パラメータの例	3-23
3-16	サブスクリプション・パラメータ設定パラメータの例	3-24
3-17	サブスクリプションのインスタンス化パラメータの例	3-25
3-18	パブリケーション項目変更パラメータの例	3-26
3-19	モバイル DML 操作のパラメータ	3-28
3-20	仮想主キー列作成パラメータ	3-30
3-21	仮想主キー列の削除パラメータ	3-31
3-22	トランザクション実行パラメータ	3-32
3-23	トランザクションのページ・パラメータ	3-32
3-24	Mobile クライアント・パラメータ	3-35
4-1	Palm Computing Platform のファイル	4-2
5-1	Palm デバイスのネットワーク設定	5-22
5-2	Palm のログイン・スクリプト	5-23
5-3	Mobile クライアント・パラメータ	5-24
6-1	「ようこそ」パネルのオプション	6-3
6-2	「アプリケーション」パネルのオプション	6-5
6-3	「ファイル」パネルのオプション	6-8
6-4	「データベース」パネルのオプション	6-10
6-5	スナップショット・パラメータ	6-12
6-6	「新規スナップショット」ウィンドウのオプション	6-14
6-7	「スナップショットの編集」ウィンドウのオプション	6-17
6-8	「アプリケーションをパブリッシュします。」ウィンドウのオプション	6-20
A-1	ALL_COL_COMMENTS のパラメータ	A-3
A-2	ALL_CONSTRAINTS のパラメータ	A-3
A-3	ALL_CONS_COLUMNS のパラメータ	A-4
A-4	ALL_INDEXES のパラメータ	A-4
A-5	ALL_IND_COLUMNS のパラメータ	A-5
A-6	ALL_OBJECTS のパラメータ	A-5

A-7	ALL_SEQUENCES のパラメータ	A-6
A-8	ALL_SYNONYMS のパラメータ	A-6
A-9	ALL_TABLES のパラメータ	A-7
A-10	ALL_TAB_COLUMNS のパラメータ	A-8
A-11	ALL_TAB_COMMENTS のパラメータ	A-9
A-12	ALL_USERS のパラメータ	A-10
A-13	ALL_VIEWS のパラメータ	A-10
A-14	CAT のパラメータ	A-11
A-15	COLUMN_PRIVILEGES のパラメータ	A-11
A-16	DATABASE_PARAMETERS のパラメータ	A-12
A-17	DUAL のパラメータ	A-12
A-18	SNAPSHOTS のパラメータ	A-12
A-19	TABLE_PRIVILEGES のパラメータ	A-15
A-20	USER_OBJECTS のパラメータ	A-16
B-1	サポートされる SQL 文	B-2
B-2	CREATE TABLE の引数	B-3
B-3	DROP TABLE の引数	B-3
B-4	CREATE INDEX の引数	B-4
B-5	DELETE の引数	B-4
B-6	DROP INDEX の引数	B-5
B-7	INSERT の引数	B-5
B-8	SELECT の引数	B-6
B-9	UPDATE の引数	B-7
B-10	WHERE 句のパラメータ	B-8
B-11	比較演算子	B-8
B-12	リテラル値パラメータ	B-10
B-13	サポートされるデータ型	B-11
B-14	サポートされるグループ関数	B-12
B-15	サポートされる日付関数	B-13
C-1	ODBC API 関数	C-2
C-2	SQLAllocConnect の引数	C-3
C-3	SQLAllocEnv の引数	C-4
C-4	SQLAllocHandle の引数	C-5
C-5	ハンドル・パラメータ	C-6
C-6	SQLAllocStm の引数	C-7
C-7	SQLFreeConnect の引数	C-7
C-8	SQLFreeEnv の引数	C-8
C-9	SQLFreeHandle の引数	C-9
C-10	SQLFreeStmnt の引数	C-9
C-11	SQLConnect の引数	C-10
C-12	SQLDisconnect の引数	C-11
C-13	SQLBlindParameter の引数	C-11
C-14	SQLPrepare の引数	C-12
C-15	SQLExecDirect の引数	C-13
C-16	SQLExecute の引数	C-13

C-17	SQLRetch の引数	C-14
C-18	SQLBindCol の引数	C-15
C-19	SQLDescribeCol の引数	C-16
C-20	SQLError の引数	C-17
C-21	SQLGetData の引数	C-18
C-22	SQLNumResultCols の引数	C-19
C-23	SQLRowCount の引数	C-19
C-24	SQLTransact の引数	C-20
D-1	Main フォームのオプション	D-4
D-2	Table フォームの構成要素	D-5
D-3	SQL フォームの構成要素	D-6
D-4	「行の編集」ダイアログ・ボックスのオプション	D-7

はじめに

ここでは、このマニュアルの内容を紹介します。このマニュアルでは、Oracle Lite データベースを使用する携帯アプリケーションの開発および配布について説明します。内容は、次のとおりです。

第 1 章「概要」

レプリケーションや携帯端末用のアプリケーション開発を含めた、Palm OS 用 Mobile Development Kit の概要を説明します。開発者に対してはレプリケーション可能な携帯アプリケーションの開発過程も説明します。

第 2 章「開発システムの構成」

携帯端末用のアプリケーションを開発するための環境の構成について、サポートされるプラットフォーム、一般的な要件、開発環境の構成、レプリケーション用のサーバー構成などを説明します。

第 3 章「同期」

Mobile サーバーとのレプリケートについて、Mobile サーバーの機能、データ型のマッピング、転送の構成、パブリッシュ・サブスクライブ・モデル、ウィニング・ルール、索引、順序および拡張機能などを説明します。

第 4 章「Orders サンプル・アプリケーション」

Palm OS 用 Mobile Development Kit の Orders サンプル・アプリケーションについて説明します。このアプリケーションでは、Oracle Lite データベースとレプリケーション・エンジンを使用してアプリケーションを作成する方法が示されます。

第 5 章「Palm アプリケーションのプログラミング」

携帯端末への Oracle Lite データベース・アプリケーションの配布について説明します。

第 6 章「パッケージ・ウィザードの使用」

パッケージ・ウィザードを使用した、アプリケーションの作成と配布について説明します。

付録 A 「システム・カタログ・ビュー」

Mobile サーバー・システムのビューと Oracle Lite データベースのカタログを説明します。

付録 B 「SQL サポート」

Palm OS マシン用 Oracle Lite データベースに対する SQL サポートについて説明します。

付録 C 「ODBC サポート」

Palm OS マシン用 Oracle Lite データベースに対する ODBC サポートについて説明します。

付録 D 「Mobile SQL」

クライアント・デバイス上で実行される GUI ベースのアプリケーションである Mobile SQL について説明します。これを使用すると、ローカル・データベースに対して SQL 文を実行できます。

1

概要

この章では、『Oracle9i Lite Palm 開発者ガイド』の概要を説明します。内容は次のとおりです。

- 1.1 項「概要」
- 1.2 項「環境」
- 1.3 項「開発インタフェース」
- 1.4 項「開発過程」

1.1 概要

Oracle9i Lite Mobile Development Kit for Palm には、次のものが含まれています。

- Oracle Lite データベース (Palm 用) - 軽量の埋込みデータベース
- Mobile Sync - トランザクショナル・レプリケーション・エンジン
- Mobile SQL for Palm OS - クライアント・デバイス上の GUI 対応の SQL インタフェース

Palm 用 Mobile Development Kit を使用すると、Palm OS デバイス上で企業データを利用するアプリケーションを開発できます。携帯端末上のデータは、特別に各プラットフォーム用に設計された Oracle Lite オブジェクト・リレーショナル・データベースに格納されます。一度配布されると、Oracle Lite データベースはエンド・ユーザーに対し透過的であり、最小限のチューニングや管理しか必要ありません。

注意： このドキュメントでは、Palm Computing Platform でのアプリケーション開発とデータベースとの同期についてのみ説明します。Windows CE については、『Oracle9i Lite Windows CE 開発者ガイド』を参照してください。EPOC については、『Oracle9i Lite Developer's Guide for EPOC』を参照してください。

1.1.1 Oracle Lite DBMS

Oracle Lite データベースはラップトップ、携帯用コンピュータ、PDA および情報アプリケーション用に特別に作成されたフットプリントの小さい Java 対応リレーショナル・データベースです。Oracle Lite データベースは、Windows 95/98/NT/2000、Windows CE/Pocket PC、Palm Computing および EPOC 上で稼働します。Oracle Lite データベースは、C/C++ や Visual Basic などの様々なプログラミング言語からデータベース・アプリケーションを作成するための ODBC および OKAPI プログラミング・インタフェースを提供します。これらのデータベース・アプリケーションは、データベース・サーバーから切断中でも使用できます。

1.1.2 Mobile Sync

Mobile Sync は、携帯端末上に常駐するフットプリントの小さいアプリケーションで、Mobile Sync により携帯端末、デスクトップおよびラップトップ・コンピュータと Oracle データベースの間でデータを同期できます。Mobile Sync は、Windows 95/98/NT/2000、Windows CE/Pocket PC、Palm Computing および EPOC 上で稼働します。

開発者がアクセスする必要があるコンポーネントがいくつかあります。

- Oracle データベース・サーバー。
- 携帯端末と Oracle データベース・サーバー間のゲートウェイとなる Mobile サーバー。
- Mobile サーバーと Oracle データベース・サーバー間のトランザクションとデータ交換を管理するバックグラウンド・プロセスである Message Generator and Processor (MGP)。
- 携帯端末上に常駐し、与えられた任意の通信メカニズム上で Mobile サーバーと同期する Mobile Sync。
- Mobile サーバーとの通信メカニズム。HTTP や Palm HotSync などがあります。

携帯端末は一般に、中央のデータベースに含まれているデータのごく一部しか扱う必要がありません。たとえば、特定の地域の営業部隊は、その地域の顧客の連絡先情報にアクセスする必要しかありません。Mobile サーバーは、データやアプリケーションの管理にパブリッシュ・サブスクライブ・モデルを使用します。このモデルでは、Mobile サーバー Admin API を使用して作成したパブリケーションにより、特定のサブスクライバに対して使用可能にするデータのサブセットを定義します。サブスクリプションは、ユーザーをパブリケーションに関連付けます。クライアントとサーバーが同期を介してデータを交換する際、Mobile サーバーはユーザーの定義したルールを使用してデータの競合を検出および解決し、クライアント上で使用するためのパブリケーション項目のスナップショットを作成します。

1.1.3 Mobile SQL

Mobile SQL により、Palm Computing Platform デバイス上で Oracle Lite データベースを作成、アクセスおよび管理できます。Mobile SQL を使用して次のことができます。

- データベースの作成
- 表の表示
- SQL 文の実行

1.1.4 サンプル

Mobile Development Kit には、サンプル・アプリケーションが含まれています。サンプルは、Mobile Development Kit とともに自動的にインストールされることはありませんが、次の手順を使用して適用できます。

1.1.5 Mobile サーバー

Mobile サーバーにより、携帯端末上の Oracle Lite データベースと Oracle サーバーの間のシームレスな同期が実現されます。

注意： Palm OS 用 Mobile Development Kit では、Palm Computing Platform 固有のデータベース形式もサポートされます。この形式は、様々な Palm Computing Platform 開発ツールに基づいたアプリケーションの作成に使用できます。

データ配分のパブリッシュ・サブスクライブ・モデルを使用すると、Mobile サーバーでは個々のクライアント・デバイスで、ユーザー ID や位置などのパラメータに基づいた様々なデータ・サブセットをサブスクライブできます。

Mobile サーバーは Palm OS マシン上の Oracle Lite データベースをサポートし、さらに、Palm Computing Platform では、次のものをサポートしています。

- Address Book などの Palm Computing Platform デバイス固有のアプリケーション
- Palm Computing Platform データベース (PDB)

Mobile サーバーでは、携帯端末とサーバー間の転送プロトコルを複数サポートしています。次のプロトコルがあります。

- HotSync
- HTTP

1.2 環境

Palm OS 用 Mobile Development Kit は、Palm Operating System のバージョン 3.5 から 4.0 をサポートしています。

1.3 開発インタフェース

Mobile Development Kit (Palm 用) の提供する開発インタフェースは、次のとおりです。

- 1.3.1 項「ODBC」
- 1.3.2 項「Oracle Lite OKAPI」
- 1.3.3 項「Mobile Sync API」

1.3.1 ODBC

Open Database Connectivity (ODBC) は、SQL データベースにアクセスするためのコールレベル・インタフェースです。Oracle Lite データベース (Palm Computing Platform 用) は、ODBC 3.0 インタフェースのサブセットをサポートしています。詳細は、[付録 C](#) を参照してください。

1.3.2 Oracle Lite OKAPI

Oracle Lite オブジェクト・カーネル API (OKAPI) は、アプリケーションから Oracle Lite オブジェクト・カーネル機能へのアクセスを可能にする、C/C++ 言語のオブジェクト・データベース・インタフェースです。Oracle Lite OKAPI プログラムは、ターゲットとなるプラットフォームに適した開発ツール (たとえば、CodeWarrior for Palm Computing Platform) で開発できます。詳細は、[第 5 章「Palm アプリケーションのプログラミング」](#) を参照してください。また、Oracle Lite OKAPI の詳細は、『Oracle9i Lite (C および C++) オブジェクト・カーネル API リファレンス』を参照してください。

1.3.3 Mobile Sync API

この API により、アプリケーションはレプリケーション処理をプログラムによって制御できます。アプリケーションは Mobile Sync API 関数を起動して、レプリケーション・プロセスの開始や、Mobile Sync API によって生成されたエラー・メッセージの捕捉を行います。

1.4 開発過程

ここでは、Palm 用 Mobile Development Kit の開発過程の概要を説明します。開発過程には次の手順が含まれています。

1. 開発システムの構成
2. スナップショット定義の作成
3. Palm OS Emulator のセットアップ
4. エミュレータでのレプリケーション
5. Palm 用のモバイル・アプリケーションの開発
6. デバイス上でのテスト
7. アプリケーションのパッケージ化

1.4.1 開発システムの構成

Mobile Development Kit を使用した開発を開始するには、Windows で稼働する開発システム上にいくつかのコンポーネントをインストールし、構成する必要があります。

- Mobile サーバー
- Mobile Development Kit
- Palm 用統合開発環境 (IDE)

サーバーおよび開発環境のインストールと構成の詳細は、[第 2 章](#)を参照してください。

1.4.2 スナップショット定義の作成

アプリケーションが機能するためにはデータが必要で、アプリケーションは Mobile サーバー経由でデータにアクセスします。アプリケーションはデータベース上の正しい表にダイレクトされる必要があります。これは、クライアント上のスナップショットと Mobile サーバー上のパブリケーション項目を使用して実行されます。スナップショット定義とは、アプリケーションに使用する表を指示するための、Mobile サーバーのプロセスです。

ほとんどの場合、アプリケーションで使用するスナップショットの作成対象の表はすでに存在しています。次の方法を使用すると、Mobile サーバー上にパブリケーション項目を作成できます。Mobile サーバーは、データベースと同期するときに、クライアント上にスナップショットを自動的に作成します。スナップショット定義の作成オプションは、次のとおりです。

1. **宣言によるスナップショット定義の作成** – パッケージ・ウィザードを使用してパブリケーション項目を作成します。この方法をお勧めします。
2. **プログラムによるスナップショット定義の作成** – Consolidator Admin API を使用して、パブリケーション項目をプログラムで作成します。

1.4.2.1 宣言によるスナップショット定義の作成

この方法では、Mobile サーバーのパッケージ・ウィザードを利用します。この GUI ツールを使用すると、アプリケーションを **.jar** ファイルにパッケージ化することができます。このファイルはアプリケーションのデプロイメント・ディスクリプタで、Mobile サーバーがアプリケーションを管理するために必要な情報が含まれています。この **.jar** ファイルは Mobile サーバー・リポジトリにパブリッシュされます。

パッケージ・ウィザードの 2 番目の機能は、アプリケーションで使用するデータベース表を作成する SQL スクリプトの生成です。この表は Oracle データベース実表で、Mobile サーバーはこの表と同期を取ります。

グラフィカル・ツールの便利な点は、モバイル・アプリケーションの作成が安全でエラーが発生しにくいことです。実際のアプリケーション・プログラミングを開始する前に、次の手順を実行する必要があります。

- 実表がデータベースにあるかどうかを確認します。ない場合は、次の手順を実行します。
- パッケージ・ウィザードを使用して、スナップショット定義を収集します。
- パッケージ・ウィザードを使用して、**.jar** ファイルと SQL スクリプトを生成します。
- データベースに実表がない場合は、データベースに対して SQL スクリプトを実行して実表を作成します。
- Mobile サーバー・リポジトリに **.jar** ファイルをパブリッシュします。
- Mobile クライアントを設定します。
- Mobile クライアントを Mobile サーバーと同期して、クライアント側スナップショットを作成します。

パッケージ・ウィザード / Mobile サーバー・アーキテクチャを使用してスナップショット定義を作成すると、モバイル・アプリケーションおよびそのアプリケーションが必要とするスナップショット定義の管理および配布に、集中型のサーバーを使用できます。このドキュメントでは、[第 6 章](#)で順を追ったアプローチを説明します。

1.4.2.2 プログラムによるスナップショット定義の作成

データベースを作成しデータを移入する 2 つ目の方法は、[第 3 章](#)で説明されている Consolidator Admin API を使用してプログラムでスナップショット定義を作成する方法です。Mobile サーバーがクライアント・システムと Oracle データベースの両方と通信するため、用語は多少異なります。Mobile サーバーは、パブリケーションに関するすべてを処理します。

パブリケーションには、スナップショット定義と同じ意味のパブリケーション項目などのデータ・レプリケーション・オブジェクトが含まれます。Consolidator Admin API を起動

する前に、データベースの実表が必要になります。分散データベース・スキーマを作成するには、次の手順が必要です。

- パブリケーションの作成
- パブリケーション項目の作成
- ユーザー ID の作成
- サブスクリプションの作成

パブリケーションの作成

パブリケーションは、定義や索引をサブセット化した表などのメタデータが含まれたテンプレート・グループです。パブリケーションは、**Consolidator Admin API** を使用して作成できます。この API には、パブリッシュ・サブスクリライブ・モデルを実装する Java 関数が含まれています。API 中のこれらの関数は、Java プログラムの内部から標準のファンクション・コールとしてコールできます。

パブリケーション項目の作成

パブリケーション項目は、同期が発生したときに親データベースのどのデータ・サブセットがクライアントにレプリケートされるかを指定する SQL の SELECT 文です。パブリケーション項目は、通常クライアント上のスナップショットに対応します。パブリケーション項目は、**Consolidator Admin API** を使用して作成できます。この API には、パブリッシュ・サブスクリライブ・モデルを実装する Java 関数が含まれています。API 中のこれらの関数は、Java プログラムの内部から標準のファンクション・コールとしてコールできます。

ユーザー ID の作成

各クライアントはユーザー ID により識別されます。開発の目的上、データ・サブスクリプションを特定ユーザーに対応付けるために、ユーザー ID は **Consolidator Admin API** を使用して作成する必要があります。

サブスクリプションの作成

サブスクリプションは、ユーザーをパブリケーションにリンクさせます。サブスクリプションは、**Consolidator Admin API** を使用して作成できます。この API には、パブリッシュ・サブスクリライブ・モデルを実装する Java 関数が含まれています。API 中のこれらの関数は、Java プログラムの内部から標準のファンクション・コールとしてコールできます。Java を使用してパブリケーションとサブスクリプションを作成するには、[3.3 項](#)を参照してください。

重要： プログラムによるパブリケーション項目の作成は、Java と **Consolidator Admin API** に関する高度なスキルが必要で、労力のかかる作業です。パッケージ・ウィザードを使用すれば、必要な手順が増えても理解がしやすいため、お薦めします。パッケージ・ウィザードは[第 6 章](#)で説明します。

1.4.3 Palm OS Emulator のセットアップ

開発過程の3番目のステップは、開発システムに Oracle Lite データベースを作成するデータをレプリケートすることです。レプリケーションを実行する前に、Palm OS 用 Mobile Development Kit ランタイム・ライブラリをインストールしておく必要があります。

Mobile サーバーと Palm OS Emulator の間の転送を構成した後、Palm OS Emulator に Mobile Sync をインストールして構成する必要があります。また、Mobile サーバーと同期する前に、エミュレータでユーザー・パラメータや接続パラメータを入力し、保存する必要があります。

インストールと構成の方法は、[3.5 項](#)を参照してください。

注意： アプリケーションは、Palm Computing Platform エミュレータを使用して開発する必要があります。エミュレータは、デスクトップ上のデバイス・アプリケーションの開発およびテストを可能にする仮想デバイスです。

1.4.4 エミュレータでのレプリケーション

4番目のステップには、開発システム上に常駐する Oracle Lite データベースに Oracle データベース・サーバーのデータをレプリケートする、最初のレプリケーション・サイクルが含まれます。Palm OS Emulator は、Windows マシン上で Palm OS マシンをシミュレートするもので、データ・レプリケーションのモニターとテストに便利です。Mobile Development Kit に含まれているサンプル・ファイルをインストールすると、Windows 開発システムに Oracle Lite データベースのサンプルが作成されます。

サンプル・ファイルのインストールの詳細は、『Oracle9i Lite インストールおよび構成ガイド』を参照してください。エミュレータのインストールと構成の方法は、[第3章](#)を参照してください。

1.4.5 Palm 用のモバイル・アプリケーションの開発

開発過程の5番目のステップは、アプリケーション開発です。同期をとって Palm OS Emulator 上にスナップショット・データを作成した後、なんらかの形で Palm IDE を使用して Windows 開発システム (PC) 上でアプリケーションを開発します。Palm OS マシンへのアプリケーションの配布と実行を試みる前に、Palm OS Emulator を使用して Palm アプリケーションをテストしてください。

アプリケーション開発の詳細は、[第5章「Palm アプリケーションのプログラミング」](#)を参照してください。

1.4.6 デバイス上でのテスト

開発過程の 6 番目のステップは、実際の Palm Computing 携帯端末でアプリケーションをテストする作業です。デバイス上で Palm アプリケーションをテストするには、開発者が手動でインストールおよび構成タスクを実行する必要があります。インストール・ツールを使用して、Palm OS マシンにランタイム・ライブラリおよびアプリケーション・ライブラリをインストールします。『Oracle9i Lite 管理者ガイド』には、ランタイム・ライブラリおよびアプリケーション・ライブラリをインストールするための便利な方法が説明されています。

1.4.7 アプリケーションのパッケージ化

Palm Computing アプリケーションを開発およびテストした後、アプリケーションをパッケージ化する必要があります。パッケージ・ウィザードを使用すると、アプリケーション・ファイルとアプリケーション・ディプロイメント・ディスクリプタの含まれた自己完結型パッケージを作成できます。Mobile サーバー管理者は、このパッケージを使用して Mobile サーバー・リポジトリに Palm Computing アプリケーションをパブリッシュします。

パッケージ・ウィザードの使用方法は、[第 6 章](#)を参照してください。

2

開発システムの構成

この章では、携帯アプリケーション開発環境の構成を説明します。内容は次のとおりです。

- 2.1 項「一般要件」
- 2.2 項「開発環境の構成」
- 2.3 項「Palm Emulator の構成」

2.1 一般要件

Palm OS 用 Mobile Development Kit でアプリケーションを開発および配布するための一般的なソフトウェア要件は、次のとおりです。

- Oracle データベース リリース 8.1.7 またはそれ以上
- Mobile サーバーのインスタンス

プラットフォーム固有のソフトウェア要件は、[2.2 項「開発環境の構成」](#)を参照してください。

注意： CLASSPATH に必ず次の Mobile Development Kit クラスを追加してください。

2.2 開発環境の構成

ターゲットとなる各プラットフォームに応じた開発環境を構成する必要があります。各プラットフォームごとにエミュレータをインストールしてください。携帯端末上でアプリケーションをテストする前に、エミュレータを使用してアプリケーションをテストします。

2.2.1 Palm Computing Platform の開発環境

ここでは、開発システム上の Palm 用 Mobile Development Kit コンポーネントについて説明します。

2.2.1.1 開発システムでの Oracle Lite のインストール

開発システムには、Oracle Universal Installer を使用して、Mobile Development Kit をインストールする必要があります。詳細は、『Oracle9i Lite インストールガイドおよび構成ガイド』を参照してください。

2.2.1.2 ディレクトリ構造

Mobile Development Kit コンポーネントをインストールすると、`Oracle_Home\Mobile\SDK\Palm` ディレクトリに常駐します。このディレクトリには、次のサブディレクトリがあります。

表 2-1 ディレクトリ構造

ディレクトリ	説明
Runtime¥shlib	<p>odbc.prc: SQL ランタイムとの共有ライブラリ・バージョンの ODBC。</p> <p>okapi.prc: 共有 OKAPI ライブラリ。</p> <p>olLibC.prc: 標準の C ライブラリ。</p> <p>ocHttpTransport.prc: 標準の HTTP 転送ドライバ (OCAPI で使用)。</p> <p>ocCompressTransport: 圧縮転送ドライバ (OCAPI で使用)。</p>
Runtime¥bin	<p>msync_Static.prc: 静的バージョンの Mobile Sync Client。共有ライブラリは必要ありません。</p> <p>msync.prc: okapi.prc、olLibC.prc、ocHttpTransport.prc、odbc.prc が必要。</p> <p>msql.prc: 共有バージョンの Oracle Lite Mobile SQL アプリケーション。</p> <p>msql_static.prc: 静的リンク・バージョンの Oracle Lite Mobile SQL アプリケーション。</p>
SDK¥lib	<p>okapi.lib: アプリケーションでのレプリケーションのインスタンス化を可能にする Mobile Sync API。</p> <p>odbc.lib: 静的 ODBC および SQL エンジン・ライブラリ。</p> <p>okapi.lib: 静的 OKAPI ライブラリ。</p> <p>okapi_stub.lib: 共有ライブラリ用スタブ。okapi.prc または okindex.prc あるいはその両方が必要。</p> <p>odbc_stub.lib: 共有ライブラリ用スタブ。okapi.prc、okindex.prc および odbc.prc が必要。</p> <p>okapi_noddl.lib: データ定義言語なしの静的 OKAPI ライブラリ。</p> <p>okrepex*.lib、pslim.lib、olrl.lib: 内部使用専用。</p>
SDK¥conduit	<p>conshttp.dll: mSync パイプ・ライブラリ。</p> <p>conshttp_reg.exe: hotsync パイプを登録するために必要な実行可能ファイル。</p>
SDK¥examples¥cw	<p>msql: このフォルダには、Mobile SQL のソース・コードが格納されます。</p> <p>mSync: このフォルダには、mSync プログラムのソース・コードが格納されます。</p> <p>okDemo: このフォルダには、okDemo のソース・コードが格納されます。これらは OKAPI デモ・ファイルです。</p> <p>okTest: 別の OKAPI サンプルです。</p>

表 2-1 ディレクトリ構造 (続き)

ディレクトリ	説明
SDK	fake31: 古い PalmOS 3.1 をサポートするためのヘッダー・ファイル。 include: ヘッダー・ファイル。 lib: リンク可能ライブラリ・ファイル。

注意: *Oracle_Home* は、このマニュアルでは Oracle インストール・ディレクトリ名のプレースホルダとして使用されます。

2.2.1.3 静的ライブラリ、共有ライブラリおよびスタブ・ライブラリ

静的ライブラリ (*.lib) は、コンパイル時に静的にリンクされデバッグ処理が簡単になるため、開発に最もよく使用されます。共有ライブラリ (.prc) は、実行時に動的にリンクされます。スタブ・ライブラリは静的にリンクされる小さいライブラリで、共有ライブラリ・ファイルのプロキシです。

2.3 Palm Emulator の構成

Palm OS Emulator は、PalmPilot、Palm III、Palm V、Palm VII その他の様々なモデルのほとんどの Palm Computing Hardware デバイスをエミュレートするアプリケーションです。このエミュレータは、Windows 95、Windows 98、Windows 2000 または Windows NT 4.0 が稼働する大部分の標準デスクトップ・コンピュータで実行されます。開発者は、Palm OS アプリケーションの開発、テストおよびデバッグの補助に Palm OS Emulator を使用する必要があります。Palm OS Emulator は Palm Computing Platform のマシン・レベルでのエミュレーションなので、テストのために実際のデバイスにアプリケーションをダウンロードする必要がなくなります。かわりに、開発者は、エミュレートされた環境にアプリケーションをインストールして、開発ツールが含まれているのと同じデスクトップ・コンピュータでテストできます。

Palm OS Emulator for Windows の最新バージョンは、常にインターネットの次の Palm 開発者用ゾーンに置かれています。

<http://www.palmos-japan.com/dev/>

Emulator のリリース・バージョンを取得するには、開発者ゾーンのマイン・ページからエミュレータ・ページにリンクをたどります。

Palm OS Emulator は Palm Computing Platform ハードウェアをエミュレートするので、ハードウェアのすべてのコンポーネントが存在する必要があります。これには、Emulator とともに出荷されない ROM イメージ・ファイルが含まれます。Palm からデバッグ ROM イメージをダウンロードするには、Palm 開発者ゾーンの Web サイトに移動します。

ROM イメージ・ファイルは、Palm Provider Pavilion にあります。Palm OS Emulator の構成と使用の詳細は、Palm OS Emulator のドキュメントを調べてください。

2.3.1 TCP/IP 構成

Palm OS Emulator for TCP/IP を構成するには、次の手順を実行します。

1. Windows から Palm OS Emulator を起動します。
2. 適切な ROM イメージを選択します（最初のセッションでのみ必要）。
3. Palm OS Emulator のイメージを右クリックし、「Settings」→「Properties」を選択します。
4. チェック・ボックス「Redirect NetLib calls to host TCP/IP」を選択します。
5. 「OK」ボタンを選択します。

この章では、**Mobile** サーバーを使用したレプリケーションについて説明します。内容は次のとおりです。

- 3.1 項「概要」
- 3.2 項「Oracle サーバーとデバイス間でのデータ型のマッピング」
- 3.3 項「パブリッシュ・サブスクライブ・モデル」
- 3.4 項「パブリッシュ・サブスクライブ・メソッド固有の関数」
- 3.5 項「Palm OS Emulator のセットアップ」
- 3.6 項「Emulator でのレプリケーションのテスト」
- 3.7 項「Mobile サーバーのシステム・カタログ・ビュー」

3.1 概要

Mobile サーバーにより、携帯端末上のアプリケーションやデータを Oracle サーバーとレプリケート、同期および共有できます。デバイス上のデータは、Mobile サーバーを介して Oracle データ・サーバーに直接マップできます。Mobile サーバーでは、モバイル・デバイスのデータ・サブセット化ポリシーを管理するパブリッシュ・サブスクライブ・モデルが使用されます。デバイス上のデータは、次のいずれかの転送方法で Mobile Sync を使用して Oracle データベースと同期されます。

- HTTP
- HotSync、Network HotSync (Palm OS マシン用)

MGP (Message Generator and Processor) は、クライアント・デバイスで実行中のアプリケーションからトランザクションをアップロードする Java バックグラウンド・プロセスです。MGP は、Oracle データベースにトランザクションを適用します。クライアント・デバイスがダウンロードする新規の更新内容 (データ) も生成します。MGP の管理の詳細は、『Oracle9i Lite 管理者ガイド』を参照してください。

3.1.1 パブリケーションとサブスクリプション

Mobile サーバーでは、パブリケーションとサブスクリプションを利用して、ユーザー操作を処理します。パブリケーションには、Oracle データベースの表またはビューに対して定義された問合せであるパブリケーション項目が含まれます。パブリケーション項目は、オプションでパラメータ化されます。パブリケーションは、1 人以上のユーザーによってサブスクライブされます。Mobile サーバーは、デバイスのユーザーを追跡します。確立されたサブスクリプションを介して、Mobile サーバーは各クライアント・デバイスに対する新規データを準備します。データは、行単位で水平に、または列単位で垂直にパーティション化できます。データのうち必要なサブセットのみが各クライアントにダウンロードされます。

Mobile サーバーのパブリッシュ・サブスクライブ・モデルでは、各パブリケーションに複数のパブリケーション項目を含むことができます。パブリケーション項目は、通常デバイス上の表にマップされます。パブリケーション項目内の表の列は改名できます。各パブリケーション項目には、複数のパラメータを含むことができます。詳細は、[3.3 項](#)を参照してください。

3.1.2 クライアント・デバイス・データベースの DDL 操作

クライアント・デバイスが初めて同期するとき、Mobile Sync は自動的に Mobile サーバーがクライアント・デバイス上にスナップショットの形でデータベース・オブジェクトを作成できるようにします。デフォルトでは、表の主キー索引がサーバーから自動的にレプリケートされます。パブリケーション項目を使用して、デバイス上で 2 次索引を作成できます。1 次索引が必要ない場合は、パブリケーション項目から明示的に削除する必要があります。特定の API 情報は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

3.1.3 データベース・サポート

サーバー側では、Mobile サーバーは Oracle データベースに対して動作します。クライアント側では、Mobile Sync は、Oracle Lite によってサポートされる任意のプラットフォーム上の Oracle Lite データベースとのレプリケーションをサポートします。さらに、Mobile サーバーは、Mobile Sync を使用して Palm Computing Platform 組込みアプリケーション固有のデータベース形式 (Palm データベース) や Puma Technology 社の Satellite Forms データベース形式でレプリケートできます。

3.1.4 ユーザー定義の PL/SQL パッケージのバインド

Mobile サーバーの同期プロセスは、多くの方法でカスタマイズできます。アプリケーション・ロジックは、PL/SQL パッケージをパブリケーション項目にバインドすることで、Mobile サーバーにアタッチできます。パッケージは、BeforeCompose、AfterCompose、BeforeApply および AfterApply の各メソッドを公開する必要があります。Mobile サーバーは、次の作業の前後にこれらのメソッドをコールします。

- クライアントの変更内容を Mobile Sync クライアントに代わってサーバーの表に適用する
- 指定されたパブリケーション項目に対する高速リフレッシュ変更を構成する

Mobile サーバーは、現在の Mobile Sync ユーザー名情報をこれらのメソッドに渡します。

ユーザー定義の PL/SQL パッケージは、データのキャッシュや事前計算ができます。外部キー制約違反の問題も解決できます。詳細は、[3.1.7 項](#)を参照してください。これらのコールの使用の詳細は、[3.4.2 項](#)を参照してください。

3.1.5 データベースのベース・オブジェクトで許可される特殊文字

データベースのベース・オブジェクトでは、表名、ビュー名および列名に、スペースを含む特殊文字がサポートされます。ユーザーは、Mobile サーバーに対して、データベースに格納されているとおりに (多くの場合、大文字を使用)、正確にオブジェクト名を指定する必要があります。

3.1.6 ビューの高速リフレッシュおよび更新操作

Mobile サーバーでは、特定の条件を満たす複合複数表パブリケーションに対する高速リフレッシュ操作と更新操作をサポートしています。高速リフレッシュ中には増分変更がレプリケートされ、完全リフレッシュ中にはすべてのデータが現在のデータでリフレッシュされます。

3.1.6.1 更新可能な親表

ビューを更新可能にするには、親表が必要です。親表には、ビューの任意の実表がなれます。実表のビューの列リストには主キーが含まれており、これはビューの行セットで一意です。ビューを更新可能にする場合は、ビューのスナップショットを作成する前に、Mobile サーバーに適切なヒントとビューの親表を指定する必要があります。

3.1.6.2 親表のヒントと INSTEAD OF トリガーの使用

ビュー・ベースのスナップショットを更新可能にするには、次の2つの方式を使用する必要があります。

- 親表のヒント
- INSTEAD OF トリガー

親表のヒントは、指定されたビューの親表を定義します。親表のヒントは、Consolidator Admin API の ParentHint 関数を使用して指定します。詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』の「ParentHint」を参照してください。

INSTEAD OF トリガーは、INSTEAD OF INSERT、INSTEAD OF UPDATE または INSTEAD OF DELETE の各コマンドを実行するために使用します。さらに INSTEAD OF トリガーは、ビューの実表に対して実行される操作にこれらの DML コマンドをマップします。INSTEAD OF トリガーは、Oracle データベースの機能です。INSTEAD OF トリガーの詳細は、Oracle データベースのドキュメントを参照してください。

3.1.6.3 ビューの高速リフレッシュ

スナップショットは、デフォルトでは高速リフレッシュ用に作成されます。高速リフレッシュでは、変更されたデータのみがレプリケートされます。高速リフレッシュの利点は、同期セッション間での変更が限られている場合に大量のデータを持つデータ・ストアをレプリケートするときのオーバーヘッドが軽減され速度が向上することです。

ビューが次の条件を満たす場合、Mobile サーバーはビューの高速リフレッシュを実行します。

- 各ビューの実表には主キーが必要です。
- すべての実表の主キーは、すべてビューの列リストに含まれている必要があります。
- 項目がビューで、項目の選択条件に複数の表が含まれている場合、選択条件定義に含まれているすべての表が主キーを持ち、対応するスナップショットを持っている必要があります。

ビューでは、親表に対してのみ一意の主キーが必要です。その他の表の主キーは重複してもかまいません。実表の主キー列ごとに、ビューの列名に関するヒントを Mobile サーバーに提供する必要があります。これは、Consolidator Admin API の PrimaryKeyHint を使用して実現できます。詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

3.1.6.4 ビューの完全リフレッシュ

スナップショットは、Consolidator Admin API の CompleteRefresh コールを使用して、完全リフレッシュ用に作成できます。このモードを指定した場合、クライアント・データは同期のたびにサーバーの現在のデータで完全にリフレッシュされます。管理者は、API コールを介して、パブリケーション全体に完全リフレッシュを強制できます。完全リフレッシュ関数は、指定したクライアントに対するパブリケーションの完全リフレッシュを強制的に実行します。詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

3.1.7 更新可能パブリケーション項目の外部キー制約

Oracle データベースとクライアント・デバイスの間で更新可能モードで表をレプリケートするとき、表に参照整合性制約があると、外部キー制約違反が起きる場合があります。外部キー制約違反が発生した場合、サーバーはクライアント・トランザクションを拒否します。

3.1.7.1 外部キー制約違反の例

たとえば、2つの表 EMP と DEPT に参照整合性制約があるとします。DEPT 表の DeptNum (部門番号) 属性は、EMP 表の外部キーです。EMP 表の各従業員の DeptNum 値は、DEPT 表の有効な DeptNum 値である必要があります。

Mobile サーバー・ユーザーが DEPT 表に新しい部門を追加し、次に EMP 表でこの部門に新しい従業員を追加します。トランザクションはまず DEPT を更新し、次に EMP 表を更新します。しかし、データベース・アプリケーションでは、これらの操作を実行した順序を保存しません。

ユーザーが Mobile サーバーをレプリケートする際、Mobile サーバーは最初に EMP 表を更新します。この作業で、DeptNum に対して無効な外部キー値を持つ新規レコードを EMP に作成しようとしています。Oracle データベースにより参照整合性違反が検出されます。Mobile サーバーはトランザクションをロールバックし、トランザクション・データを Mobile サーバーのエラー・キューに置きます。この場合、トランザクション内の操作が元と違う順序で実行されたために、外部キー制約違反が発生しました。

3.1.7.2 BeforeApply および AfterApply での制約違反の回避

PL/SQL を使用すると、DEFERRABLE 制約を BeforeApply 関数および AfterApply 関数とともに使用することで、順序どおりでない操作による外部キー制約違反を回避できます。DEFERRABLE 制約は、INITIALLY IMMEDIATE または INITIALLY DEFERRED のいずれかにできます。DEFERRABLE INITIALLY IMMEDIATE 外部キー制約の動作は、通常の即時

制約と同じです。どちらの制約をアプリケーションに適用しても、機能に違いはありません。

Mobile サーバーは、サーバーにクライアント・トランザクションを適用する前に `BeforeApply` 関数をコールし、トランザクションを適用した後で `AfterApply` 関数をコールします。`BeforeApply` 関数を使用して、制約を `DEFERRED` に設定し、参照整合性検査を遅延できます。トランザクションが適用された後、`AfterApply` 関数をコールして制約を `IMMEDIATE` に設定します。この時点で、クライアント・トランザクションが参照整合性に違反している場合は、ロールバックされエラー・キューに移動されます。

`DEFERRABLE` 制約を使用して外部キー制約違反を回避するには、次の手順に従います。

1. 外部キー制約をすべて削除して `DEFERRABLE` 制約として作成し直します。
2. ユーザー定義の PL/SQL パッケージを、参照整合性制約を持つ表が含まれたパブリケーションにバインドします。
3. PL/SQL パッケージでは、制約を、`BeforeApply` 関数で `DEFERRED` に、`AfterApply` 関数で `IMMEDIATE` に設定します。次は、`SAMPLE3` という名前の表と `address.14_fk` という制約の例を示しています。

```
procedure BeforeApply(clientname varchar2) is
  cur integer;
begin
  cur := dbms_sql.open_cursor;
  dbms_sql.parse(cur, 'SET CONSTRAINT SAMPLE3.address14_fk
    DEFERRED', dbms_sql.native);
  dbms_sql.close_cursor(cur);
end;
procedure AfterApply(clientname varchar2) is
  cur integer;
begin
  cur := dbms_sql.open_cursor;
  dbms_sql.parse(cur, 'SET CONSTRAINT SAMPLE3.address14_fk
    IMMEDIATE', dbms_sql.native);
  dbms_sql.close_cursor(cur);
end;
```

3.1.7.3 表の比率を使用した制約違反の回避

Mobile サーバーでは、表の比率を使用してクライアントの操作をマスター表に適用する順序を決定します。表の比率は整数で表され、次のように実装されます。

1. 最初に、クライアントの `INSERT` 操作が、表の比率の低いものから高いものへと順に実行されます。
2. 次に、クライアントの `DELETE` 操作が、表の比率の高いものから低いものへと順に実行されます。

- 最後に、クライアントの UPDATE 操作が、表の比率の低いものから高いものへと順に実行されます。

3.1.7.1 項にリストされた例では、DEPT 表に EMP 表よりも低い比率を割り当てることで、制約違反エラーを解決できます。たとえば、次のようになります。

(DEPT weight=1, EMP weight=2)

3.1.8 レプリケーション・エラーと競合

Mobile サーバーでは、サーバーが行を削除すると同時にクライアントが更新される場合、Oracle データベースのアドバンスド・レプリケーションとの互換性エラーが発生します。NULL の使用違反や外部キー制約違反などのその他のエラーはすべてレプリケーション・エラーです。

Mobile サーバーでは、レプリケーション・エラーは自動的に解決されません。かわりに、Mobile サーバーは対応するトランザクションをロールバックし、トランザクション操作を Mobile サーバーのエラー・キューに移動します。Mobile サーバーのデータベース管理者は、後でこれらのトランザクション操作を変更して再実行したり、エラー・キューからページできます。

Mobile サーバーのレプリケーション競合は、次の場合に発生します。

- クライアントとサーバーが同じ行を更新する場合
- クライアントとサーバーが同じ主キー値を持つ行を作成する場合
- サーバーが更新する行とクライアントが削除する行が同じ場合

競合解決手法の詳細は、3.4.6 項を参照してください。

3.1.8.1 バージョニング

Mobile サーバーでは、内部バージョニングを使用してレプリケーションの競合を検出します。バージョン番号は、各サーバー・レコードにかぎらず、各クライアント・レコードに対しても管理されます。クライアントの変更内容がサーバーに適用される際、Mobile サーバーはバージョンの不一致を検出し、ウィニング・ルールに従って競合を解決します。

3.1.8.2 ウィニング・ルール

Mobile サーバーは、ウィニング・ルールを使用してレプリケーションの競合を自動的に解決します。次のウィニング・ルールが組み込まれています。

- クライアント優先
- サーバー優先

クライアント優先の場合、Mobile サーバーはクライアントの変更内容を自動的にサーバーに適用します。サーバー優先の場合、Mobile サーバーはクライアントに対する変更内容を自動的に構成します。

Mobile サーバーの競合解決方式は、ウィニング・ルールを「クライアント優先」に設定し、データベース表に BEFORE INSERT、BEFORE UPDATE および BEFORE DELETE の各トリガーをアタッチすることで、カスタマイズできます。トリガーにより、新旧の行の値を比較して指定されたとおりにクライアントの変更内容を解決します。

3.2 Oracle サーバーとデバイス間でのデータ型のマッピング

Mobile サーバーによって同期される Oracle データベースと Oracle Lite データベースの表では、互換性のあるデータ型を使用する必要があります。Oracle データベースのデータ型は、次のデータ型の一部と互換性があります。

- Satellite Forms データ型
- Oracle Lite データベースのデータ型

3.2.1 Oracle Lite データベースのデータ型

Oracle Lite データベースのスナップショットはすべて、レプリケーション時に Consolidator クライアントによって作成されます。Consolidator では、Oracle データベースでのデータ精度に応じて自動的に Oracle Lite データベースのデータ型が選択されます。次の表にデータ変換を示します。Oracle データ型は左側の列に、Oracle Lite データベースのデータ型は最上部分行に表示されています。「X」は無条件にサポートされ、「-」はサポートされないことを示します。1B、2B および 4B のデータ型は、OKAPI 専用のデータ型です。詳細は、『Oracle9i Lite (C および C++) オブジェクト・カーネル API リファレンス』を参照してください。

表 3-1 Oracle Lite データ型

Oracle データベース のデータ型	1B	2B	4B	FLOAT	DOUBLE	DATETIME	LONG- VARIABLE	VARCHAR
INTEGER	X	X	X	X	X	-	-	-
VARCHAR2	-	-	-	-	-	-	-	X
VARCHAR	-	-	-	-	-	-	-	X
CHAR	-	-	-	-	-	-	-	X
SMALLINT	X	X	X	X	X	-	-	-
FLOAT	X	X	X	X	X	-	-	-
DOUBLE PRECISION	X	X	X	X	X	-	-	-
NUMBER	X	X	X	X	X	-	-	-
DATE	-	-	-	-	-	X	-	-
LONG RAW	-	-	-	-	-	-	X	-

表 3-1 Oracle Lite データ型 (続き)

Oracle データベース のデータ型	1B	2B	4B	FLOAT	DOUBLE	DATETIME	LONG- VARIABLE	VARCHAR
LONG	-	-	-	-	-	-	-	X
BLOB	-	-	-	-	-	-	X	-
CLOB	-	-	-	-	-	-	-	-

3.2.2 Satellite Forms データ型

Mobile サーバーでは、Oracle データベースと Satellite Forms のデータ型間のデータ変換が必要に応じて自動的に実行されます。次の表にデータ変換を示します。Oracle データ型は左側の列に、Satellite Forms データ型は最上部行に表示されています。「X」は無条件にサポートされること、「S」は検証が必要なこと、「-」はサポートされないことを示します。

表 3-2 Satellite Forms データ型

	Character	Numeric	Date	Time	Ink	Timestamp
INTEGER	S	X	-	-	-	-
VARCHAR2	X	S	S	S	-	S
VARCHAR	X	S	S	S	-	S
CHAR	X	S	S	S	-	S
SMALLINT	S	X	-	-	-	-
FLOAT	S	X	-	-	-	-
DOUBLE PRECISION	S	X	-	-	-	-
NUMBER	S	X	-	-	-	-
DATE	S	-	X	X	-	X
LONG RAW	X	S	S	S	S	S
LONG	X	S	S	S	S	S
BLOB	X	S	S	S	S	S
CLOB	-	-	-	-	-	-

3.3 パブリッシュ・サブスクライブ・モデル

Mobile サーバーではパブリッシュ・サブスクライブ・モデルを使用して、Oracle サーバーと携帯端末間のデータ配分を集中管理します。パブリッシュ・サブスクライブ・モデルは、Web-to-Go API および Consolidator Admin API を使用して、特定の専用機能を起動するようプログラムで実装できます。これらの API はどちらも Mobile サーバーの一部です。

このモデルには、次の要素が含まれています。

表 3-3 パブリッシュ・サブスクライブ・モデルの要素

項目	説明
パブリケーション	パブリケーションは、パブリケーション項目のグループです。
パブリケーション項目	パブリケーション項目は、ユーザーがアクセスできるデータ・サブセットを指定する SQL の Select 文です。パブリケーション項目は、通常クライアント・デバイス上のスナップショット（レプリカ表とも呼ばれる）に対応します。
サブスクリプション	サブスクリプションは、ユーザーをパブリケーションに対応付けます。サブスクリプション・パラメータを含む場合もあります。
ユーザー	<p>ユーザーは、ユーザー名とパスワードで定義されます。Mobile サーバーは、クライアントのサブスクリプションに従ってデータを同期します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ ユーザーは単一のユーザー名を使用して、複数のデバイスに格納されたデータを同期できます。ユーザーがデバイスを変更すると、Mobile サーバーにより新規デバイス上でそのユーザーの全サブスクリプションの完全リフレッシュが実行されます。 ■ ユーザーは、複数のユーザー名を使用して、単一のデバイス上のデータを同期できます。ユーザー名を変更しようとするとき、Mobile サーバーによりクライアントの更新内容はすべて無視され、クライアントの全サブスクリプションの完全リフレッシュが実行されます。
サブスクリプション・パラメータ	サブスクリプション・パラメータは、名前と文字列値を使用して、個々のパブリケーションに対する個々のクライアントのサブスクリプションを定義します。サブスクリプション・パラメータを使用すると、クライアントはデータのサブセット化を実行し、各クライアントに割り当てられる行数を制限できます。通常サブスクリプション・パラメータには、ユーザー名とアプリケーション固有の値、たとえば社員番号のエリア・コードなどを含めることができます。

3.3.1 パブリッシュ・サブスクライブ・モデルの実装

Mobile サーバーのパブリッシュ・サブスクライブ・モデルを実装するには、次の手順を実行します。

1. Mobile サーバーに接続します。
2. ユーザーを作成します。
3. パブリケーションを作成します。
4. パブリケーション項目を作成し、ウィニング・ルールを設定します。
5. パブリケーションにパブリケーション項目を追加します。
6. 必要に応じて、パブリケーション項目索引を作成します。
7. 順序を作成します。
8. ユーザーをパブリケーションにサブスクライブします。
9. クライアントの順序をパーティション化します。
10. パブリケーションに対してユーザーのサブスクリプション・パラメータを定義します。
11. サブスクリプションをインスタンス化します。

次のいずれかを使用して、Mobile サーバーのパブリッシュ・サブスクライブ・モデルを実装できます。

表 3-4 パブリッシュ・サブスクライブ・モデルを実装する方法

実装メソッド	定義
パッケージ・ウィザード	お薦めする方法です。詳細は、 第 6 章 を参照してください。
Pure Java メソッド	Web-to-Go API は、Pure Java メソッドを使用して、Java プログラムから実行します。

3.3.2 API リファレンス

この後の項で説明する各メソッドには、それぞれの記載された API ドキュメントの該当箇所がわかるようにラベルが付けられています。Resource Manager パッケージを参照しているエントリは、Web-to-Go API にある Mobile Admin クラスの下位クラスです。Consolidator クラスを参照しているエントリは、Consolidator Admin API の一部です。

`index.htm` ドキュメントからリンクに従うことも、`Oracle_home¥Mobile¥Doc¥javadoc` フォルダを参照することもできます。

注意： Consolidator Admin API では、大 / 小文字を区別されます。Web-to-Go API は、大 / 小文字を区別しません。CLASSPATH 文に、`Consolidator.jar` と `webtogo.jar` の 2 つのファイルが含まれている必要があります。

3.3.3 Mobile サーバーへの接続

ここでは、Mobile Server Admin API を使用して Mobile サーバーに接続する方法を説明します。

Java メソッドの例

```
ResourceManager.openConnection("MOBILEADMIN", "MANAGER");
```

3.3.4 Resource Manager クラスのユーザー関数

ここでは、Web-to-Go API を使用して、ユーザーの作成、パスワードの変更、およびユーザーの削除を行う方法を説明します。

3.3.4.1 ユーザーの作成

`CreateUser()` 関数を使用して、Mobile サーバー・ユーザーを作成できます。構文は次のとおりです。

```
public static boolean createUser(String userName, String password, String fullName, String privilege);
```

次の例では、表にリストされたパラメータを使用してユーザー「MOBILE」を作成します。

表 3-5 ユーザー作成パラメータの例

パラメータ	値	定義
userName	"MOBILE"	モバイル・クライアントのユーザー名を指定します。
password	"MOBILE"	ユーザー名 MOBILE のパスワードを指定します。
fullName	"MOBILEUSER"	ユーザー MOBILE のフル・ネームを指定します。
privilege	"C"	このユーザーが Mobile サーバーに接続できることを指定します。

Java メソッドの例

```
ResourceManager.createUser("MOBILE", "MOBILE", "MOBILEUSER", "C");
```

3.3.4.2 パスワードの変更

Mobile サーバー・ユーザーのパスワードは、SetPassword() 関数を使用して変更できます。構文は次のとおりです。

```
public static void setPassword(String userName, String newpwd);
```

次の例では、ユーザー「MOBILE」のパスワードを変更します。

表 3-6 パスワード設定パラメータの例

パラメータ	値	定義
userName	"MOBILE"	モバイル・クライアントのユーザー名を指定します。
newpwd	"MOBILENEW"	モバイル・クライアントの新しいパスワードを指定します。

Java メソッドの例

```
ResourceManager.setPassword("MOBILE", "MOBILENEW");
```

3.3.4.3 ユーザーの削除

dropUser() 関数を使用して、既存の Mobile サーバー・ユーザーを削除できます。構文は次のとおりです。

```
public static void dropUser(String userName);
```

次の例では、ユーザー「MOBILE」を削除します。

表 3-7 ユーザー削除パラメータの例

パラメータ	値	定義
userName	"MOBILE"	モバイル・クライアントのユーザー名を指定します。

Java メソッドの例

```
ResourceManager.dropUser("MOBILE");
```

3.3.5 パブリケーションの作成

ここでは、パブリケーションを作成する方法を説明します。

3.3.5.1 パブリケーション項目の定義

パブリケーション項目名は、26 文字に制限され、すべてのパブリケーションで一意である必要があります。パブリケーション項目は、表とビューの両方に対して定義できます。

更新可能な複数表ビューをパブリッシュする場合、特定の制限が適用されます。

- ビューには、主キーの定義された親表が含まれている必要があります。
- ビューの DML 操作に対して INSTEAD OF トリガーを定義する必要があります。
- ビューの実表は、すべてパブリッシュする必要があります。

3.3.5.2 データのサブセット化

パブリケーション項目は、合計長が 8k 文字を超えないパラメータ化された SQL 文で定義されます。サブスクリプション・パラメータはこの時点で指定でき、レプリケーション時に、各クライアントに対してパブリッシュされるデータを制限するために使用されます。文字列代入値は、サブスクライブ時にパラメータ値を置き換えるために使用されます。

Consolidator クラスの使用法

CreatePublication 関数を使用して、パブリケーションを作成できます。構文は次のとおりです。

```
public static void CreatePublication(String name, int client_storage_type,
    String client_name_template, String enforce_ri) throws ThrowableConsolidator
```

次の例では、表にリストしたパラメータを持つ「T_SAMPLE1」という名のパブリケーションを作成します。

表 3-8 パブリケーション作成パラメータの例

パラメータ	値	定義
client_storage_type	Consolidator.OKPI_PALM	プラットフォーム・タイプを定義する定数。詳細は、表 3-9 を参照してください。
client_name_template	'%s'	デフォルト。
enforce_ri	null	このパラメータは常に NULL です。

表 3-9 client_storage_type 定数値

定数値	説明
Consolidator.DFLT_CREATOR_ID	デフォルトで、Palm Computing Platform デバイスでは OURL に、その他のデバイスでは OKAPI になります。
Consolidator.ORCL_CREATOR_ID	OURL ライブラリ。
Consolidator.SMSE_CREATOR_ID	Palm Computing Platform デバイス上では Satellite Forms。
Consolidator.OKPI_CREATOR_ID	すべてのデバイス上で OKAPI。
Consolidator.OKAPI_PALM	Palm に限定して OKAPI。
Consolidator.PALMDB_EXPENSE	Palm OS Expense アプリケーション。
Consolidator.PALMDB_DATEBOOK	Palm OS DateBook (Calendar) アプリケーション。
Consolidator.PALMDB_EMAIL	Palm OS EMail アプリケーション。
Consolidator.PALMDB_ADDRESSBOOK	Palm OS Address Book アプリケーション。
Consolidator.PALMDB_TODO	Palm OS Todo アプリケーション。
Consolidator.PALMDB_MEMO	Palm OS Memo アプリケーション。

Java メソッドの例

```
Consolidator.CreatePublication("T_SAMPLE1", Consolidator.OKPI_PALM, "%s", null);
```

注意： クライアントの格納タイプとして Oracle Lite データベースを使用する場合、データベースには拡張子は付きません。

3.3.5.3 Satellite Forms を使用したパブリケーションの作成

Consolidator Admin API および PUMA Satellite Forms を使用してパブリケーションを作成する場合、適用される追加制約があります。詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

client_storage_type パラメータ

Satellite Forms がデータベースを認識するためには、client_storage_type パラメータは、定数値 Consolidator.SMSE_CREATOR_ID を使用する必要があります。

client_name_template パラメータ

client_name_template パラメータは、Satellite Forms により認識されるためには、値 "SFT-EE%s" を使用する必要があります。次の例は、Satellite Forms アプリケーションに有効です。

Java メソッドの例

```
Consolidator.CreatePublication("T_SAMPLE1", Consolidator.SMSE_CREATOR_ID,
"SFT-EE%s", null);
```

3.3.6 パブリケーション項目の作成

ここでは、パブリケーション項目を作成する方法を説明します。

Consolidator クラスの使用方法

CreatePublicationItem 関数を使用してパブリケーション項目を作成できます。構文は次のとおりです。

```
public static void CreatePublicationItem(String name, String owner,
String store, String refresh_mode, String select_stmt, String cbk_owner, String cbk_
name) throws Throwable
```

次の例では、下の表にリストしたパラメータを持つ「P_SAMPLE1」という名のパブリケーション項目を作成します。

表 3-10 パブリケーション項目作成パラメータの例

パラメータ	値	定義
name	P_SAMPLE1	パブリケーションを指定します。この文字列は、26 文字未満である必要があります。
owner	SAMPLE1	SAMPLE1 がベース・オブジェクトの所有者であることを指定します。

表 3-10 パブリケーション項目作成パラメータの例（続き）

パラメータ	値	定義
store	ADDROLRL4P	ADDROLRL4P がベース・オブジェクト名であることを指定します。
refresh_mode	F または C	リフレッシュ・モードを高速または完全として定義します。詳細は、 3.1.6 項 を参照してください。
select_stmt	例を参照	sample1.addrolrl4p の指定した列からデータを選択します。
cbk_owner	null	コールバック・パッケージの所有者を NULL に指定します。詳細は、 3.4.2 項 を参照してください。
cbk_name	null	コールバック・パッケージの所有者名を NULL に指定します。詳細は、 3.4.2 項 を参照してください。

Java メソッドの例

```
Consolidator.CreatePublicationItem("P_SAMPLE1", "SAMPLE1", "ADDROLRL4P", "F" ,
  "SELECT \"LastName\",\"FirstName\", company, phone1, phone2, phone3, phone4,
  phone5, phone1id, phone2id, phone3id, phone4id, phone5id, displayphone,
  address, city, state, zipcode, country, title, custom1, custom2, custom3,
  custom4, note
FROM sample1.addrolrl4p" + " WHERE upper(company) > " + ":COMP", null, null);
```

3.3.6.1 Null Sync コールアウト

Mobile サーバーは、同期中に、クライアント・デバイスが Null Sync を試行中かどうかを示すコールアウトを作成します。Null Sync とは、クライアントにアップロード対象の変更がないことを言います。このコールアウトは、Mobile サーバーのリポジトリ内に PL/SQL パッケージを作成することで実装できます。パッケージでは、次の指定を行う必要があります。

```
create or replace package CUSTOMIZE as procedure
NullSync(p_Client IN varchar2, p_NullSync as boolean);
end CUSTOMIZE;
```

3.3.7 パブリケーション項目名の取得

ここでは、パブリケーション項目名を取得する方法を説明します。

Resource Manager クラスの使用方法

```
public static String getPublicationItemName(String Publication Item, int platform);
```

定数 int platform は、パブリケーション項目の作成対象となったプラットフォームを識別します。定数引数は、「ResourceManager.」で、プラットフォームに応じて、「WTG」、「PALM」、「EPOC」または「WINCE」を後に付けます。詳細は、『Oracle9i Lite Web-to-Go API リファレンス』を参照してください。

次の例では、Palm OS マシンアプリケーションに対して「DEPT」というパブリケーション項目が返されます。

表 3-11 パブリケーション項目名取得パラメータの例

パラメータ	値	定義
PublicationItem	DEPT	スナップショットまたは表を識別する文字列名です。
platform	ResourceManager.PALM	スナップショットの作成対象となったプラットフォーム・タイプを表す定数です。

Java メソッドの例

```
ResourceManager.getPublicationItemName("DEPT", ResourceManager.PALM);
```

3.3.8 パブリケーション項目索引の作成

Mobile サーバーでは、クライアント・デバイス上の Oracle Lite データベースへの索引の自動配布をサポートしています。Mobile サーバーは、主キー索引をサーバー・データベースから自動的にレプリケートします。Consolidator Admin API では、クライアント・デバイスに一意、標準および主キーの各索引を明示的に配布するコールも同様に提供しています。

Consolidator クラスの使用方法

CreatePublicationItemIndex 関数を使用して、パブリケーション項目索引を配布できます。構文は次のとおりです。

```
public static void CreatePublicationItemIndex(String name,
                                             String publication_item, String pmode,
                                             String columns) throws Throwable
```

この例では、パブリケーション項目 P_SAMPLE1 に INDX001 という名のパブリケーション項目索引を作成します。パブリケーション項目索引は、表に定義されたように ZIPCODE 列を含む標準索引です。

表 3-12 パブリケーション項目索引作成パラメータの例

パラメータ	値	定義
name	INDX001	作成するパブリケーション項目索引として INDX001 を定義します。
publication_item	P_SAMPLE1	索引のパブリケーション項目として P_SAMPLE1 を定義します。
pmode	I	索引モードを標準として定義します。
columns	ZIPCODE	索引に ZIPCODE 列を含めます。

Java メソッドの例

```
Consolidator.CreatePublicationItemIndex("INDX001", "P_SAMPLE1", "I", "ZIPCODE");
```

3.3.8.1 クライアント索引の定義

クライアント側の索引は、既存のパブリケーション項目に対して定義できます。3 種類の索引を指定できます。

- P-主キー
- U-一意
- I-標準

注意: パブリケーション項目に「U」または「P」タイプの索引を定義した場合、サーバー上では重複キーの検査は行われません。パブリケーション項目のベース・オブジェクトに同一の制約がない場合、Mobile Sync は重複キー違反で失敗する可能性があります。詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

3.3.9 パブリケーションへのパブリケーション項目の追加

パブリケーション項目を作成した後、これをパブリケーションに対応付ける必要があります。定義を変更するには、パブリケーション項目を削除して新しい定義で作成しなおすか、要件に応じてスキーマの発展を使用します。詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』の「DropPublicationItem」と「AlterPublicationItem」をそれぞれ参照してください。

Consolidator クラスの使用方法

AddPublicationItem 関数を使用して、パブリケーション項目をパブリケーションに追加できます。構文は次のとおりです。

```
public static void AddPublicationItem(String publication, String item,
String columns, String disabled_dml, String conflict_rule, String
restricting-predicate, String weight) throws Throwable
```

次の例では、P_SAMPLE1 という名のパブリケーション項目をパブリケーション T_SAMPLE1 に追加します。追加されるパブリケーション項目のパラメータは次のとおりです。

表 3-13 パブリケーション項目追加パラメータの例

パラメータ	値	定義
publication	T_SAMPLE	新規項目を受け取るパブリケーションとして T_SAMPLE を定義します。
item	P_SAMPLE	追加するパブリケーション項目として P_SAMPLE を定義します。
columns	null	列の名前を変更しないことを指定します。
disabled_dml	null	DML を使用禁止するためのオプションを選択しないことを指定します。その他の値は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。
conflict_rule	S	競合解消においてサーバー優先を定義します。その他の値は、3.3.9.2 項を参照してください。
restricting_predicate	null	高優先順位モードを指定します。制限選択条件は、パブリケーションにパブリケーション項目を追加するときに、パブリケーション項目に割り当てることができます。クライアントが高優先順位モードで同期される場合、選択条件はデバイスにプッシュされるデータを制限するために使用されます。
weight	null	NULL、またはマスター表に対してクライアント操作を実行する優先順位を指定する整数を指定します。詳細は、3.3.9.3 項を参照してください。

Java メソッドの例

```
Consolidator.AddPublicationItem("T_SAMPLE1", "P_SAMPLE1", null, null, "S", null, null);
```

3.3.9.1 読取り専用パブリケーション項目

パブリケーション項目は、DML を使用禁止にすることで、読取り専用として定義できます。詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

3.3.9.2 競合ルールの定義

パブリケーションにパブリケーション項目を追加する場合、クライアント「C」とサーバー「S」のいずれかを優先してレプリケーションの競合を解決するウィニング・ルールを指定できます。Mobile サーバーのレプリケーション競合は、次のいずれかの状況で検出されます。

- クライアントとサーバーで同一行が更新された場合。
- クライアントとサーバーの両方で同じ主キーを持つ行を作成した場合。
- クライアントが削除した行をサーバーが更新した場合。
- クライアントが更新した行をサーバーが削除した場合、Oracle データベースのアドバンスド・レプリケーションとの互換性のためにレプリケーション・エラーと見なされません。
- クライアントのデータが実表に直接適用されない遅延データ処理があるシステム（たとえば、3層アーキテクチャ）の場合、クライアントが最初に行を挿入し、次に同じ行を更新するときに、サーバーが実表にまだ行を挿入していない状況が発生する可能性があります。この場合、C\$ALL_CONFIG の DEF_APPLY パラメータが TRUE に設定されている場合、UPDATE でなく INSERT 操作が実行されます。結果として生じる PK 競合を解決するのは、アプリケーション開発者の責任です。ただし、DEF_APPLY が設定されていない場合、「NO DATA FOUND」例外が発生します（レプリケーション・エラーの処理は後述を参照してください）。
- NULL の使用違反や外部キー制約違反などのその他のエラーはすべてレプリケーション・エラーです。
- レプリケーション・エラーが自動的に解決されない場合、対応するトランザクションがロールバックされ、トランザクション操作は Mobile サーバーのエラー・キューに移動されます。Mobile サーバーのデータベース管理者は、後でこれらのトランザクション操作を変更して再実行したり、エラー・キューからページできます。

詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

3.3.9.3 表の比率の使用

Mobile サーバーでは、表の比率の整数値を使用してクライアントの操作をマスター表に適用する順序を決定します。順序は次のようになります。

1. 最初に、クライアントの INSERT 操作が、表の比率の低いものから高いものへと順に実行されます。
2. 次に、クライアントの DELETE 操作が、表の比率の高いものから低いものへと順に実行されます。
3. 最後に、クライアントの UPDATE 操作が、表の比率の低いものから高いものへと順に実行されます。

3.3.10 パブリケーションへのユーザーのサブスクライブ

次のいずれかの方法を使用して、パブリケーションに対してユーザー・サブスクリプションを作成できます。

Consolidator クラスの使用方法

CreateSubscription 関数を使用して、ユーザーをパブリケーションにサブスクライブできます。構文は次のとおりです。

```
public static void CreateSubscription(String publication, String clientid)
    throws Throwable
```

次の例では、下の表にリストしたパラメータを使用して、クライアント DAVIDL をパブリケーション T_SAMPLE1 にサブスクライブします。

表 3-14 サブスクリプション作成パラメータの例

パラメータ	値	定義
publication	T_SAMPLE1	パブリケーションを T_SAMPLE1 として定義します。
clientid	DAVIDL	クライアントを DAVIDL として定義します。

Java メソッドの例

```
Consolidator.CreateSubscription("T_SAMPLE1", "DAVIDL");
```

3.3.11 順序の作成

Mobile サーバーでは、クライアント・デバイスに対して順序のパーティション化とレプリケーションをサポートしています。

Consolidator クラスの使用方法

CreateSequence 関数を使用して順序を作成できます。構文は次のとおりです。

```
public static void CreateSequence(String name) throws Throwable
```

次の例では、CUSTOM1 という名の順序を作成します。

Java メソッドの例

```
Consolidator.CreateSequence("CUSTOM1");
```


3.3.12 クライアント・デバイスに対する順序のパーティション化

Mobile サーバー・シーケンスを使用して、クライアント・デバイス上で一意の主キーを生成できます。レプリケート・シーケンスを使用するには、最初にこれを作成し、Mobile Sync ユーザー用にパーティション化する必要があります。

Consolidator クラスの使用方法

CreateSequencePartition 関数を使用して、シーケンス・パーティションを作成できます。構文は次のとおりです。

```
public static void CreateSequencePartition(String name, String clientid,
                                         long curr_val, long incr) throws Throwable
```

次の例では、表に指定したパラメータを使用して CUSTOM1 シーケンスをパーティション化します。

表 3-15 シーケンス・パーティション作成パラメータの例

パラメータ	値	定義
name	CUSTOM1	パーティション化する順序として CUSTOM1 を定義します。
clientid	DAVIDL	順序を割り当てるクライアントとして DAVIDL を定義します。
curr_val	1000	順序の初期値として 1000 を定義します。
incr	1	順序の増分値として 1 を定義します。

Java メソッドの例

```
Consolidator.CreateSequencePartition("CUSTOM1", "DAVIDL", 1000, 1);
```

注意： 順序が一意であることを保証するには、一意の開始位置を使用し、サーバー上のクライアント数に等しい増分値を設定します。

3.3.13 パブリケーションに対するクライアント・サブスクリプション・パラメータの定義

一部のパブリケーションにはパラメータがあります。パブリケーションにパラメータがある場合、これらのパラメータをパブリケーションのサブスクリプション用に設定する必要があります。

Consolidator クラスの使用法

SetSubscriptionParameter 関数を使用して、サブスクリプションのインスタンス化パラメータを定義できます。構文は次のとおりです。

```
public static void SetSubscriptionParameter(String publication, String clientid,
                                           String param_name, String param_value) throws Throwable
```

次の例では、表にリストしたパラメータを使用して、クライアント DAVIDL をパブリケーション T_SAMPLE1 にサブスクライブします。

表 3-16 サブスクリプション・パラメータ設定パラメータの例

パラメータ	値	定義
publication	T_SAMPLE1	パブリケーション T_SAMPLE1 を定義します。
clientid	DAVIDL	クライアントを DAVIDL として定義します。
param_name	COMP	パラメータ名を COMP として定義します。
param_value	P	パラメータ値を P として定義します。

Java メソッドの例

```
Consolidator.SetSubscriptionParameter("T_SAMPLE1", "DAVIDL", "COMP", "P");
```

注意： このメソッドは、Consolidator Admin API を使用して作成したパブリケーションに対してのみ使用してください。

3.3.14 サブスクリプションのインスタンス化

サブスクリプションのパブリケーション・パラメータを設定し、サブスクリプションをインスタンス化してサブスクリプション処理を完了します。Mobile サーバーでサブスクリプションをインスタンス化する際、サブスクリプションの完全な内部表現が作成されます。

Consolidator クラスの使用法

InstantiateSubscription 関数を使用して、サブスクリプションをインスタンス化できます。構文は次のとおりです。

```
public static void InstantiateSubscription(String publication,
                                         String clientid) throws Throwable
```

次の例では、表に指定した値を使用して、クライアントのサブスクリプションをパブリケーションに対してインスタンス化します。

表 3-17 サブスクリプションのインスタンス化パラメータの例

パラメータ	値	定義
publication	T_SAMPLE1	パブリケーションを T_SAMPLE1 として定義します。
clientid	DAVIDL	クライアントを DAVIDL として定義します。

Java メソッドの例

```
Consolidator.InstantiateSubscription("T_SAMPLE1", "DAVIDL");
```

3.3.15 代替パブリケーション項目を使用したスキーマの発展

既存のパブリケーション項目に列を追加できます。これらの新しい列は、次に同期される時点で、全サブスクライブ・クライアントにプッシュされます。これは変更済み全パブリケーション項目の完全リフレッシュで達成されます。

- 管理者は、複数の列を追加できます。
- この機能は、すべてのクライアント形式に対してサポートされます。
- クライアントは、サーバーにスナップショット情報をアップロードしません。これは、クライアントがクライアント・データベースでスナップショットを直接変更できないことを意味します。たとえば、Palm 上で Mobile SQL を使用して表を変更することはできません。
- パブリケーション項目のアップグレードは、高優先順位の同期中は遅延されます。これは、ワイヤレスなどの低帯域幅ネットワークの場合に必要です。パブリケーション項目のアップグレードには常に、変更済みパブリケーション項目の完全リフレッシュが必要です。高優先順位フラグが設定されている間、高優先順位のクライアントは古いスナップショット形式を受信し続けます。

- サーバーは、変更されたパブリケーション項目のバージョンを最大 2 個サポートする必要があります。

3.3.15.1 パブリケーション項目の変更

これにより、既存のパブリケーション項目に列を追加できます。

Consolidator クラスの使用法

```
public static void AlterPublicationItem(String name, String select_stmt)
    throws Throwable
```

表 3-18 パブリケーション項目変更パラメータの例

パラメータ	値	説明
name	P_SAMPLE1	パブリケーション項目名を指定する文字列です。
select_stmt	select * from EMP	追加列の含まれた新規パブリケーション項目の Select 文です。

Java メソッドの例

```
Consolidator.AlterPublicationItem("P_SAMPLE1", "select * from EMP");
```

3.4 パブリッシュ・サブスクリブ・メソッド固有の関数

次の機能には、ほとんどのアプリケーション設計で必要でない特殊関数が含まれています。

3.4.1 選択同期

この機能により、モバイル・アプリケーションは、特定の表の同期方法を選択できます。モバイル・アプリケーション（C/C++、Visual Basic または Java を使用して作成されたネイティブ・アプリケーション）は、同期に必要なパブリケーションおよびパブリケーション項目を Mobile Sync API の `ocSetTableSyncFlag()` 関数を使用して決定します。アプリケーションはこの関数をコールし、各表に対して `sync_flag` パラメータを 1（同期）または 0（同期しない）のいずれかに設定します。したがって、表のリストは実行時に動的に変更でき、アプリケーション開発者はプログラムで選択同期を制御できます。詳細は、[5.1.3 項](#)を参照してください。

3.4.2 構成と適用を使用したコールバックのカスタマイズ

パブリケーション項目を作成する際、ユーザーは MGP バックグラウンド・プロセスの適用と構成段階でコールされるカスタマイズ可能パッケージを指定できます。クライアント・データは、MGP によって処理される前に、インキューに入れられます。データは MGP に

よって処理された後、Mobile Sync によってクライアントにプルされる前にアウトキューに入れられます。

これらのプロシージャにより、カスタマイズされたコードをプロセスに取り込むことができます。ユーザー・レベルおよびトランザクション・レベルでのカスタマイズを可能にするために、clientname と tranid が渡されます。

このプロシージャは、インキューのクライアント・データが適用される前にコールする必要があります。

```
procedure BeforeApply(clientname varchar2)
```

このプロシージャは、クライアントのデータがすべて適用された後でコールする必要があります。

```
procedure AfterApply(clientname varchar2)
```

このプロシージャは、tranid を持つクライアントのデータが適用される前にコールする必要があります。

```
procedure BeforeTranApply(tranid number)
```

このプロシージャは、tranid を持つクライアントのデータが適用された後にコールする必要があります。

```
procedure AfterTranApply(tranid number)
```

このプロシージャは、アウトキューが構成される前にコールする必要があります。

```
procedure BeforeCompose(clientname varchar2)
```

このプロシージャは、アウトキューが構成された後にコールする必要があります。

```
procedure AfterCompose(clientname varchar2)
```

3.4.3 カスタマイズ DML 操作の定義

パブリケーション項目を作成すると、そのパブリケーション項目のすべての DML 操作のかわりに、Mobile サーバー・リポジトリに格納されているカスタマイズ PL/SQL プロシージャをコールするように、Java を使用して指定できます。各パブリケーション項目には、Mobile DML プロシージャは 1 つしかありません。プロシージャは、次のような構造で作成されます。

```
AnySchema.AnyPackage.AnyName(DML in CHAR(1), COL1 in TYPE, COL2 in TYPE, COLn.., PK1 in TYPE, PK2 in TYPE, PKn..)
```

表 3-19 モバイル DML 操作のパラメータ

パラメータ	説明
DML	各行に対する DML 操作です。値は、DELETE の「D」、INSERT の「I」または UPDATE の「U」のいずれかです。
COL1 ... COLn	パブリケーション項目に定義されている列のリストです。列名は、パブリケーション項目の間合せに指定される順序と同じ順序で指定する必要があります。パブリケーション項目が「SELECT * FROM example」を使用して作成されている場合、列の順序は表「example」に指定されている順序と同じである必要があります。
PK1 ... PKn	主キー列のリストです。列名は、実表または親表に指定されている順序と同じ順序で指定する必要があります。

たとえば、次の間合せにより定義されているパブリケーション項目「example」に対して、DML プロシージャが必要になるとします。

```
select A,B,C from publication_item_example_table
```

「A」が「example」の主キー列とすると、DML プロシージャのシグネチャは次のようになります。

```
any_schema.any_package.any_name (DML in CHAR(1), A in TYPE, B in TYPE, C in TYPE, A_
OLD in TYPE)
```

実行時に、このプロシージャは、DML タイプの「I」、「U」または「D」でコールされます。挿入および削除操作の場合、A_OLD は NULL になります。更新の場合は、更新される行の主キーに設定されます。PL/SQL プロシージャを定義した後は、次の API コールを使用してプロシージャをパブリケーション項目に連結できます。

```
Consolidator.AddMobileDmlProcedure("PUB_example", "example", "any_schema.any_
package.any_name")
```

"example" はパブリケーション項目名で、"PUB_example" はパブリケーション名です。

この API コールの詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

3.4.3.1 PL/SQL コードの例

次の PL/SQL コード（一部）は、サンプル・パブリケーションのパブリケーション項目に対する実際の DML プロシージャを定義します。次に説明された ORD_MASTER 表を使用して、間合せは次のように定義されています。

SQL 文

```
SELECT * FROM ord_master", where ord_master has a single column primary key on "ID"
```

ord_master 表

SQL> desc ord_master

Name	Null?	Type
ID	NOT NULL	NUMBER(9)
DDATE		DATE
STATUS		NUMBER(9)
NAME		VARCHAR2(20)
DESCRIPTION		VARCHAR2(20)

コード例

```

CREATE OR REPLACE PACKAGE "SAMPLE11"."ORD_UPDATE_PKG" AS
  procedure UPDATE_ORD_MASTER(DML CHAR, ID NUMBER, DDATE DATE, STATUS
NUMBER, NAME VARCHAR2, DESCRIPTION VARCHAR2, ID_OLD NUMBER);
END ORD_UPDATE_PKG;
/
CREATE OR REPLACE PACKAGE BODY "SAMPLE11"."ORD_UPDATE_PKG" as
  procedure UPDATE_ORD_MASTER(DML CHAR, ID NUMBER, DDATE DATE, STATUS
NUMBER, NAME VARCHAR2, DESCRIPTION VARCHAR2, ID_OLD NUMBER) is
  begin
    if DML = 'U' then
      execute immediate 'update ord_master set id = :id, ddate = :ddate,
status = :status, name = :name, description = '||''''||'from
ord_update_pkg' || ''''||' where id = :id_old'
        using id, ddate, status, name, id_old;
    end if;
    if DML = 'I' then
      begin
        execute immediate 'insert into ord_master values(:id, :ddate,
:status, :name, '||''''||'from ord_update_pkg' || ''''||')'
          using id, ddate, status, name;
      exception
        when others then
          null;
      end;
    end if;
    if DML = 'D' then
      execute immediate 'delete from ord_master where id = :id'
        using id;
    end if;
  end UPDATE_ORD_MASTER;
end ORD_UPDATE_PKG;
/

```

この DML プロシージャを追加する API コールは、次のとおりです。

```
Consolidator.AddMobileDMLProcedure("T_SAMPLE11", "P_SAMPLE11-M", "SAMPLE11.ORD_UPDATE_
PKG.UPDATE_ORD_MASTER")
```

"T_SAMPLE11" はパブリケーション名で、"P_SAMPLE11-M" はパブリケーション項目名です。

3.4.4 仮想主キー

ベース・オブジェクトに主キーが定義されていないパブリケーション項目に対して、仮想主キーを指定できます。仮想主キーは複数の列に対して作成できますが、API は、仮想キーを割り当てるそれぞれの列に対して個別にコールする必要があります。仮想主キーの作成および削除には、いくつかの方法があります。

3.4.4.1 仮想主キー列の作成

これは仮想主キー列を作成します。

Consolidator クラスの使用法

これは、主キーが仮想列である更新可能パブリケーション項目を作成するために使用します。

```
public static void CreateVirtualPKColumn(String owner, String store, String column)
throws Throwable
```

表 3-20 仮想主キー列作成パラメータ

パラメータ	値	説明
owner	SAMPLE1	ベース・オブジェクトの所有者を指定する文字列です。
store	DEPT	ベース・オブジェクトを指定する文字列です。
column	DEPT_ID	主キー列を指定する文字列です。

Java メソッドの例

```
Consolidator.CreateVirtualPKColumn("SAMPLE1", "DEPT", "DEPT_ID");
```


3.4.4.2 仮想主キー列の削除

これにより、仮想主キーを削除できます。

Consolidator クラスの使用方法

```
public static void DropVirtualPKColumn(String owner, String store) throws Throwable
```

表 3-21 仮想主キー列の削除パラメータ

パラメータ	値	説明
owner	SAMPLE1	ベース・オブジェクトの所有者を指定する文字列です。
store	DEPT	ベース・オブジェクトを指定する文字列です。

Java メソッドの例

```
Consolidator.DropVirtualPKColumn("SAMPLE1", "DEPT");
```

3.4.5 制限選択条件

選択条件は、パブリケーションにパブリケーション項目を追加するときに、パブリケーション項目に割り当てることができます。クライアントが高優先順位モードで同期される場合、選択条件はデバイスにプッシュされるデータを制限するために使用されます。このパラメータは、NULL にできます。このパラメータは、上級者向けです。

3.4.6 エラー・キューを使用した競合の解決

作成したパブリケーション項目ごとに、対応するエラー・キューが別個に作成されます。このキューの目的は、未解決の競合が原因で失敗するトランザクションを格納することです。管理者は、エラー・キュー・データまたはサーバーのエラー・キューを変更することで競合の解決を試みることができ、続いて Execute Transaction API コールを介してトランザクションの再適用を試みることもできます。管理者は、Purge Transaction API コールを介してエラー・キューのページを試みることもできます。

3.4.6.1 トランザクションの実行

トランザクション実行関数は、Mobile サーバーのエラー・キュー内のトランザクションを再実行します。

Consolidator クラスの使用方法

```
public static void ExecuteTransaction(String clientid, long tid)
    throws Throwable
```

表 3-22 トランザクション実行パラメータ

パラメータ	説明
clientid	Mobile Sync クライアント名です。
tid	トランザクション ID です。エラー・キューに表示される生成文字列です。

Java メソッドの例

```
Consolidator.ExecuteTransaction("DAVIDL", 100002);
```

3.4.6.2 トランザクションのパージ

トランザクションのパージ関数は、Mobile サーバーのエラー・キューからトランザクションをパージします。

Consolidator クラスの使用方法

```
public static void PurgeTransaction(String clientid, long tid) throws Throwable
```

表 3-23 トランザクションのパージ・パラメータ

パラメータ	値	説明
clientid	DAVIDL	Mobile サーバー・ユーザー名です。
tid	100001	トランザクション ID です。エラー・キューに表示される生成文字列です。

Java メソッドの例

```
Consolidator.PurgeTransaction("DAVIDL", 100001);
```

3.5 Palm OS Emulator のセットアップ

Palm 用 Mobile Development Kit は、Windows Development システムにすでにインストールされています。Palm Computing Platform では、いくつかの共有ライブラリと Palm アプリケーションを使用できます。

- **okapi.prc** – これは、全 OKAPI 関数の含まれたコア共有ライブラリです。
- **olLibC.prc** – 標準の C ライブラリです。
- **odbc.prc** – ODBC 共有ライブラリです。
- **ocHttpTransport.prc** – 標準の HTTP 転送ドライバです (OCAPI で使用)。

必要に応じて、次のオプションの項目をインストールできます。

- **msync.prc** – Mobile Sync プログラムです。
- **msql.prc** – Mobile SQL を使用して開発者が Palm 用の Oracle Lite データベースを問い合わせることを可能にします。
- **ocCompressTransport** – 圧縮転送ドライバです (OCAPI で使用)。これは、圧縮を実装する場合にのみ必要です。

Palm 共有ライブラリとアプリケーションを Palm OS Emulator で使用するには、次の手順を実行します。

1. Palm OS Emulator アプリケーションを起動します。
2. *Oracle_Home\Mobile\SDK\Palm\runtime\shlib* ディレクトリにある次の共有ライブラリとアプリケーション・ファイルを、Palm OS Emulator にドラッグ・アンド・ドロップします。
 - **okapi.prc**
 - **olLibC.prc**
 - **odbc.prc**
 - **ocHttpTransport.prc**
3. mSQL および mSync をインストールする場合は、次のファイルを *Oracle_Home\Mobile\SDK\Palm\runtime\bin* から Palm OS Emulator にドラッグ・アンド・ドロップします。
 - **msync.prc**
 - **msql.prc**

Palm Desktop 上に次の 2 つのアイコンが新しく表示されます。

- Mobile SQL アプリケーション用の **mSQL**
- Mobile Sync Client アプリケーション用の **mSync**

図 3-1 Mobile SQL アイコンと Mobile Sync アイコン



これらのファイルが正しくインストールされていることを確認するには、次のようにします。

1. Palm Desktop から「メニュー」を選択します。
2. メニュー選択バーから「アプリケーション」→「削除」を選択します。
3. インストール済みのアプリケーションと共有ライブラリが、すべてリストされます。OL_SYNC、mSQL、ORACLE LITE 索引および ORACLE LITE DBMS を検索します。
4. 削除しないで終了するには、「終了」をクリックします。

図 3-2 インストールされるファイル



3.6 Emulator でのレプリケーションのテスト

mSync クライアント・アプリケーションを起動します。

Palm 用の Mobile クライアントでは、同期に次のパラメータが必要です。

表 3-24 Mobile クライアント・パラメータ

パラメータ	説明
ユーザー名	Mobile クライアント・ユーザー名です。このフィールドは大 / 小文字を区別しません。
パスワード	Mobile クライアント・パスワードです。このフィールドは大 / 小文字を区別します。
変更	このボックスは空白のままにします。
パスワードを保存	パスワードを保存するには、このチェック・ボックスを選択します。
http://<mobile server>	Mobile サーバーの IP アドレスです。
プロキシ使用	必要であれば、選択します。

重要： レプリケーションのデモを行うために、この章では **Sample Orders** デモが使用されています。このサンプル・デモは、別個にインストールする必要があります。**Sample Orders** デモ・アプリケーションのインストールに関する情報は、『Oracle9i Lite インストールおよび構成ガイド』を参照してください。Sample Orders デモの詳細は、[第 4 章](#)を参照してください。

SAMPLE11 サンプル・アプリケーションを利用するには、次のユーザー名とパスワードを使用します。ユーザー作成アプリケーションおよびユーザー・スナップショットには、別個のユーザー名とパスワードを指定する必要があります。

- ユーザー名 = S11U1
 - パスワード = MANAGER
1. Mobile クライアント・アプリケーションを起動するには、「mSync」アイコンをクリックします。「mSync」画面が表示されます。

図 3-3 Oracle Mobile Sync 画面

mSync

ユーザー名: S11U1
パスワード: MANAGER

変更 パスワードを保存

http://198.162.0.1...../Consolidator

プロキシ使用 セキュア

キャンセル 適用 OK 同期

2. 必要なフィールドに情報を入力します。「パスワードを保存」チェック・ボックスを忘れずに選択してください。「http://」フィールドには、画面名または IP アドレスを含めることができます。
3. 「適用」ボタンをクリックします。
4. 「同期」ボタンをクリックします。

構成、送信、受信および処理の各同期タスクの完了を示す進行状況バーが表示されます。進行状況バーには、各作業の完了に要する時間も表示されます。同期が正常に実行されると、同期成功画面が表示されます。同期に失敗すると、同期が失敗したというメッセージが表示されます。同期に失敗した原因を判断するには、サーバー管理者は Mobile サーバーのログ・ファイルで追跡情報を表示できます。

3.7 Mobile サーバーのシステム・カタログ・ビュー

Mobile サーバーには、Mobile サーバーのコンポーネントを検索するためのシステム・カタログ・ビューが含まれています。Consolidator Admin API を使用せずにシステム・カタログ・ビューを変更しないでください。次の項目を検索するには、Mobile サーバーのシステム・カタログ・ビューを使用します。

- Mobile サーバーのユーザー
- パブリケーション
- サブスクリプション
- 順序
- シーケンス・パーティション
- スタンドアロン・パブリケーション項目
- エラー
- パブリケーションに追加されたパブリケーション項目
- パブリケーション項目索引
- サブスクリプション・パラメータ

詳細は、[付録 A](#) を参照してください。

Orders サンプル・アプリケーション

この章では、Palm 用 Mobile Development Kit のサンプル・アプリケーションについて説明します。内容は次のとおりです。

- [4.1 項「概要」](#)
- [4.2 項「Orders サンプル・アプリケーションのファイル」](#)
- [4.3 項「Sample Orders アプリケーションを使用可能にする方法」](#)
- [4.4 項「Palm Computing Platform 用のサンプル・アプリケーションの使用方法」](#)
- [4.5 項「デバイスでのサンプル・アプリケーションのインストール」](#)
- [4.6 項「デバイスへのデータのレプリケート」](#)

4.1 概要

Palm OS 用 Mobile Development Kit には、Oracle Lite データベースと Mobile サーバーを使用してレプリケーション可能なアプリケーションを作成する方法を示す Orders サンプル・アプリケーションが含まれています。

アプリケーションのユーザー・インタフェースには、受注のマスター・リスト、各受注の詳細な明細品目、各明細品目の数量確認が含まれています。サンプル・アプリケーションは、受注データを Oracle サーバー上の 2 つの表の間でレプリケートします。また、サンプルでは索引を使用して、個々の受注明細品目に対して実行される検索の速度を向上させています。

Orders サンプル・アプリケーションのこのリリースでは、Palm OS マシンおよび Palm OS Emulator をサポートしています。

4.2 Orders サンプル・アプリケーションのファイル

Palm 用 Orders サンプル・アプリケーションは、次のファイルで構成されます。

表 4-1 Palm Computing Platform のファイル

ディレクトリ/ファイル	説明
<code>Oracle_Home\Mobile\SDK\palm\sdk\examples\cw\okDemo\okDemo.r8.mcp</code>	サンプル・アプリケーション・プロジェクト・ファイル。
<code>Oracle_Home\Mobile\SDK\palm\sdk\examples\cw\okDemo\okDemoStatic.prc</code>	コンパイル済みアプリケーション・ファイル。すぐにインストールおよび実行できます。
<code>Oracle_Home\Mobile\SDK\palm\sdk\examples\cw\okDemo\Src</code>	サンプル・アプリケーションのソース・コード・ファイルの含まれるディレクトリ。

4.3 Sample Orders アプリケーションを使用可能にする方法

Palm OS Emulator で Sample Orders アプリケーションを使用するには、次のようにします。

- `Oracle_Home\Mobile\SDK\palm\sdk\examples\cw\okdemo` ディレクトリの `okDemoStatic.prc` ファイルを Palm OS Emulator にドラッグします。

4.4 Palm Computing Platform 用のサンプル・アプリケーションの使用方法

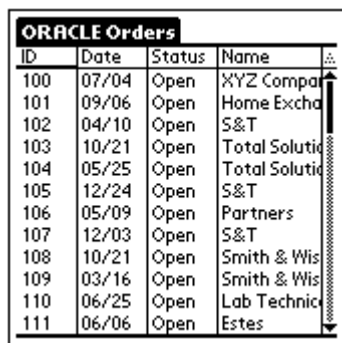
サンプル・アプリケーションでは次のフォームが使用されます。

- Main
- Order
- Item

4.4.1 Main フォーム

アプリケーションを起動すると、Main フォームが表示されます。Main フォームには、データベース内の受注がリストされます。

図 4-1 Palm 用の Main フォーム



ID	Date	Status	Name	...
100	07/04	Open	XYZ Compa	↑ ↓
101	09/06	Open	Home Exchd	
102	04/10	Open	S&T	
103	10/21	Open	Total Soluti	
104	05/25	Open	Total Soluti	
105	12/24	Open	S&T	
106	05/09	Open	Partners	
107	12/03	Open	S&T	
108	10/21	Open	Smith & Wis	
109	03/16	Open	Smith & Wis	
110	06/25	Open	Lab Technic	
111	06/06	Open	Estes	

4.4.2 ソート順序の変更

Main フォームのソート列を変更するには、変更するソート列のヘッダーをクリックします。表の選択した列がソートされます。昇順と降順を切り替えるには、表ヘッダーの右側の矢印をクリックします。

4.4.3 Order フォーム

単一受注の情報を表示するには、表で受注品目をクリックします。Order フォームが表示されます。

図 4-2 Order フォーム

ID	Date	Description
1	07/04	Nails (1000)
2	07/04	Hammer
3	07/04	Wrench
4	07/04	Pliers
5	07/04	Handsaw

Done

Order フォームには、受注に関する次の情報が表示されます。

- 会社名
- 受注 ID
- 作成日
- 説明
- ステータス
- (受注の) 受注品目のリスト

Main フォームに戻るには、「Done」ボタンをクリックします。

受注品目を表示または変更するには、リスト・ボックスで品目をクリックします。Order Item フォームが表示されます。

4.4.4 Order Item フォーム

Order Item フォームにより、受注の特定の品目に関する情報の表示や変更ができます。

図 4-3 Order Item フォーム

ID	Date	Description
1	07/04	Nails (1000)
2	07/04	Hammer
3	07/04	Wrench
4	07/04	Pliers
5	07/04	Handsaw

Order Item フォームでは、次の情報を編集できます。

- 受注数量
- 出荷数量
- 受入数量

変更内容をコミットする場合は「Save」をクリックし、破棄する場合は「Cancel」をクリックして、Order フォームに戻ります。

4.5 デバイスでのサンプル・アプリケーションのインストール

Palm Desktop からインストール・ツールを使用します。

注意： サンプル・アプリケーションをインストールするには、デスクトップ PC に Palm Desktop をインストールしておく必要があります。

サンプル・アプリケーションをインストールするには、次の手順を実行します。

1. Palm Desktop プログラム・グループのインストール・ツールを起動します。インストール・ツールの画面が表示されます。
2. 「追加」 ボタンをクリックします。
3. `Oracle_Home¥Lite¥pda40¥palm¥SDK¥examples¥cw¥okdemo` ディレクトリの `okDemoStatic.prc` ファイルを選択します。
4. 「終了」 ボタンをクリックします。
5. デバイスを HotSync クレードルに置きます。
6. 「HotSync」 ボタンをクリックします。Orders サンプル・アプリケーションがデバイスにインストールされます。

4.6 デバイスへのデータのレプリケート

`okdemo` を実行する前に、Palm デバイス上の Mobile Sync Client で「同期」 ボタンをクリックする必要があります。

Mobile Sync Client 名として「S11U1」を、パスワードとして「MANAGER」を使用します。パスワードは大 / 小文字が区別されます。

Palm アプリケーションのプログラミング

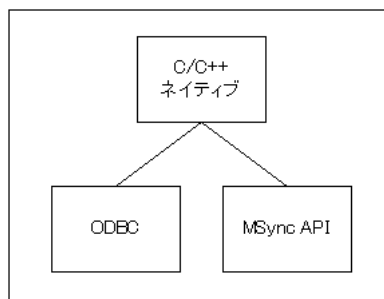
この章では、Palm Computing Platform デバイス用の Oracle Lite データベースのプログラミングについて説明します。内容は次のとおりです。

- 5.1 項「開発インタフェース」
- 5.2 項「Palm Computing Platform 用アプリケーションの開発」
- 5.3 項「Palm OS Emulator でのアプリケーションのテスト」

5.1 開発インタフェース

Oracle Lite データベース・アプリケーションは、ODBC または Oracle Lite オブジェクト・カーネル API (OKAPI) を使用する C/C++ のネイティブ・アプリケーションを使用または作成して開発できます。

図 5-1 開発インタフェース



5.1.1 ODBC

Open Database Connectivity (ODBC) は、SQL データベースにアクセスするためのコール・レベル・インタフェースです。ODBC にはデータベースへの接続、SQL 文の実行、問合せ結果の取得などのための一連の関数が指定されています。ODBC は、ほとんどのデータベース・ベンダーでサポートされ幅広く使用されている仕様であり、最も可搬性があります。

ODBC for the Palm Computing Platform では、ODBC 3.0 インタフェースのサブセットをサポートしています。詳細は、[付録 C](#) を参照してください。ODBC インタフェースの詳細は、ODBC 3.0 のドキュメントを参照してください。

5.1.2 Oracle Lite オブジェクト・カーネル API

Oracle Lite オブジェクト・カーネル API (OKAPI) は、アプリケーションが Oracle Lite のオブジェクト・カーネルに直接アクセスできるようにする C/C++ 言語のインタフェースです。OKAPI インタフェースを使用して、限定されたシステム・リソースを最も有効に活用する Oracle Lite アプリケーションを作成できます。OKAPI を使用するアプリケーションは、オブジェクト・カーネルに直接アクセスするため、その他のインタフェースにアクセスするアプリケーションより少ないリソースで高速に実行できます。

OKAPI ライブラリは、トランザクション、問合せ、挿入、更新および削除などの一般的な操作のほとんどをサポートしています。Oracle Lite OKAPI の詳細は、『Oracle9i Lite (C および C++) オブジェクト・カーネル API リファレンス』を参照してください。

5.1.3 Mobile Sync API

Mobile Sync API を使用すると、アプリケーションはデータベースとの同期をクライアント・デバイスから開始および監視でき、Mobile サーバーから起動する必要はありません。デフォルトの転送方法は HTTP ですが、他の転送形式が使用できる場合は、それを指定できます。

5.1.3.1 ocSessionInit

同期環境を初期化します。

構文

```
int ocSessionInit( ocEnv *env );
```

パラメータ

Env

戻される同期環境を保持する ocEnv 構造体バッファへのポインタ。

コメント

このコールは ocEnv 構造体を初期化して、最後の ocSaveUserInfo() コールで保存されたユーザー設定をリストアします。ocEnv 構造体へのポインタはパラメータとして渡され、コール側で割り当てる必要があります。ocSessionInit() コールの後、コール側でユーザー設定情報を上書きする場合は、ocSaveUserInfo() をコールします。コール側は、ocEnv 構造体用のメモリーを割り当てる必要があります。

Mobile Sync は、5 つの C/C++ ファンクション・コールと 1 つの制御構造で構成され、ocapi.h および ocapi.dll に定義されています。

5.1.3.2 ocSessionTerm

同期環境の解放とクリーン・アップを実行します。

構文

```
int ocSessionTerm( ocEnv *env );
```

パラメータ

Env

ocSessionInit によって戻された環境構造体へのポインタ。

コメント

ocSessionInit() コールによって作成された構造体とメモリーをすべて消去します。ocSessionInit() と ocSessionTerm() は常に一対でコールする必要があります。

5.1.3.3 ocSaveUserInfo

ユーザー設定を保存します。

構文

```
int ocSaveUserInfo( ocEnv *env );
```

パラメータ

Env

同期環境へのポインタ。

コメント

この関数は、ユーザー設定をクライアント側のファイルまたはデータベースに保存します。環境構造体で指定された次の情報が保存されます。

- Username
- Password
- SavePassword
- NewPassword
- Priority
- Secure
- PushOnly
- SyncApps
- SyncNewPublication

これらのフィールドの使用方法は、[5.1.4 項](#)を参照してください。

5.1.3.4 ocDoSynchronize

同期プロセスを開始します。

構文

```
int ocDoSynchronize( ocEnv *env );
```

パラメータ

Env

同期環境へのポインタ。

コメント

この関数は、同期サイクルを開始します。syncDirectionが0（デフォルト）の場合、ラウンドトリップ同期がアクティブにされます。syncDirectionが1の場合、アップロード（送信操作）のみが実行されます。syncDirectionが2の場合、ダウンロード（受信操作）のみが実行されます。クライアント・デバイスがサーバーからのデータのダウンロードを必要としない場合、アップロードのみの同期を実行すると便利です。

5.1.3.5 ocSetTableSyncFlag

選択同期用の表フラグを更新します。各表に対してこれをコールして、次のセッションに対して同期する（1）かしない（0）かを指定します。このオプションを使用する場合は、ocDoSyncより前に行う必要があります。

構文

```
ocSetTableSyncFlag(ocEnv *env, const char* publication_name,  
const char* table_name, short sync_flag)
```

パラメータ

Env

同期環境へのポインタ。

publication_name

Consolidator Admin APIの一部であるCreatePublication()で使用されます。詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

publication_nameがNULLの場合、sync_flagはパブリケーションのすべての項目に対して適用されます。

table_name

この文字列は、CreatePublication()のclient_name_templateと同じです。OKAPIの場合、これはdatabase_name+'.'+storeになります。このstoreは、CreatePublicationItem()の3番目のパラメータです。CreatePublication()およびCreatePublicationItem()の詳細は、『Oracle9i Lite Consolidator Admin API リファレンス』を参照してください。

sync_flag

1の場合、同期します。0の場合、同期しません。Sync_flagは持続的に格納されているわけではありません。ocDoSynchronize()の前に毎回、ocSetTableSyncFlag()をコールする必要があります。

コメント

この関数により、クライアント・アプリケーションは、特定の表の同期方法を選択できません。

個々の表または個々のパブリケーションに対して `sync_flag` を設定します。`sync_flag = 0` の場合、表は同期されません。

5.1.4 Mobile Sync API のデータ構造

Mobile Sync API の一部である 2 つのデータ構造体 `ocEnv` と `ocTransportEnv` があります。

5.1.4.1 ocEnv

`ocEnv` は、内部的なメモリー・バッファと状態情報を保持するためにすべての Mobile Sync 関数によって使用されるデータ構造体です。この構造体を使用する前に、アプリケーションはこれを `ocSessionInit` に渡して環境を初期化する必要があります。

環境構造体には、Mobile Sync 関数の動作方法を変更するために、コール側が更新できるフィールドも含まれています。

```
typedef struct ocEnv_s {
    // ユーザー情報
    char username[MAX_USERNAME]; // Mobile Sync クライアント ID
    char password[MAX_USERNAME]; // 同期中の認証のための
    // Mobile Sync クライアント・パスワード
    char newPassword[MAX_USERNAME]; // サーバー側での Mobile Sync クライアント・パスワードの
    // 再設定 (フィールドが空白の場合)
    short savePassword; // 1 に設定した場合、'パスワード' を保存
    char appRoot[MAX_PATHNAME]; // クライアント・デバイス上の、ファイル配布のためのディレクト
    // リ・パス
    short priority; // 高優先順位表のみかどうか
    short secure; // 1 に設定した場合、ワイヤ上でデータを暗号化
    enum {
        OC_SENDRECEIVE = 0, // 同期の全ステップ
        OC_SENDONLY, // 送信フェーズのみ
        OC_RECEIVEONLY, // 受信フェーズのみ

        // Palm のみ
        OC_SENDTOFILE, // ローカル・ファイル | pdb への送信
        OC_RECEIVEFROMFILE // ローカル・ファイル | pdb からの受信
    } syncDirection; // 同期方向

    enum {
        OC_BUILDDIN_HTTP = 0, // 組み込みの HTTP 転送方法を使用
        OC_USER_METHOD // ユーザー定義の転送方法を使用
    } trType; // 転送のタイプ

    ocError exError; // 特別なエラー・コード

    ocTransportEnv transportEnv; // 転送制御情報
```

```

// GUI 関連機能のエントリ
progressProc fnProgress; // 追跡の進捗状況へのコールバック。これはオプションです。

// 進捗状況バーに使用される値。0 の場合、進捗状況バーは表示されません。
long totalSendDataLen; // Mobile Sync API で設定され、トランスポートに送信の総バイト数を
// 通知します。最初の fnSend() がコールされる前に設定します。
long totalReceiveDataLen; // トランスポートで設定され、Mobile Sync API に受信の
// 総バイト数を通知します。
// 最初の fnReceive() のコールで設定します。
void* userContext; // ユーザー定義のコンテキスト
void* ocContext; // 内部使用専用
short logged; // 内部使用専用
long bufferSize; // 送信 / 受信のバッファ・サイズ。デフォルトは 0
short pushOnly; // プッシュのみのフラグ
short syncApps; // アプリケーション配布のフラグ
} ocEnv;

```

5.1.4.2 ocTransportEnv

この構造体は、組込み転送関数を上書きするために使用します。構造体に関数のリストを指定することにより、アプリケーションは同期エンジンによって使用されるトランスポート層に対して独自の実装を定義できます。

```

typedef struct ocTransportEnv_s {
void* ocTrInfo; // 転送の内部コンテキスト
// 組込み HTTP 用、ocTrHttp にマップ
connectProc fnConnect; // デバイスからサーバーへの接続を確立する
// プラグイン・コールバック
disconnectProc fnDisconnect; // デバイスからサーバーへの接続を切断する
// プラグイン・コールバック
sendProc fnSend; // データ送信のプラグイン・コールバック
receiveProc fnReceive; // データ受信のプラグイン・コールバック
}ocTransportEnv;

```

5.2 Palm Computing Platform 用アプリケーションの開発

Palm Computing Platform は 32 ビットの POSE ベースのオペレーティング・システムです。CodeWarrior などの Palm Computing Platform 開発ツールを使用するとプロジェクトに Palm OS ファンクション・コールをリンクできます。CodeWarrior を使用して、OKAPI ライブラリへの静的なリンクや実行時の動的なリンクも可能です。

静的リンクでは、リンクした関数はアプリケーション・コードの一部になります。静的リンクには次の利点があります。

- デバッグ時にライブラリ・コードを表示できるため、プログラムがよりデバッグしやすくなります。
- アプリケーションで必要とするコードのみがリンクされます。使用しない関数はリンクされません。

動的リンクには次の利点があります。

- コード・サイズが小さくなります。ライブラリが共有されるため、アプリケーションのコード・サイズはかなり小さくなります。
- 管理が容易です。ライブラリは実行時にバインドされるため、OKAPI が変更されてもユーザーはプログラムを再コンパイルしたり、再リンクする必要がありません。

5.2.4 項で説明するように、OKAPI ライブラリをアプリケーションに静的にリンクするには、プロジェクトに `okapi1.lib` および `okapi2.lib` を含めます。ライブラリを動的にリンクするには、`okapi_stub.lib` を含めます。`okapi_stub.lib` を使用する場合の依存関係の詳細は、2.2.1.2 項を参照してください。

5.2.1 ツール

Oracle Lite for Palm Computing Platform アプリケーションを作成するために次の開発ツールが使用できます。

- 5.2.1.1 項「Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform」
- 5.2.1.2 項「PUMATECH 社の Satellite Forms」
- 5.2.1.3 項「GNU GCC PRC ツール」
- 5.2.1.4 項「Metrowerks 社の CodeWarrior」
- 5.2.1.5 項「Palm OS Emulator」

5.2.1.1 Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform

Oracle Lite Mobile SQL for the Palm Computing Platform を使用すると、Palm Computing Platform デバイス上の Oracle Lite データベースにアクセスし操作できます。詳細は、5.2.3 項を参照してください。

5.2.1.2 PUMATECH 社の Satellite Forms

PUMATECH 社の Satellite Forms は、Palm Computing Platform デバイス用の高速ビジュアル・アプリケーション開発ツールです。

5.2.1.3 GNU GCC PRC ツール

Palm Computing Platform 用の GNU ツールは、インターネット経由で無料ソフトウェアとして入手できます。Windows の 32 ビット・システム用 GNU C コンパイラ (GCC) とデバッガは、次の場所からダウンロードできます。

<http://www.land-j.com/gccwin32.html>

ほとんどの UNIX や Macintosh プラットフォームでは、ツールセットも使用できます。

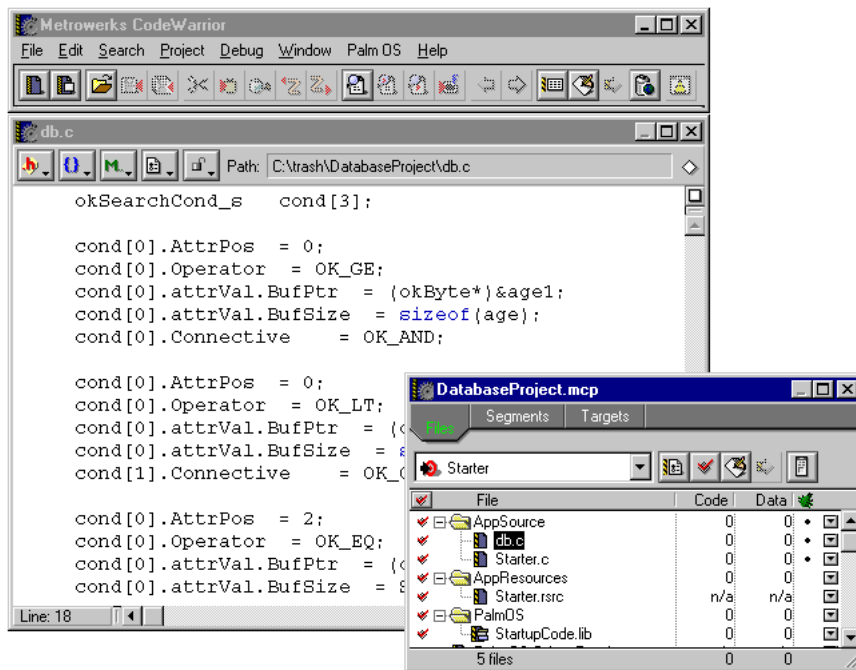
ただし、静的リンクのサポートは開発中です。

5.2.1.4 Metrowerks 社の CodeWarrior

Metrowerks 社の CodeWarrior リリース 7 は、Palm Computing Platform 用の公式開発ツールとして Palm Computing 社が薦める完全対話型の開発環境です。CodeWarrior には、プロジェクト・ビューア、コード・エディタ、リソース・コンストラクタ、コンパイラおよびリモート・デバッガが含まれています。

CodeWarrior のプロジェクト・ビューアとエディタを次に示します。

図 5-2 Code Warrior の画面の例



CodeWarrior は、Metrowerks 社の Web サイトから購入するか、体験版をダウンロードできます。

CodeWarrior で OKAPI アプリケーションを起動する方法の手順は、[5.2.4 項](#)を参照してください。

5.2.1.5 Palm OS Emulator

Palm OS Emulator (POSE) は、デスクトップ・コンピュータ上で Palm Computing Platform アプリケーションを実行できるようにするハードウェア・エミュレータです。Palm OS Emulator をデバッグ・バージョンの Palm OS ROM と自動ソフトウェア・テスターの Gremlin とともに使用すると、特にアプリケーションのテストとデバッグが簡単になります。

Palm OS Emulator は、Palm Computing 社の Web サイトから入手できます。Windows の 32 ビットおよび Macintosh プラットフォームで使用できます。

5.2.2 開発システムでの Oracle Lite データベースの作成

モバイル・データベースを作成するには、次の3つのオプションがあります。

1. 宣言型 — 詳細は、[1.4.2.1 項](#)を参照してください。
2. プログラムを使用 — 詳細は、[1.4.2.2 項](#)を参照してください。
3. 手動 — [5.2.3 項](#)を参照してください。

場合によっては、Mobile サーバーとは別にクライアント・データベースを作成します。Oracle Lite Mobile SQL for the Palm Computing Platform を使用すると、Palm Computing Platform デバイス上に直接データベースを作成して操作できます。OKAPI ファンクショナル・コールを使用してもクライアント・データベースを作成できます。Mobile サーバーとは別に作成したデータベースはレプリケート可能にはなりません。

5.2.3 Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform の使用方法

Oracle Lite Mobile SQL for the Palm Computing Platform を使用すると、Palm Computing Platform デバイス上で Oracle Lite データベースを作成、アクセスおよび操作できます。Oracle Lite Mobile SQL を使用して次のことができます。

- データベースの作成
- 表の表示
- SQL 文の実行

Oracle Lite Mobile SQL は、サポートされるすべてのプラットフォームに標準のツールです。

5.2.3.1 Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform のインストール

Oracle Lite Mobile SQL for the Palm Computing Platform をインストールするには、次の手順を実行します。

1. Palm Desktop プログラム・グループのインストール・ツールを起動します。インストール・ツールの画面が表示されます。
2. 「追加」ボタンをクリックし、`Oracle_Home¥Mobile¥SDK¥palm¥runtime¥bin` ディレクトリの `msql.prc` ファイルを選択します。
3. 「開く」ボタンをクリックします。インストールするファイルのリストにファイル名が表示されます。
4. 「終了」ボタンをクリックします。メッセージ・ボックスで「OK」ボタンをクリックします。
5. Palm Computing Platform デバイスを HotSync クレードルに置き、「HotSync」ボタンをクリックします。

5.2.3.2 Oracle Lite Mobile SQL for Palm Computing Platform の起動

Oracle Lite Mobile SQL for the Palm Computing Platform を起動するには、「アプリケーション」アイコンをクリックし、「MSQL」アイコンをクリックします。「Oracle Lite Mobile SQL」画面にデバイス上の Oracle Lite データベースのリストが表示されます。接続先のデータベース名を選択します。

図 5-3 Mobile SQL



5.2.3.3 Oracle Lite Mobile SQL でのデータベースの新規作成

Palm Computing Platform デバイスでデータベースを新規作成するには、次の手順を実行します。

1. 「メニュー」アイコンをクリックし、「DB 作成」を選択します。ダイアログ・ボックスが表示され、データベース名を要求されます。
2. 新規データベースの名前を入力します。「OK」ボタンをクリックします。Oracle Lite Mobile SQL により新規データベースが作成されます。

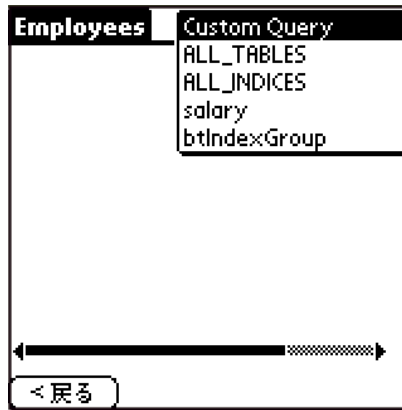
5.2.3.4 Oracle Lite Mobile SQL での表の表示

Oracle Lite Mobile SQL を使用して、データベースの内容を表形式で表示できます。

データベースに接続すると、「テーブルの参照」フォームが表示されます。データベース内の表を表示するには、次の手順を実行します。

1. 「テーブルを選択」ボタンをクリックします。リスト・ボックスに現在のデータベースにある表のリストが表示されます。

図 5-4 Mobile SQL の表



2. リストから表を選択します。Oracle Lite Mobile SQL により表が表示されます。

図 5-5 Mobile SQL の表の例

id	salary	commission
210	900000.0	90000.0
213	10000.0	900.0

結果が 1 画面に表示できない場合は、画面最下部および右側のスクロールバーを使用してデータを表示します。

表のソート順序を変更するには、変更するソート列名をクリックします。ソートの昇順と降順を切り替えるには、列名を 2 回クリックします。列名の最後にある正符号 (+) はソート順が昇順であることを示し、負符号 (-) は降順を示します。

5.2.3.5 Oracle Lite Mobile SQL での SQL の使用方法

Oracle Lite Mobile SQL の SQL ビュー機能を使用すると、SQL 文を実行して Palm Computing Platform デバイスに結果を表示できます。SQL ビューでは、SQL 文を使用して次のことができます。

- 表の作成と削除
- 索引の作成と削除
- 行の挿入、削除、選択および更新

SQL ビューをオープンするには、次の手順を実行します。

1. 「メニュー」アイコンをクリックします。
2. 「ビュー」メニューから「SQL 文実行」を選択します。「SQL 参照」画面が表示されます。

SQL ビューで文を実行するには、次の手順を実行します。

1. 画面最上部のテキスト・フィールドに SQL 文を入力します。SQL ビュー機能は大 / 小文字を区別します。たとえば、サンプル表 ORD_MASTER からすべての値を選択する場合は、次のように入力する必要があります。

```
select * from ORD_MASTER
```

2. 「実行」ボタンをクリックします。結果は「結果」テキスト・ボックスに表示されます。

図 5-6 SELECT 文の例



5.2.4 Metrowerks 社の CodeWarrior でのプロジェクトの作成

ここでは、Metrowerks CodeWarrior 統合開発環境を使用して、Mobile Development Kit (Palm 用) OKAPI アプリケーションを作成する方法を説明します。始める前に、リンクが必要です。

- 静的にリンクする場合は、プロジェクトに **okapi1.lib** および **okapi2.lib** ライブラリを含めます。アプリケーション開発には、静的ライブラリの使用をお勧めします。
- 動的にリンクする場合は、プロジェクトに **okapi_stub.lib** を含めます。このライブラリには、共有ライブラリ関数をコールするためのスタブが含まれています。**okapi_stub.lib** を使用するには、2つの共有ライブラリ **okapi.prc** と **okindex.prc** のいずれか一方または両方が必要です。

OKAPI を静的にリンクする場合も動的にリンクする場合も、プログラムに同じヘッダー・ファイルを含めます。

注意： Metrowerks 社の CodeWarrior リリース 7 の下で実行するようコンパイルされた **oktest.r7.mcp** プロジェクト・フォルダを出発点として使用することをお勧めします。これは、適切なコンパイル・パラメータで事前に構成されています。次のディレクトリにあります。

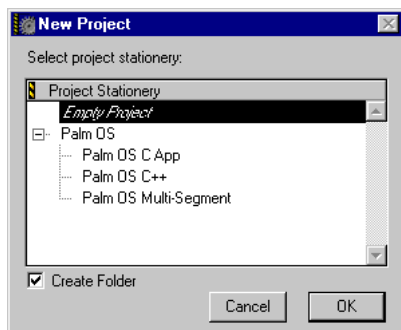
`Oracle_Home\SDK\Mobile\palm\sdk\examples\cw\oktest`

リリース 6 を使用している場合は、**.r6.mcp** というラベルの付いたファイルを使用してください。

静的リンクか動的リンクかを決めた後、プロジェクトを作成します。

1. CodeWarrior IDE プログラムを実行します。
2. 「File」メニューから「New Project」を選択します。Project Stationery のオプションのダイアログ・ボックスが表示されます。

図 5-7 「New Project」メニュー



CodeWarrior 環境では、stationery は、初期プロジェクト設定、ソース・ファイルおよびリソース・ファイルを提供する初期プロジェクトです。「New Project」ダイアログ・ボックスで、C、C++ またはマルチセグメントのプロジェクトを開始できます。

1. 「New Project」ダイアログ・ボックスにリストされている stationery を選択し、「OK」ボタンをクリックします。新規プロジェクトの名前を要求するダイアログ・ボックスが表示されます。
2. 開発ディレクトリを選択し、プロジェクト名を入力します。

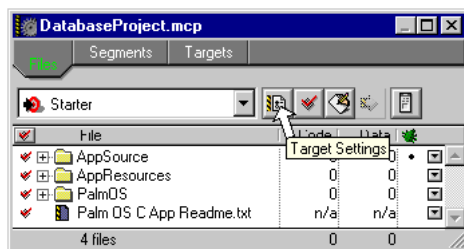
プロジェクトに OKAPI ライブラリを追加します。

1. 「Project」メニューの「Add Files」を選択します。
2. 適切な OKAPI ライブラリ・ファイル（静的リンク用 **okapi1.lib** および **okapi2.lib** または動的リンク用 **okapi_stub.lib**）を検索し、選択します。

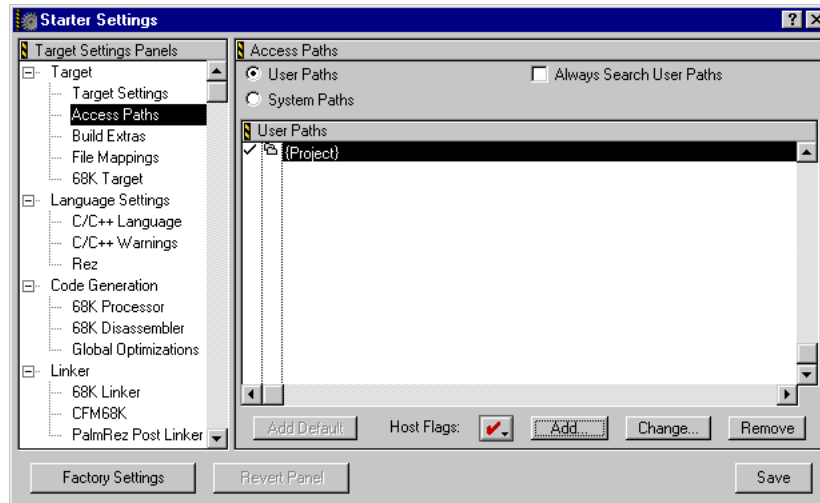
次に、検索パスに OKAPI ヘッダー・ファイルのあるディレクトリを追加します。

1. プロジェクト・ウィンドウのツールバーの「Target Settings」ボタンをクリックします。

図 5-8 ターゲットの設定



- 「Starter Settings」ダイアログ・ボックスの「Access Paths」をクリックします。

図 5-9 アクセス・パス

- 「User Paths」ラジオ・ボタンを選択します。
- 「Add」ボタンをクリックし、OKAPI ヘッダー・ファイルの入っているディレクトリを選択します。
- 「Save」ボタンをクリックします。

これで、ファイルを追加してコーディングを開始できます。

プロジェクトを作成すると、バイナリのプログラム・ファイル（たとえば、**Starter.prc**）が生成されます。プログラムをテストするには、Palm Computing Platform デバイスまたは Palm OS Emulator にインストールします。

詳細は、Metrowerks 社の CodeWarrior のドキュメントを参照してください。OKAPI の使用方法の詳細は、『Oracle9i Lite (C および C++) オブジェクト・カーネル API リファレンス』を参照してください。

5.3 Palm OS Emulator でのアプリケーションのテスト

次の項では、Metrowerks 社の CodeWarrior および Satellite Forms を使用して開発したアプリケーションをテストするために必要な手順を説明します。

5.3.1 Metrowerks 社の CodeWarrior で作成したアプリケーションのテスト

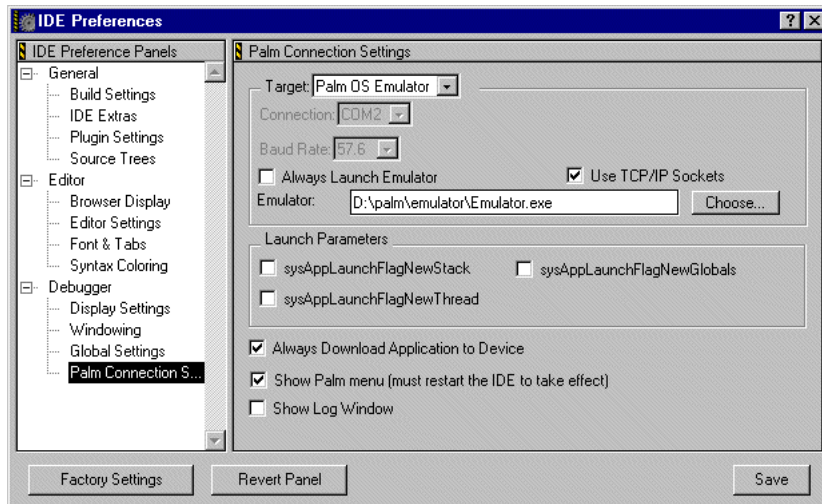
開発者は、**Starter.prc** というバイナリ・ファイルを生成する Metrowerks プロジェクトを作成する必要があります。アプリケーションをテストするには、次の手順を実行します。

1. Palm OS Emulator を起動します。
2. **Starter.prc** を Palm OS Emulator にドラッグします。
3. Palm OS Emulator からアプリケーションを起動します。
4. アプリケーションをテストします。

CodeWarrior に組み込まれたツールを使用してアプリケーションをデバッグする場合は、デバッグ・ツールを構成した後でアプリケーションを実行する必要があります。

1. 「Edit」メニューから「Preferences」を選択し、「Debugger」ブランチをオープンし、「Palm Connection Setting」ブランチ・メニューをオープンします。続いて、「Target」に「Palm OS Emulator」を選択します。

図 5-10 CodeWarrior の「Preferences」



2. プロジェクト・ファイルをオープンします。
3. メニュー・バーから「Palm」を選択し、「Launch Emulator」オプションを使用して Palm OS Emulator を起動します。
4. 「Project」メニューから「Enable Debugger」を選択します。
5. 「Project」メニューから「Debug」を選択するか、[F5] キーを押します。
6. アプリケーションを実行します。

5.3.2 Palm OS マシンでのアプリケーションのテスト

Palm OS マシンでのアプリケーションのテストは、次の2つのステップに分けられます。

- データ・レプリケーションのテスト
- アプリケーション・ロジックのテスト

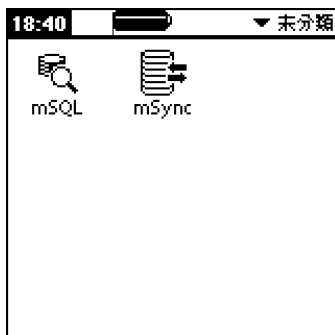
開発者は、最初にデータベース / パブリケーション項目をテストした後、アプリケーション・ロジックをテストすることをお勧めします。パブリケーション項目はすでに作成されているので、レプリケーションを使用して Palm OS マシンにスナップショットを作成するのが便利であり、お勧めします。

5.3.2.1 Palm OS マシンでの Mobile Development Kit のインストール

使用できる Palm OS マシンおよび開発システムに付属のクレードルを使用して、次の手順を実行します。

1. 「スタート」メニューからインストール・ツール・プログラムを実行するか、**instapp.exe** ファイルを検索して実行します。
2. 「追加」ボタンをクリックします。
3. 「ブラウズ」ボタンをクリックして、`Oracle_Home¥Mobile¥SDK¥Palm¥runtime¥` ディレクトリにナビゲートします。ここには、2つのサブディレクトリがあります。`¥shlib` ディレクトリからは、**odbc.prc**、**okapi.prc**、**ollibc.prc** および **ocHttpTransport.prc** をインストール・リストに追加します。`¥bin` サブディレクトリからは、**msync.prc** と **msql.prc** をインストール・リストに追加します。
4. 「終了」ボタンをクリックして、インストール・ツールをクローズします。
5. HotSync アプリケーションが実行されていない場合は、これを実行します。
6. Palm OS マシンを HotSync クレードルに置きます。クレードルの「HotSync」ボタンをクリックします。
7. 共有ライブラリをインストールした後、Palm OS マシンを再起動します。

図 5-11 Mobile Development Kit アイコン



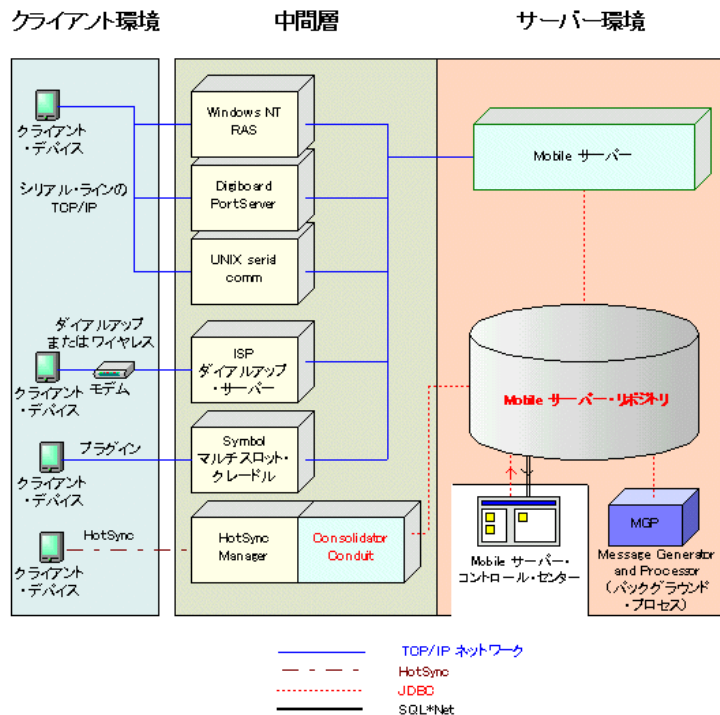
Palm ワークスペースに、新しいアイコンが 2 つ表示されます。

- Mobile SQL アプリケーション用の **mSQL**
- Mobile Sync Client アプリケーション用の **mSYNC**

5.3.2.2 Palm OS マシンでのアプリケーションのインストール

1. 「スタート」メニューからインストール・ツール・プログラムを実行するか、**instapp.exe** ファイルを検索して実行します。
2. 「追加」ボタンをクリックします。
3. 「ブラウズ」ボタンをクリックして次のファイルを検索し、インストール・リストに追加します。
 - **starter.prc** または自分の Metrowerks アプリケーション
 - Satellite Forms ランタイム環境。Satellite Forms v. 3.1 の場合は **sf31rdk.prc**
 - 自分の Satellite Forms アプリケーション (*.sfa)
4. 「終了」ボタンをクリックして、インストール・ツールをクローズします。
5. HotSync アプリケーションが実行されていない場合は、これを実行します。
6. Palm OS マシンを HotSync クレードルに置きます。クレードルの「HotSync」ボタンをクリックします。
7. アプリケーションをインストールした後、Palm OS マシンを再起動します。

図 5-12 Mobile サーバー用の転送の構成



5.3.2.3 Palm Computing Platform デバイスでの転送の構成

HTTP、Scout または HotSync を使用して、Palm Computing Platform デバイスでの転送を構成できます。次の事項を説明します。

- 5.3.2.4 項「HTTP の使用」
- 5.3.2.6 項「HotSync を使用した HTTP 転送の構成」

5.3.2.4 HTTP の使用

HTTP を転送方式として構成するには、次の手順を実行します。

1. Mobile サーバーをインストールおよび構成し、実行します。必要に応じて、Windows の「コントロールパネル」の「サービス」メニューを見て、Mobile サーバーが稼働していることを確認します。
2. Palm Computing Platform デバイスの「環境設定」画面で、メニューから「ネットワーク」を選択します。「ネットワーク環境設定」画面が表示されます。

図 5-13 「ネットワーク環境設定」画面



- 「ネットワーク環境設定」画面のフィールドに必要な情報を入力します。

表 5-1 Palm デバイスのネットワーク設定

フィールド	値
サービス	Windows NT RAS
ユーザー名	ユーザーのログオン名
パスワード	ユーザーのパスワード
電話	00

注意： 複数のデバイスに対して同じ RAS ユーザー名とパスワードを使用できます。

- 「詳細 ...」 ボタンをクリックします。
「詳細」 ダイアログ・ボックスが表示されます。
- 「IP アドレス: 自動」 が選択されていることを確認します。
- 「スクリプト」 ボタンをクリックします。
「ログインスクリプト」 ダイアログ・ボックスが表示されます。
- プルダウン・メニューを使用して次の事項を入力します。

表 5-2 Palm のログイン・スクリプト

フィールド	値
改行を送信	不要
時間待ち	1
送信	CLIENT
プロンプト待ち	CLIENTSERVER

図 5-14 ログイン画面



8. 「OK」ボタンをクリックして「ログイン スクリプト」ダイアログ・ボックスをクローズします。
9. 「OK」ボタンを再度クリックして「詳細」ダイアログ・ボックスをクローズします。
10. デバイスを HotSync クレードルに置きます。
11. 「接続」ボタンをクリックして接続をテストします。PPP 接続が成功した場合、デバイスはデータの同期の準備が整っています。

5.3.2.5 HTTP Sync への HotSync 方式の再割当て

Palm Computing Platform デバイスで HTTP 転送を構成した後、HotSync 方式を再割当てして HTTP をデフォルトの同期方式にする必要があります。

HotSync 方式を HTTP 同期に再割当てするには、次の手順に従います。

1. Palm Computing Platform デバイスに **OracleLauncher.prc** をインストールします。
2. Palm OS マシンで環境設定アイコンを選択します。「環境設定」画面が表示されます。
3. 「環境設定」画面でメニューから「ボタン」を選択します。「ボタン設定」画面が表示されます。

4. 「HotSync」をクリックします。
5. 「クレードル」メニューの「OracleLauncher」を選択します。「OK」をクリックします。
6. デバイスを HotSync クレードルに置き、「HotSync」ボタンをクリックします。HTTP Sync 方式がアクティブになります。

5.3.2.6 HotSync を使用した HTTP 転送の構成

HotSync を転送メカニズムとして構成するには、`Oracle_Home¥Mobile¥SDK¥Palm¥sdk¥conduit¥readme.txt` に含まれている次のプロシージャに従います。

5.3.2.7 Mobile Sync Client for Palm 用のセットアップ

Mobile Sync Client は、Palm OS マシン上のローカル・データベースを、接続先のシステム（この場合は、開発システム）で稼働中の Mobile サーバーのインスタンスに同期させます。Mobile Sync Client for Palm では、次のパラメータを同期に使用します。

表 5-3 Mobile クライアント・パラメータ

パラメータ	説明
ユーザー名	Mobile クライアント・ユーザー名です。このフィールドは大 / 小文字を区別しません。
パスワード	Mobile クライアント・パスワードです。このフィールドは大 / 小文字を区別します。
変更	このボックスは空白のままにします。
パスワードを保存	パスワードを保存するには、このチェック・ボックスを選択します。
http://<mobile server>	Mobile サーバーの IP アドレスです。
プロキシ使用	必要であれば、選択します。

SAMPLE11 サンプル・アプリケーションを利用するには、次のユーザー名とパスワードを使用します。ユーザー作成アプリケーションおよびユーザー・スナップショットには、別個のユーザー名とパスワードを指定する必要があります。

- ユーザー名 = S11U1
 - パスワード = MANAGER
1. Mobile Sync Client を起動するには、「ORACLE」アイコンをクリックします。「mSync」画面が表示されます。

図 5-15 「mSync」画面

mSync

ユーザー名: S11U1

パスワード: MANAGER

変更 パスワードを保存

http://198.162.0.1/Consolidator

プロキシ使用 セキア

キャンセル 適用 OK 同期

2. 必要なフィールドに情報を入力します。「パスワードを保存」チェック・ボックスを忘れずに選択してください。
3. 「適用」ボタンをクリックします。
4. 「同期」ボタンをクリックします。

構成、送信、受信および処理の各同期タスクの完了を示す進行状況バーが表示されます。進行状況バーには、各タスクの完了に要する時間も表示されます。同期が正常に実行されると、同期成功画面が表示されます。同期に失敗すると、同期が失敗したというメッセージが表示されます。同期に失敗した原因を判断するには、サーバー管理者は Mobile サーバーのログ・ファイルで追跡情報を表示できます。

6

パッケージ・ウィザードの使用

この章では、Mobile Development Kit のパッケージ・ウィザード・ユーティリティについて説明します。内容は次のとおりです。

- 6.1 項「パッケージ・ウィザードの概要」
- 6.2 項「パッケージ・ウィザードの起動」
- 6.3 項「プラットフォームの選択」
- 6.4 項「新規アプリケーションの命名」
- 6.5 項「アプリケーション・ファイルのリスト表示」
- 6.6 項「データベース情報の入力」
- 6.7 項「レプリケーション用スナップショットの定義」
- 6.8 項「アプリケーションの完了」

6.1 パッケージ・ウィザードの概要

パッケージ・ウィザードは、次の目的に使用できるグラフィカル・ツールです。

- 新規 Mobile サーバー・アプリケーションを作成する。
- 既存の Mobile サーバー・アプリケーションを編集する。
- アプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリにパブリッシュする。

新規 Mobile アプリケーションを作成するときは、そのコンポーネントとファイルを定義します。また、既存の Mobile アプリケーションのコンポーネントの定義を編集することもあります。たとえば、アプリケーションの新規バージョンを開発する場合は、パッケージ・ウィザードを使用してアプリケーション定義を更新します。パッケージ・ウィザードを使用すると、アプリケーション・コンポーネントを **.jar** ファイルにパッケージ化することもできます。このファイルはコントロール・センターを使用してパブリッシュできます。パッケージ・ウィザードのその他の用途は、実表を作成するために Oracle データベースに対して実行する SQL スクリプトの作成です。

6.2 パッケージ・ウィザードの起動

パッケージ・ウィザードを起動するには、DOS プロンプトで次のように入力します。

wtgpack

パッケージ・ウィザードが表示され、デフォルトで「ようこそ」パネルが表示されます。「ようこそ」パネルでは、次の機能を使用して、パッケージ化されたアプリケーションの作成、編集またはオープンができます。

図 6-1 「ようこそ」パネル

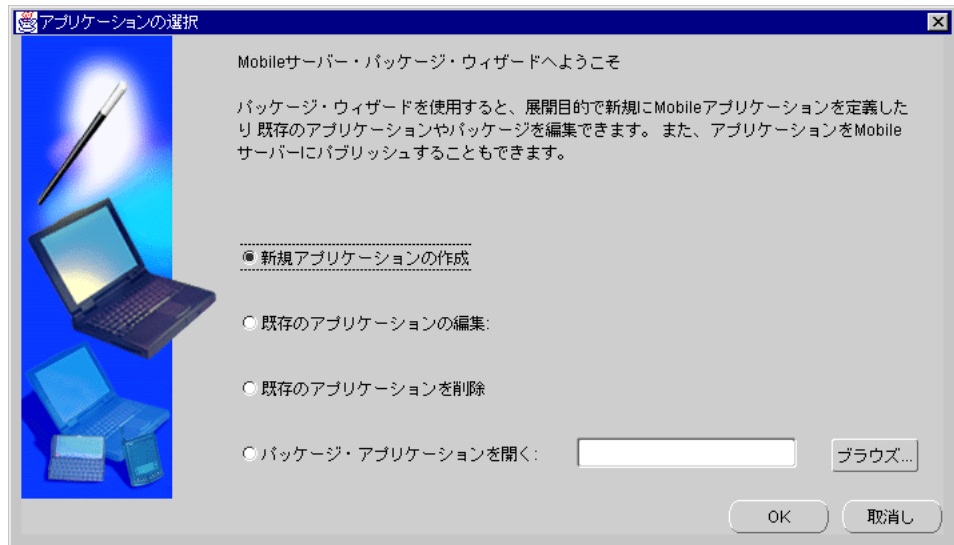


表 6-1 「ようこそ」パネルのオプション

機能	説明
新規アプリケーションの作成	このオプションを選択すると、新規アプリケーションを定義できます。
既存のアプリケーションの編集	このオプションを選択すると、既存のアプリケーションを編集できます。隣にあるドロップダウン・リストから既存のアプリケーションを選択できます。
既存のアプリケーションを削除	このオプションは、指定されたアプリケーションへの参照をファイルからすべて削除します。以前にパブリッシュされたアプリケーションの場合は、Mobileサーバー・リポジトリから削除しません。これは、コントロール・センターを使用して行う必要があります。
パッケージ・アプリケーションを開く	このオプションを選択すると、 .jar ファイルとしてパッケージ化されているアプリケーションを選択できます。隣にあるフィールドにパッケージ・アプリケーションの名前を入力するか、「ブラウズ」ボタンを使用して編集対象のアプリケーションを検索します。

6.3 プラットフォームの選択

この画面を使用して、アプリケーションをパッケージ化する対象のプラットフォームを選択できます。プラットフォームは最低1つ選択する必要があります。アプリケーションが2種類以上のクライアントで実行される場合は、複数を選択できます。上部の「使用可能プラットフォーム」のリストでプラットフォームを選択し、左にある下向き矢印ボタンを使用してそのプラットフォームを「選択済プラットフォーム」に移動します。

図 6-2 プラットフォームの選択画面



6.4 新規アプリケーションの命名

「アプリケーション」パネルは、Mobile サーバー・アプリケーションに名前を付けて、このアプリケーションを Mobile サーバー上のどこに格納するかを指定するために使用します。このパネルに含まれるフィールドは次のとおりです。

図 6-3 「アプリケーション」パネル

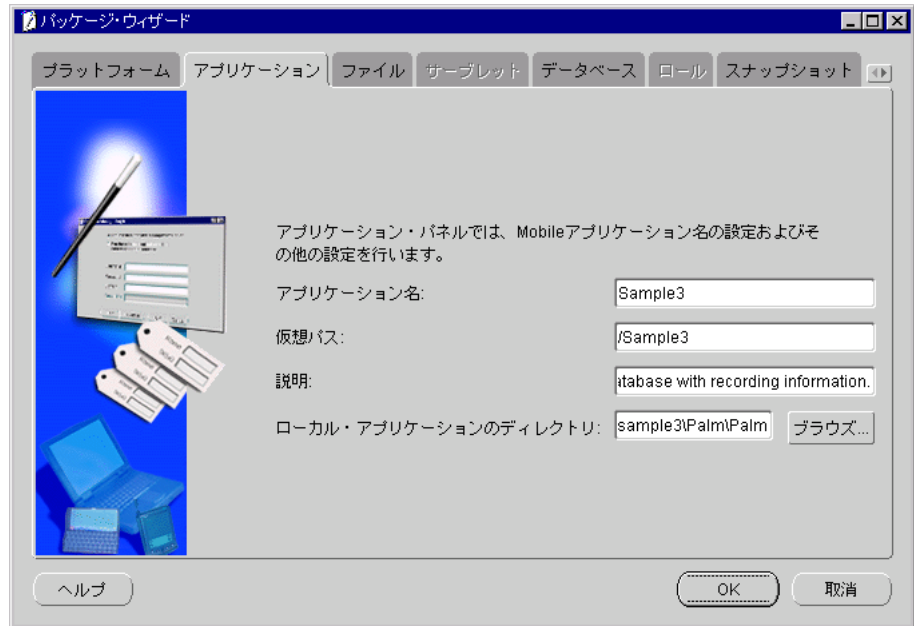


表 6-2 「アプリケーション」パネルのオプション

フィールド	説明	必須
仮想パス	アプリケーションに一意の ID を提供します。Mobile サーバー・リポジトリのルート・ディレクトリからアプリケーションの場所までをマップしたパス。仮想パスにより、アプリケーションのディレクトリ構造全体を参照する必要がなくなります。	<input type="radio"/>
アプリケーション名	Mobile サーバーにログインするときのアプリケーションの表示名。	<input type="radio"/>
説明	Windows アプリケーションの概要。	<input type="radio"/>

表 6-2 「アプリケーション」パネルのオプション（続き）

フィールド	説明	必須
ローカル・アプリケーションのディレクトリ	ローカル・マシン上でこのアプリケーションの全コンポーネントが含まれているディレクトリです。この場所は、入力するかまたは「ブラウズ」ボタンをクリックして選択します。このディレクトリに必要な形式は、 6.4.1 項 を参照してください。	○

6.4.1 プラットフォーム・ファイルの配置

ローカル・アプリケーションのディレクトリが必要です。アプリケーションに Win32、Palm、EPOC または Windows CE のファイルが含まれている場合は、これらのファイルをローカル・アプリケーション・ディレクトリの次のサブディレクトリに配置します。

- Palm アプリケーションのファイルは、「palm」というサブディレクトリに入れます。
- EPOC アプリケーションのファイルは、「epoc」というサブディレクトリに入れます。
- Windows CE アプリケーションのファイルは、「wince」というサブディレクトリに入れます。
- Windows 32 アプリケーションのファイルは、「win32」というサブディレクトリに入れます。

特定のデバイス用のディレクトリに入れられないファイルは、Web-to-Go アプリケーションに使用されるものと想定されます。Web-to-Go ファイルには特定のディレクトリは不要です。このファイルはローカル・アプリケーション・ディレクトリのルート・レベルにも入れられます。

Mobile サーバーでは、同一アプリケーションの複数のバージョンを Mobile サーバー・ディレクトリにパブリッシュおよび管理できます。これは、同じアプリケーションに複数の実装が存在し、それぞれが Oracle データベース・サーバー内の同一のアプリケーション表にアクセスすることを意味します。たとえば、Palm と Compaq iPAQ 両用の C/C++ アプリケーションを持つこともできます。C++ ソース・コードはその一部またはすべてを再利用できる場合がありますが、PALM 用と iPAQ 用にそれぞれファイルを再コンパイルし、異なる実行可能ファイルを作成する必要があります。同一アプリケーションに 2 つのバージョンが存在し、それぞれが同一のデータベース表を使用します。アプリケーション・ファイルは、個別の名前を持つ専用サブディレクトリに格納することが重要です。ローカル・アプリケーション・ディレクトリは Windows 開発システム上のディレクトリで、アプリケーションの複数のバージョンが格納される場所です。パッケージ・ウィザードは、このアプリケーション（ルート）・ディレクトリの下にあるアプリケーション・ファイルを再帰的に読み込みます。

例

'Applications' というローカル・アプリケーション・ディレクトリに、アプリケーションの複数のバージョンが格納されます。

C:¥Applications

Palm 用の実行可能ファイルは、¥palm サブディレクトリの下に格納する必要があります。

C:¥Applications¥palm

iPAQ 用の実行可能ファイルは、¥wince¥Pocket_PC¥us¥arm サブディレクトリの下に格納する必要があります。

C:¥Applications¥wince¥Pocket_PC¥us¥arm

ローカル・アプリケーション・ディレクトリは **C:¥Applications** ですが、これにはサブディレクトリが 2 つあります。

C:¥Applications — 「ローカル・アプリケーションのディレクトリ」フィールドには、この文字列を入力する必要があります。このフィールドにサブディレクトリを追加すると、パッケージ・プロセスが失敗します。

C:¥Applications¥PALM — Palm バージョン用のアプリケーション・サブディレクトリです。

Palm アプリケーションの場合、必要なサブディレクトリは **Palm** のみです。他のプラットフォーム用のディレクトリの一覧は、それぞれの該当する開発者ガイドを参照してください。

6.5 アプリケーション・ファイルのリスト表示

パッケージ・ウィザードはローカル・アプリケーションのディレクトリの内容を分析し、各ファイルのローカル・パスを表示します。分析したローカル・アプリケーションのディレクトリにあるアプリケーション・ファイルがリストされ、ローカル・マシン上の位置が表示されます。これにより、先に進む前に、必要なファイルがすべて存在しているかどうかを確認できます。

Palm アプリケーション・ファイルの拡張子は、Windows 32 の下では **.prc** と **.pdb** ですが、Mobile サーバーに配布されるときは、拡張子を付けることはできません。パッケージ・ウィザードにより自動的に拡張子が削除され、ファイル名が変更され、確認メッセージが表示されます。

注意： ¥palm ディレクトリに置かれていない Palm アプリケーション用のアプリケーション・ファイルは、パッケージ・ウィザードでは認識されません。

図 6-4 「ファイル」 パネル

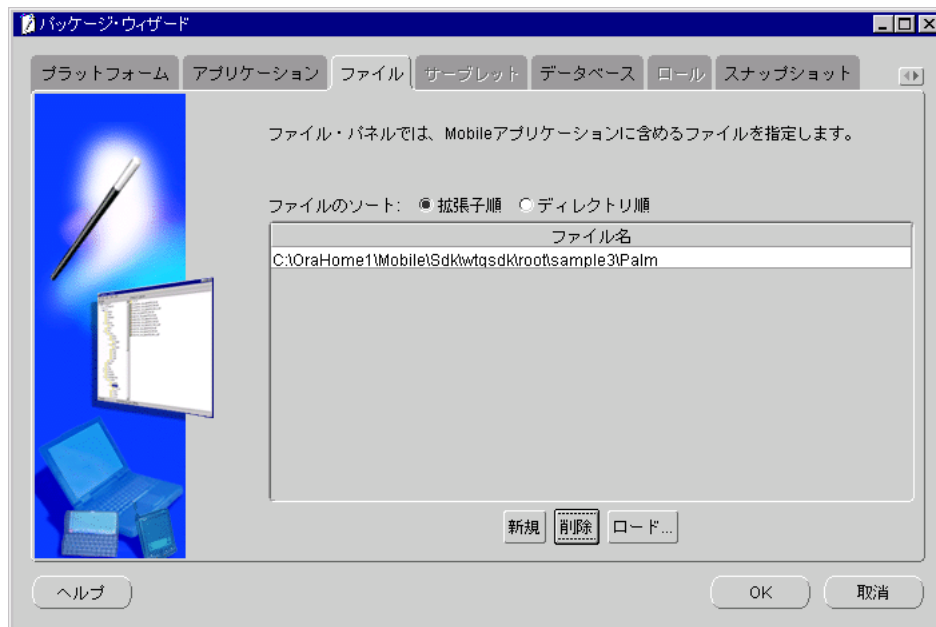


表 6-3 「ファイル」 パネルのオプション

フィールド	説明	必須
ファイル名のエン트리	各 Mobile サーバー・アプリケーション・ファイルの絶対パスです。リスト内の各エン 트리には、各ファイルまたはディレクトリの完全なパスが含まれています。	<input type="radio"/>
ファイルのソート:	<ul style="list-style-type: none"> ■ 拡張子順 - ファイルを拡張子ごとにアルファベット順に表示します。 ■ ディレクトリ順 - ファイルをディレクトリごとにアルファベット順に表示します。 	

「ファイル」パネルにリストされているファイルは、すべて追加、削除またはロードできます。新規アプリケーションを作成する場合、「ファイル」パネルを表示すると、ローカル・ディレクトリにリストされているファイルのみが自動的に分析されロードされます。パッケージ・ウィザードに認識されるのは、適切なサブディレクトリ（たとえば、`ypalm`）に配置されているファイルのみです。他の方法で追加されたファイルではエラー・メッセージが生成されます。

6.5.1 ソート

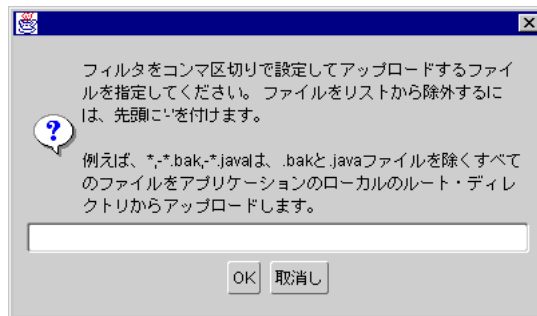
ファイルは、拡張子または含まれているディレクトリごとにソートできます。ファイルをソートするには、「拡張子順」または「ディレクトリ順」ラジオ・ボタンをクリックします。

6.5.2 フィルタ

「ロード」ボタンをクリックすると「入力」ダイアログ・ボックスが表示されます。「入力」ダイアログ・ボックスは、アップロード・プロセスからのアプリケーション・ファイルを含めるか除外するかを指定する（カンマで区切られた）フィルタのリストを作成するために使用します。ファイルを除外するには、ファイル名の前に負符号 (-) を付けます。たとえば、**.prc** および **.pdb** 拡張子の付いたファイルを除くすべてのファイルをロードするには、次のように入力します。

```
*,-*.prc,-*.pdb
```

図 6-5 「フィルタ」パネル



6.6 データベース情報の入力

「データベース」パネルは、データのレプリケート元になる、Oracle サーバー上のデータベースを指定するために使用します。

図 6-6 「データベース」パネル



このパネルに含まれるフィールドは次のとおりです。

表 6-4 「データベース」パネルのオプション

フィールド	説明	必須
データベースのユーザー名	データの同期をとるためにアプリケーションによって使用されるデータベースのユーザー名。	<input type="radio"/>
データベース名	Mobile クライアント・デバイス上で接続中のデータベースの名前。アプリケーションで使用される名前である必要があります。空白のまま何も指定しないと、自動的に名前が生成されます。	<input type="radio"/>

6.7 レプリケーション用スナップショットの定義

「スナップショット」パネルは、アプリケーションのレプリケーション・スナップショット定義を作成するために使用します。スナップショット名は、全アプリケーション間で一意にする必要があります。

図 6-7 「スナップショット」パネル



このパネルに含まれるフィールドは次のとおりです。

表 6-5 スナップショット・パラメータ

フィールド	説明	必須
全プラットフォーム	<p>現在のスナップショットのプラットフォームのドロップダウン・リストです。ドロップダウン・リストには、次のプラットフォームをすべて含めることができます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ Win32 ■ Palm ■ EPOC ■ Windows CE <p>ドロップダウン・リストからプラットフォームを選択すると、そのプラットフォーム用のスナップショットのみが「スナップショット」パネルに表示されます。たとえば、「全プラットフォーム」ドロップダウン・リストから「Palm」を選択すると、Palm ベースのスナップショットのみが表示されます。ドロップダウンから「全プラットフォーム」オプションを選択すると、現在使用中のプラットフォームごとにすべてのスナップショットが表示されます。ユーザーが新しいスナップショットを追加した場合、ドロップダウン・リストには追加のプラットフォームがリスト表示されます。</p>	×
名前	<p>Mobile サーバー・アプリケーションに関連付けられているスナップショット定義の名前です。この名前は、既存のデータベース表と同じ名前か、Oracle Lite データベース上に作成する必要があります。</p>	○
テンプレート	<p>テンプレートとは、スナップショットの作成に使用される SQL 文です。テンプレートには変数を含められます。テンプレートを Mobile サーバーにバブリッシュした後は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、ユーザー固有のテンプレート変数を指定できます。ただし、Mobile サーバー・コントロール・センターではスナップショット定義テンプレートは変更できません。</p>	○
プラットフォーム	<p>スナップショット定義のプラットフォームです。ユーザーは異なるプラットフォームに対してスナップショット定義を作成できません。クライアントのデータと同期をとった場合、クライアント・アプリケーションを実行しているプラットフォームに適したスナップショット定義のみが取得されます。</p>	○
比率	<p>これは、データベース表の同期順序を決定する正の整数です。「マスター・ディテール・リレーションを持つ表の場合、マスター表はディテール表より先にレプリケートされるように、低い比率を持つ必要があります。</p>	○

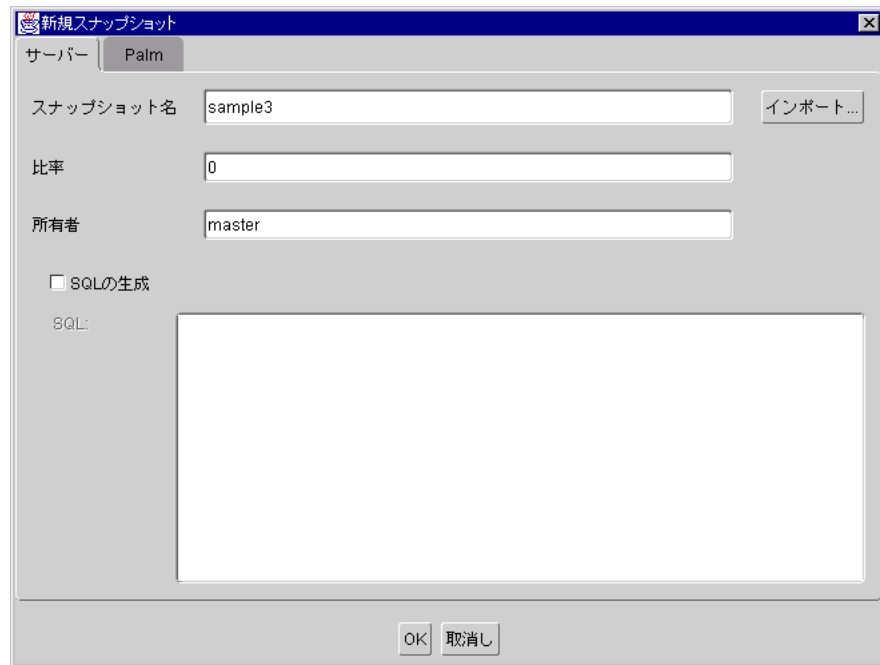
「スナップショット」パネルで「新規」ボタンまたは「削除」ボタンをクリックすると、「スナップショット」パネルにスナップショットを追加または削除できます。スナップショットはインポートまたは編集することもできます。

注意：「スナップショット」パネルから複数のスナップショット定義をインポートできますが、「新規表」ダイアログ・ボックスから新規表を作成するときにインポートできるスナップショット定義は1つのみです。

6.7.1 新規スナップショットの作成

新規スナップショットを作成するには、「新規」ボタンをクリックします。「新規スナップショット」画面が表示されます。

図 6-8 「新規スナップショット」ウィンドウ



この画面の「サーバー」タブには、Mobile サーバーによってこのアプリケーションと関連付けられるレプリケーション定義が表示されます。新規スナップショットを作成するには、「新規スナップショット」ウィンドウの次の機能を変更します。

表 6-6 「新規スナップショット」ウィンドウのオプション

機能	説明
プラットフォーム	タブには、「プラットフォーム」画面での選択に基づくプラットフォームが表示されます。
スナップショット名	スナップショット定義の基になるデータベース・サーバー表の名前です。
SQL の生成	この機能を選択すると、パッケージ・ウィザードにより SQL スクリプトへの出力情報が収集されます。この SQL スクリプトは、Mobile サーバーに関連付けられているデータベース上にデータベース表を作成するために使用できます。データベースに実表が存在し、SQL スクリプトを使用して実表を作成する必要がない場合は、このチェックボックスの選択を解除します。
比率	この表に対する表の比率を設定できます。表の比率は、同期時の競合を解決するために使用されます。詳細は、 3.3.9.3 項 を参照してください。
SQL	名前付きの表を定義する SQL の CREATE TABLE 文を表示します。この文は変更できます。「SQL の生成」ボックスが選択されている場合は、作成される SQL スクリプトにこの SQL 文が含まれます。

6.7.2 スナップショットのインポート

Oracle データベースまたは Oracle Lite データベースからスナップショットをインポートするには、「インポート」ボタンをクリックします。接続を指定していない場合は、データベース接続ウィンドウが表示されます。

注意： 一度指定したデータベース接続は、パッケージ・ウィザードの残りの部分でも使用されます。Oracle データベースと Oracle Lite データベースを切り替える必要がありますが、すでに接続が確立されている場合は、パッケージ・ウィザード・アプリケーションを完全に終了して、再度 **wtgpack.exe** を実行します。

図 6-9 「データベースへの接続」ウィンドウ



注意： Oracle データベースのデータベース URL を入力するときは、次の書式を使用します。

`jdbc:oracle:thin:@o8host:o8 port:SID`

たとえば、`jdbc:oracle:thin:@o8-db:1521:orcl` と指定します。Oracle Lite の場合は、`jdbc:polite:webtogo` を使用します。

スナップショットのインポート元の Oracle データベースのユーザー名、パスワードおよびデータベース URL を入力します。「OK」をクリックして続行します。「表」ウィンドウが表示されます。

図 6-10 「表」ウィンドウ

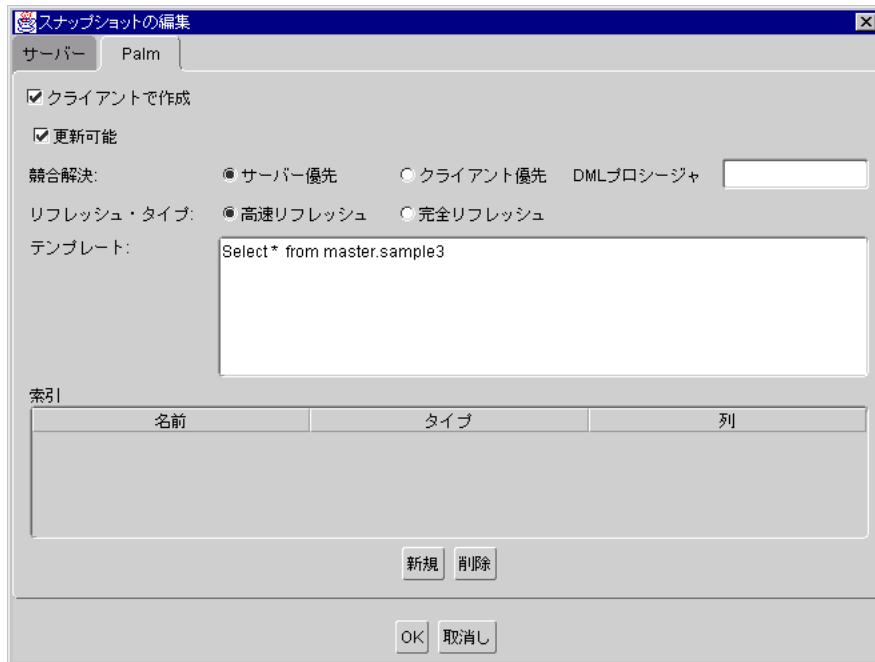


スナップショット定義の作成元となる表を選択します。「追加」をクリックしてから「閉じる」をクリックします。パッケージ・ウィザードの「スナップショット」パネルに表が表示されます。

6.7.3 スナップショットの編集

スナップショット定義を編集するには、「スナップショット」パネルからスナップショットを選択し、「編集」をクリックします。「スナップショットの編集」ウィンドウが表示されます。最初に選択したプラットフォームがタブに表示されます。スナップショットがまったく同じ場合でも、プラットフォームごとにタブを使用してスナップショットを定義する必要があります。

図 6-11 「スナップショットの編集」ウィンドウ



スナップショット定義を編集するには、「スナップショットの編集」ウィンドウの次の機能を変更します。

表 6-7 「スナップショットの編集」ウィンドウのオプション

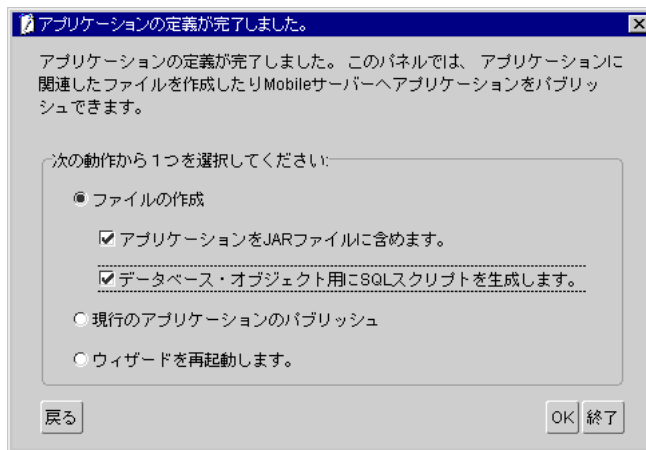
機能	説明
クライアントで作成	このチェックボックスが選択されていると、次のことを実行できます。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 更新可能スナップショットの作成。 ■ スナップショット・テンプレートの作成。管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、複数の異なるユーザー用変数をこのテンプレートに対してインスタンス化できます。
更新可能	このチェックボックスは、更新可能として作成されるスナップショットを定義します。
競合解決	このオプションは、すべての競合解決でサーバーが優先するかクライアントが優先するかを定義します。デフォルト設定は「サーバー優先」です。競合解決の詳細は、 3.1.8 項 を参照してください。
DML プロシージャ	このフィールドは、次の形式で DML プロシージャを指定するために使用できます。 AnySchema.AnyPackage.AnyName DML プロシージャを追加すると、「競合解決」オプションの選択が無効になります。 DML プロシージャの作成方法の詳細は、 3.4.3 項 を参照してください。
リフレッシュ・タイプ	このオプションには次の 2 つの選択肢があります。 <ul style="list-style-type: none"> ■ 高速リフレッシュデフォルトです。変更されたデータのみが転送されます。 ■ 完全リフレッシュデータはすべてリフレッシュされます。
テンプレート	名前付きの表のスナップショット・テンプレートを表示します。スナップショット・テンプレートは変更できます。管理者は、Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して、複数の異なるユーザー用変数をこのテンプレートに対してインスタンス化できます。テンプレート変数の詳細は、 6.7 項 を参照してください。

6.8 アプリケーションの完了

パッケージ・ウィザードの全パネルを完了すると、次のオプションの含まれた「アプリケーションの定義が完了しました。」ウィンドウが表示されます。

- ファイルの作成
- 現行のアプリケーションのパブリッシュ
- ウィザードを再起動します。

図 6-12 「アプリケーションの定義が完了しました。」ウィンドウ



6.8.1 アプリケーション・ファイル

パッケージ・ウィザードは、アプリケーション情報のすべてをファイルに自動的に保存します。パッケージ・ウィザードはローカル・マシン上にこのファイルを保持します。さらに、Mobile サーバーにこのファイルをパブリッシュするオプションも提供しています。アプリケーション・ファイルを Mobile サーバーにパブリッシュできるのは、サーバーが実行されているときのみです。

6.8.2 JAR ファイルの作成

「ファイルの作成」オプションを使用すると、アプリケーション・コンポーネントを **.jar** ファイルにパッケージ化できます。アプリケーション・コンポーネントを **.jar** ファイルにパッケージ化するには、「ファイルの作成」をクリックしてから「アプリケーションを JAR ファイルに含めます。」をクリックします。**.jar** ファイルの位置を指定するよう要求されません。

アプリケーションをパッケージ化した後は、パッケージ・ウィザードにより **.jar** ファイルが作成されます。**Mobile** サーバー・インスタンスに対する管理権限を持つユーザーなら、だれでも、コントロール・センターを使用して **Mobile** サーバー・リポジトリにパブリッシュできます。

6.8.3 SQL ファイルの作成

SQL スクリプトを生成するには、「ファイルの作成」をクリックしてから「データベース・オブジェクト用に SQL スクリプトを生成します」をクリックします。生成されたスクリプトは、アプリケーションのローカル・ルート・ディレクトリの下 **SQL** サブディレクトリ内に入れられます。SQL スクリプトは、スナップショットおよび順序に関して指定した情報を使用します。この SQL スクリプトをデータベースに対して実行して、これらのデータベース・オブジェクトを作成できます。

6.8.4 パッケージ・ウィザードの再起動

「ウィザードを再起動します。」オプションを使用すると、パッケージ・ウィザードを再起動できます。このオプションを使用すると、パッケージ・ウィザードの「ようこそ」パネルに戻ります。パッケージ・ウィザードを再起動するには、「ウィザードを再起動します。」をクリックしてから「OK」をクリックします。

6.8.5 アプリケーションのパブリッシュ

「現行のアプリケーションのパブリッシュ」オプションを使用すると、パッケージ・ウィザードで作成し定義したアプリケーションをパブリッシュできます。**Mobile** サーバー・アプリケーションをパブリッシュするには、「現行のアプリケーションのパブリッシュ」チェックボックスを選択してから「OK」をクリックします。「アプリケーションをパブリッシュします。」ウィンドウが表示されます。

図 6-13 「アプリケーションをパブリッシュします。」ウィンドウ

「アプリケーションをパブリッシュします。」ウィンドウの各フィールドに必要な情報を入力します。

表 6-8 「アプリケーションをパブリッシュします。」ウィンドウのオプション

フィールド	説明	必須
Mobile サーバーの URL	サーバー名とポート番号を含む、Mobile サーバーの URL です。サーバー名とポート番号は、次の書式で指定します。 <code>http://mobileserver:port/webtogo</code> <i>mobileserver</i> は Mobile サーバーのホスト名で、 <i>port</i> は TCP/IP ポートです。デフォルト・ポートはポート 80 です。	○
Mobile サーバーのユーザー名	Mobile サーバー・ユーザーの名前です。	○
Mobile サーバーのパスワード	Mobile サーバー・ユーザーのパスワードです。	○
リポジトリのディレクトリ	Mobile サーバー・リポジトリの宛先ディレクトリです。パッケージ・ウィザードはアプリケーション・ファイルをこのディレクトリにパブリッシュし、ローカル・アプリケーションのディレクトリ上でディレクトリ構造をメンテナンスします。	○
アプリケーションをパブリックにする。	このアプリケーションをパブリック・アプリケーションとしてパブリッシュするには、これを選択します。パブリック・アプリケーションに対しては、すべてのユーザーがアクセス権を持ちます。	×

注意： アプリケーションを Mobile サーバーにパブリッシュするには、publish 権限が必要です。Mobile サーバー管理者は Mobile サーバー・コントロール・センターを使用して権限を割り当てます。

6.8.6 アプリケーションの編集

パッケージ・ウィザードを起動して「既存のアプリケーションを編集」を選択すると、アプリケーションを編集できます。

システム・カタログ・ビュー

この章は、Oracle Lite データベースのシステム・カタログ・ビューの参考資料です。

A.1 Oracle Lite データベースのカatalog・ビュー

Oracle Lite データベースのシステム・カatalogでは次のビューが使用できます。

- [A.1.1 項「ALL_COL_COMMENTS」](#)
- [A.1.2 項「ALL_CONSTRAINTS」](#)
- [A.1.3 項「ALL_CONS_COLUMNS」](#)
- [A.1.4 項「ALL_INDEXES」](#)
- [A.1.5 項「ALL_IND_COLUMNS」](#)
- [A.1.6 項「ALL_OBJECTS」](#)
- [A.1.7 項「ALL_SEQUENCES」](#)
- [A.1.8 項「ALL_SYNONYMS」](#)
- [A.1.9 項「ALL_TABLES」](#)
- [A.1.10 項「ALL_TAB_COLUMNS」](#)
- [A.1.11 項「ALL_TAB_COMMENTS」](#)
- [A.1.12 項「ALL_USERS」](#)
- [A.1.13 項「ALL_VIEWS」](#)
- [A.1.14 項「CAT」](#)
- [A.1.15 項「COLUMN_PRIVILEGES」](#)
- [A.1.17 項「DUAL」](#)
- [A.1.16 項「DATABASE_PARAMETERS」](#)
- [A.1.18 項「SNAPSHOTS」](#)
- [A.1.19 項「TABLE_PRIVILEGES」](#)
- [A.1.20 項「USER_OBJECTS」](#)

注意： 以降に示す表で、アスタリスクの付いた列は Oracle Lite では使用されませんが、Oracle データベースと互換性があり、一般に NULL またはデフォルト値を返します。

A.1.1 ALL_COL_COMMENTS

このビューは、表の列に対するユーザーのコメントをリストします。

表 A-1 ALL_COL_COMMENTS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	表の所有者。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの名前。
COLUMN_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	列の名前。
COMMENTS	VARCHAR2(4096)		列のコメントのテキスト。

A.1.2 ALL_CONSTRAINTS

このビューは、アクセス可能な表に対する制約の定義について次の情報を提供します。

表 A-2 ALL_CONSTRAINTS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	制約定義の所有者。
CONSTRAINT_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	制約定義に対応付けられた名前。
CONSTRAINT_TYPE	VARCHAR2(128)	NOT NULL	制約定義のタイプ: C (表に対するチェック制約) P (主キー) U (一意キー) R (参照整合性) V (ビューに対するチェック・オプション)
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	制約定義を持つ表の名前。
SEARCH_CONDITION	VARCHAR2(1000)		表検査のための検索条件のテキスト。
R_OWNER	VARCHAR2(128)		参照制約で使用される表の所有者。
R_CONSTRAINT_NAME	VARCHAR2(128)		参照される表に対する一意制約定義の名前。

表 A-2 ALL_CONSTRAINTS のパラメータ (続き)

列	データ型	NULL	説明
DELETE_RULE	VARCHAR2(128)		参照制約の削除規則: 「NO ACTION」
STATUS	VARCHAR2(20)	NOT NULL	制約のステータス: 「ENABLED」または 「DISABLED」

A.1.3 ALL_CONS_COLUMNS

このビューは、制約定義内のアクセス可能な列について次の情報を提供します。

表 A-3 ALL_CONS_COLUMNS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)		制約定義の所有者のユーザー名。
CONSTRAINT_NAME	VARCHAR2(128)		制約定義に対応付けられた名前。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)		制約定義を持つ表の名前。
COLUMN_NAME	VARCHAR2(128)		制約定義に指定されている列に対応付けられた名前。
POSITION	NUMBER(10)		定義内での列の元の位置。

A.1.4 ALL_INDEXES

このビューには、表に定義されているすべての索引の説明が含まれています。

表 A-4 ALL_INDEXES のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX 定義の所有者。
INDEX_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX 定義に対応付けられた名前。
TABLE_OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX が定義されている表の所有者。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX 定義を持つ表の名前。

表 A-4 ALL_INDEXES のパラメータ (続き)

列	データ型	NULL	説明
TABLE_TYPE	VARCHAR2(10)		オブジェクトの型。
UNIQUENESS	VARCHAR2(128)	NOT NULL	「UNIQUE」または「NONUNIQUE」を含む文字列。

A.1.5 ALL_IND_COLUMNS

このビューは、データベース内のすべての索引に対する索引キー列をリストします。

表 A-5 ALL_IND_COLUMNS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
INDEX_OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX 定義の所有者。
INDEX_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX 定義に対応付けられた名前。
TABLE_OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX が定義されている表の所有者。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX 定義を持つ表の名前。
COLUMN_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	INDEX 定義に指定されている列に対応付けられた名前。
COLUMN_POSITION	NUMBER(10)	NOT NULL	索引定義内での列の位置。

A.1.6 ALL_OBJECTS

このビューには、オブジェクト（表、ビュー、シノニム、索引および順序）の説明が含まれています。

表 A-6 ALL_OBJECTS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	OBJECTS 定義の所有者。
OBJECT_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	OBJECTS 定義に対応付けられた名前。
OBJECT_TYPE	VARCHAR2(128)		オブジェクトの型： TABLE、VIEW、INDEX、 SEQUENCE、SYNONYM

表 A-6 ALL_OBJECTS のパラメータ (続き)

列	データ型	NULL	説明
CREATED	DATE		OBJECTS の作成タイムスタンプ。
STATUS	VARCHAR2(128)		OBJECTS の状態です。 VALID、INVALID または N/A (常に有効)。

A.1.7 ALL_SEQUENCES

このビューは、データベース内のすべての順序の説明をリストします。

表 A-7 ALL_SEQUENCES のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
SEQUENCE_OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	SEQUENCES 定義の所有者。
SEQUENCE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	SEQUENCES 定義に対応付けられた名前。
MIN_VALUE	NUMBER(10)	NOT NULL	順序の最小値。
MAX_VALUE	NUMBER(10)	NOT NULL	順序の最大値。
INCREMENT_BY	NUMBER(10)	NOT NULL	順序の増分値。

A.1.8 ALL_SYNONYMS

このビューは、データベース内のすべてのシノニムをリストします。

表 A-8 ALL_SYNONYMS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)		SYNONYMS 定義の所有者。
SYNONYM_NAME	VARCHAR2(128)		SYNONYMS 定義に対応付けられた名前。
TABLE_OWNER	VARCHAR2(128)		SYNONYMS が定義されている表の所有者。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)		SYNONYMS 定義を持つ表の名前。
DB_LINK	VARCHAR2(128)		予約済み。

A.1.9 ALL_TABLES

このビューは、ユーザーがアクセスできる表について次の情報を提供します。

表 A-9 ALL_TABLES のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	表の所有者のユーザー名。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	表の名前。
TABLESPACE_NAME	VARCHAR2(128)		この表を含むカタログまたはデータベース・ファイルの名前。
CLUSTER_NAME*	VARCHAR2(128)		この表が属するクラスタの名前（クラスタがある場合）。
PCT_FREE*	NUMBER(10)		ブロック内の空き領域の最小値（パーセント）。
PCT_USED*	NUMBER(10)		ブロック内の使用済み領域の最小値（パーセント）。
INI_TRANS*	NUMBER(10)		トランザクション数の初期値。
MAX_TRANS*	NUMBER(10)		トランザクション数の最大値。
INITIAL_EXTENT*	NUMBER(10)		初期エクステントのサイズ（バイト単位）。
NEXT_EXTENT*	NUMBER(10)		2次エクステントのサイズ（バイト単位）。
MIN_EXTENTS*	NUMBER(10)		セグメント内で使用できる最小エクステント数。
MAX_EXTENTS*	NUMBER(10)		セグメント内で使用できる最大エクステント数。
PCT_INCREASE*	NUMBER(10)		エクステント・サイズの増分パーセント。
BACKED_UP*	VARCHAR2(1)		最後の変更以降に表がバックアップされているかどうか。
NUM_ROWS*	NUMBER(10)		表の中の行数。
BLOCKS*	NUMBER(10)		表に割り当てられているデータ・ブロック数。

表 A-9 ALL_TABLES のパラメータ (続き)

列	データ型	NULL	説明
EMPTY_BLOCKS*	NUMBER(10)		表に割り当てられているデータ・ブロックの中でデータを含まないブロック数。
AVG_SPACE*	NUMBER(10)		表に割り当てられているデータ・ブロック内の平均空き領域 (バイト単位)。
CHAIN_CNT*	NUMBER(10)		表の中で、あるデータ・ブロックから別のデータ・ブロックに連鎖されている行の数、または新規ブロックに移行された行で、古い ROWID を保持するためにリンクが必要な行の数。
AVG_ROW_LEN*	NUMBER(10)		表の行の平均長 (バイト単位)。

A.1.10 ALL_TAB_COLUMNS

このビューは、ユーザーがアクセスできる表、ビューおよびクラスタの列について次の情報を提供します。

表 A-10 ALL_TAB_COLUMNS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	表、ビューまたはクラスタの所有者のユーザー名。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	表、ビューまたはクラスタの名前。
COLUMN_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	列名。
DATA_TYPE	VARCHAR2(30)		列のデータ型。
DATA_LENGTH	NUMBER(10)		列の長さ (バイト単位)。
DATA_PRECISION	NUMBER(10)		NUMERIC および DECIMAL データ型の場合は 10 進精度、FLOAT、REAL および DOUBLE データ型の場合はバイナリ精度、その他すべてのデータ型では NULL。

表 A-10 ALL_TAB_COLUMNS のパラメータ (続き)

列	データ型	NULL	説明
DATA_SCALE	NUMBER(10)		NUMERIC または DECIMAL データ型での小数点以下の桁数。
NULLABLE	VARCHAR2(1)		列で NULL を使用できるかどうかを示します。列に NOT NULL 制約が指定されている場合または列が主キーの一部である場合、値は N です。
COLUMN_ID	NUMBER(10)	NOT NULL	作成された時点での列の順序番号。
DEFAULT_LENGTH	NUMBER(10)		列のデフォルト値の長さ。
DATA_DEFAULT	VARCHAR2(4096)		列のデフォルト値。
NUM_DISTINCT*	NUMBER(10)		表の各列内の個別値の数。
LOW_VALUE*	NUMBER(10)		HIGH_VALUE の説明を参照してください。
HIGH_VALUE*	NUMBER(10)		4 行以上の表の場合は、列内で 2 番目に低い値および 2 番目に高い値。3 行以下の表の場合は、一番低い値および一番高い値。この統計値は、値の最初の 32 バイトの内部表記の 16 進表記で表されます。

A.1.11 ALL_TAB_COMMENTS

このビューは、ユーザーが表およびビューに対して入力したコメントをリストします。

表 A-11 ALL_TAB_COMMENTS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	TAB_COMMENTS 定義の所有者。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	TAB_COMMENTS 定義を持つ表の名前。

表 A-11 ALL_TAB_COMMENTS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
TABLE_TYPE	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの型。
COMMENTS	VARCHAR2(4096)	NOT NULL	コメントのテキスト。

A.1.12 ALL_USERS

このビューは、接続済みデータベースに作成されているすべてのスキーマについて次の情報を提供します。

表 A-12 ALL_USERS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
USERNAME	VARCHAR2(30)	NOT NULL	ユーザーの名前。
USER_ID*	NUMBER	NOT NULL	ユーザーの ID 番号。
CREATED	DATE	NOT NULL	ユーザー作成日付。

A.1.13 ALL_VIEWS

このビューは、ユーザーがアクセスできるビューについて次の情報を提供します。

表 A-13 ALL_VIEWS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	ビューの所有者のユーザー名。
VIEW_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	ビューの名前。
TEXT_LENGTH	NUMBER(10)	NOT NULL	ビューのテキストの長さ。
TEXT	VARCHAR2(1000)	NOT NULL	ビューのテキスト。

A.1.14 CAT

このビューは、ユーザーがアクセスできる表およびビューについて次の情報を提供します。

表 A-14 CAT のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの名前。
TABLE_TYPE	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの型： TABLE または VIEW

A.1.15 COLUMN_PRIVILEGES

このビューは、ユーザーが権限付与者、権限受領者または所有者である場合、あるいは PUBLIC が権限受領者である場合の、列に対する権限付与について次の情報を提供します。

表 A-15 COLUMN_PRIVILEGES のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの所有者の ユーザー名。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの名前。
COLUMN_NAME	VARCHAR2(128)		列の名前。
GRANTOR	VARCHAR2(128)		権限付与を実行したユー ザーの名前。
GRANTEE	VARCHAR2(128)		アクセス権が付与された ユーザーの名前。
GRANT_TYPE	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトに対する権限。 値は、SELECT、INSERT ま たは DELETE です。
GRANTABLE	VARCHAR2(128)		GRANT OPTION を指定し て権限が付与されている場 合は YES、それ以外の場合 は NO です。

A.1.16 DATABASE_PARAMETERS

このビューは、照合順序を制御する NLS_SORT パラメータの値をリストします。

表 A-16 DATABASE_PARAMETERS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
PARAMETER	VARCHAR2(30)	NOT NULL	NLS_SORT
VALUE	VARCHAR2(128)		照合順序の文字列定数。値は、BINARY、FRENCH、GERMAN、CZECH または XCZECH のいずれかです。

A.1.17 DUAL

このビューは、単一行を返す問合せで使用できるダミー表です。たとえば、CURRENT_TIMESTAMP の選択に DUAL を使用できます。

表 A-17 DUAL のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
DUMMY	VARCHAR2(1)	NOT NULL	常に「X」。

A.1.18 SNAPSHOTS

このビューはデフォルトでは存在せず、レプリケーション中にのみ作成されます。ユーザーがアクセスできるスナップショットについて次の情報を提供します。

表 A-18 SNAPSHOTS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(30)		スナップショットの所有者。
NAME	VARCHAR2(30)		スナップショットを表示するためにユーザーおよびアプリケーションが使用するビューの名前。
TABLE_NAME	VARCHAR2(30)		スナップショットが格納される表。
MASTER_VIEW	VARCHAR2(30)		スナップショット・マスター・ビューの名前。
MASTER_OWNER	VARCHAR2(30)		マスター表の所有者。

表 A-18 SNAPSHOTS のパラメータ (続き)

列	データ型	NULL	説明
MASTER	VARCHAR2(30)		このスナップショットのコピー元のマスター表の名前。
MASTER_LINK	VARCHAR2(128)		マスター・サイトへのデータベース・リンクの名前。
MASTER_ROLLBACK	VARCHAR2(30)		マスター・サイトで使用するロールバック・セグメント。
CAN_USE_LOG	VARCHAR2(3)		スナップショットでスナップショット・ログを使用できるかどうかを指定します。このスナップショットがスナップショット・ログを使用できる場合は YES、このスナップショットが複雑すぎてログを使用できない場合は NO です。
UPDATABLE	VARCHAR2(3)		スナップショットが更新可能かどうかを示します。更新可能の場合は YES、更新可能でない場合は NO です。NO の場合、スナップショットは読取り専用です。
SUBQUERY	VARCHAR2(3)		スナップショット問合せに副問合せが含まれているかどうかを示します。含まれている場合は YES、含まれていない場合は NO です。
KEYTYPE	VARCHAR2(4)		Oracle7 の場合に、スナップショットが ROWID スナップショットか主キー・スナップショットかを示します。値は、ROWID の場合は R、主キーの場合は P です。
SNAPSHOT_ID	DATE		Oracle7 の場合に、スナップショットの一意 ID を示します。
SNAPSHOT_ID8	NUMBER		Oracle8 の場合に、スナップショットの一意 ID を示します。

表 A-18 SNAPSHOTS のパラメータ (続き)

列	データ型	NULL	説明
SNAPTYPE	NUMBER		Oracle8 の場合に、スナップショットが ROWID スナップショットか主キー・スナップショットかを示します。値は、ROWID の場合は R、主キーの場合は P です。
REFMETHOD	NUMBER		リフレッシュ・タイプを示します。値は、COMPLETE、FAST、OPTIMUM (FORCE) です。この列は Oracle の内部使用専用です。
LAST_REFRESH	DATE		マスター・サイトでの最後のリフレッシュ日時。
TYPE	VARCHAR2(8)		スナップショット・タイプを示します。値は、複合の場合は C、単純の場合は S です。
NEXT	VARCHAR2(200)		次のリフレッシュ日付を計算する日付関数。
START_WITH	DATE		最初のリフレッシュ日付を計算する日付関数。
REFRESH_GROUP	NUMBER		リフレッシュ・グループの ID を示します。
UPDATE_TRIG	VARCHAR2(30)		UPDATE_LOG にデータを挿入するトリガーの名前。
UPDATE_LOG	VARCHAR2(30)		更新可能スナップショットに加えられた変更を記録する表。
STATUS	VARCHAR2(8)		実行時のリフレッシュ・ステータスを示します。
PKCOLS	VARCHAR2(1056)		主キー列を格納します。
TABLE_COUNT	NUMBER		副問合せスナップショットの表の数を示します。

表 A-18 SNAPSHOTS のパラメータ (続き)

列	データ型	NULL	説明
SCHEMA_CHANGED	CHAR(1)		マスター・スキーマが変更されたかどうかを示します。変更された場合は YES、変更されていない場合は NO です。
HIDDEN_COLUMNS	VARCHAR2(1056)		非表示列を格納します。
QUERY	LONG		スナップショットを定義する SQL 問合せ。

A.1.19 TABLE_PRIVILEGES

このビューは、オブジェクトに対する権限付与について、ユーザーまたは PUBLIC が権限受領者である場合の情報を提供します。

表 A-19 TABLE_PRIVILEGES のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの所有者のユーザー名。
TABLE_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの名前。
GRANTOR	VARCHAR2(128)		権限付与を実行したユーザーの名前。
GRANTEE	VARCHAR2(128)		アクセス権が付与されているユーザーの名前。
GRANT_TYPE	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトに対する権限。値は、SELECT、INSERT または DELETE のいずれかです。
GRANTABLE	VARCHAR2(128)		GRANT OPTION を指定して権限が付与されている場合は YES、それ以外の場合は NO です。

A.1.20 USER_OBJECTS

このビューは、ユーザーがアクセスできるオブジェクトについて次の情報を提供します。

表 A-20 USER_OBJECTS のパラメータ

列	データ型	NULL	説明
OWNER	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの所有者のユーザー名。
OBJECT_NAME	VARCHAR2(128)	NOT NULL	オブジェクトの名前。
OBJECT_ID	NUMBER(10)	NOT NULL	オブジェクトのオブジェクト識別子。
OBJECT_TYPE	VARCHAR2(128)		オブジェクトの型： TABLE、VIEW、INDEX、SEQUENCE、SYNONYM
CREATED	DATE		オブジェクトの作成タイムスタンプ。
LAST_DDL_TIME	DATE		DDL コマンド (GRANT および REVOKE を含む) の結果、オブジェクトが最後に変更されたタイムスタンプ。
CREATED_TIME	VARCHAR2(128)		オブジェクト (文字データ) の作成タイムスタンプ。
STATUS*	VARCHAR2(128)		オブジェクトのステータス VALID、INVALID または N/A (常に有効)。

SQL サポート

この章では、Oracle Lite for the Palm Computing Platform の SQL サポートについて説明します。内容は次のとおりです。

- [B.1 項「Oracle Lite for the Palm Computing Platform の SQL サポート」](#)

B.1 Oracle Lite for the Palm Computing Platform の SQL サポート

この項では、Oracle Lite for the Palm Computing Platform の SQL サポートについて説明します。

B.1.1 サポートされる SQL 文

Oracle Lite for the Palm Computing Platform でサポートされる SQL 文を次にリストします。SQL 文は、大文字である必要があります。

表 B-1 サポートされる SQL 文

SQL 文	説明
CREATE TABLE	表を作成します。
DROP TABLE	表を削除します。
CREATE INDEX	表に索引を作成します。
DROP INDEX	索引を削除します。
DELETE	表から 1 つまたは複数の行を削除します。
INSERT	表に行を挿入します。
SELECT	一連の行を検索して取得します。
UPDATE	1 つまたは複数の行を更新します。
COMMIT	変更内容をコミットします。
ROLLBACK	変更内容をロールバックします。

B.1.2 CREATE TABLE

データベースに表を作成します。

図 B-1 CREATE TABLE 文の構文

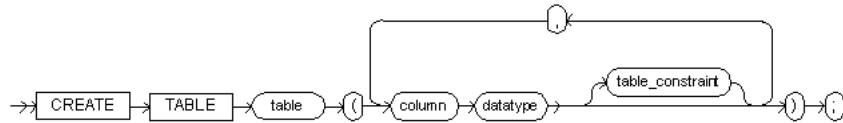


表 B-2 CREATE TABLE の引数

引数	説明
<i>table</i>	作成する表の名前。
<i>column</i>	列の名前。
<i>datatype</i>	列のデータ型。サポートされるデータ型のリストは、「 サポートされるデータ型 」を参照してください。
<i>table_constraint</i>	オプションの制約。PRIMARY KEY または NOT NULL。

B.1.3 DROP TABLE

DROP TABLE 文は、データベースから表を削除します。

図 B-2 DROP TABLE 文の構文



表 B-3 DROP TABLE の引数

引数	説明
<i>table</i>	削除する表の名前。

B.1.4 CREATE INDEX

CREATE INDEX 文は、表に索引を作成します。

図 B-3 CREATE INDEX 文の構文

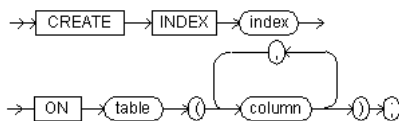


表 B-4 CREATE INDEX の引数

引数	説明
<i>index</i>	索引の名前。データベースで一意である必要があります。
<i>table</i>	索引を作成する表の名前。
<i>column</i>	索引を構成するために使用する列の名前。

B.1.5 DELETE

DELETE 文は、WHERE 句で設定した条件に一致する行をすべて削除します。WHERE 句を指定しない場合、表のすべての行が削除されます。

図 B-4 DELETE 文の構文

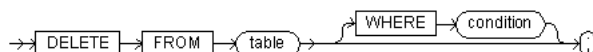


表 B-5 DELETE の引数

引数	説明
<i>table</i>	表の名前。
<i>condition</i>	オプションの検索条件。条件に一致する行のみが削除されます。WHERE 句を指定しない場合、表のすべての行が削除されます。

B.1.6 DROP INDEX

DROP INDEX 文は、索引を削除します。

図 B-5 DROP INDEX 文の構文

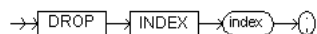


表 B-6 DROP INDEX の引数

引数	説明
<i>index</i>	削除する索引の名前。

B.1.7 INSERT

INSERT 文は、表に新規行を挿入します。列リストを指定しない場合、データは表に列が定義されている順に更新されます。

図 B-6 INSERT 文の構文

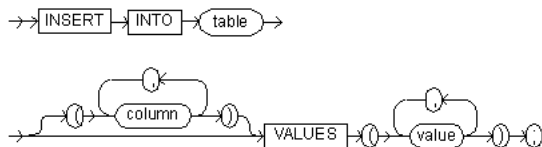


表 B-7 INSERT の引数

引数	説明
<i>table</i>	行を挿入する表の名前。
<i>column</i>	列の名前。
<i>value</i>	列に格納するリテラル値。詳細は、「 リテラル値 」を参照してください。

B.1.8 SELECT

SELECT 文は、1つまたは複数の表から行を問い合わせます。

図 B-7 SELECT 文の構文

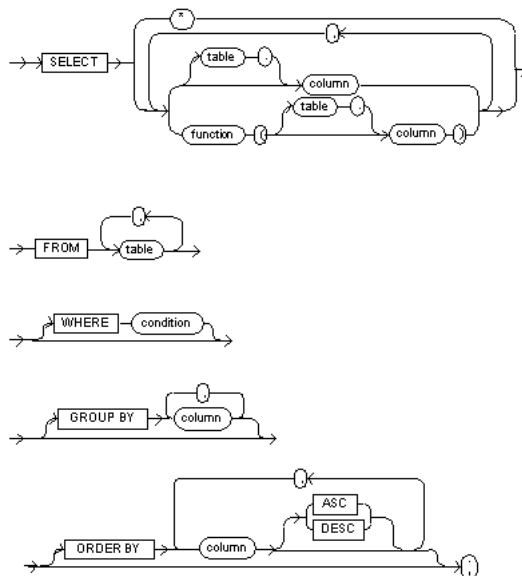


表 B-8 SELECT の引数

引数	説明
<i>table</i>	表の名前。
<i>column</i>	列の名前。
<i>function</i>	列関数。サポートされる列関数のリストは、「 サポートされるグループ関数 」を参照してください。
<i>condition</i>	選択条件。条件に一致する行のみが選択されます。指定しない場合、表のすべての行が選択されます。詳細は、「 条件 」を参照してください。
ORDER BY	SELECT 文によって戻された行を、指定された <i>column</i> に従って順序付けします。

B.1.9 UPDATE

UPDATE 文は、指定した条件に一致する行をすべて更新します。

図 B-8 UPDATE 文の構文

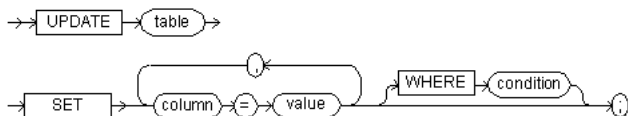


表 B-9 UPDATE の引数

引数	説明
<i>table</i>	表の名前。
<i>column</i>	列の名前。
<i>value</i>	列に格納するリテラル値。詳細は、「 リテラル値 」を参照してください。
<i>condition</i>	検索条件。条件に一致する行のみが更新されます。WHERE 句を指定しない場合、表のすべての行が更新されます。詳細は、「 条件 」を参照してください。

B.1.10 COMMIT

COMMIT 文は、現在のトランザクションで行われた変更をコミットします。

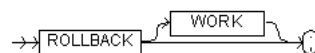
図 B-9 COMMIT 文の構文



B.1.11 ROLLBACK

ROLLBACK 文は、現在のトランザクションで行われた変更をロールバックします。

図 B-10 ROLLBACK 文の構文



B.1.12 条件

WHERE 句は、行の結果リストを選択する条件を定義します。WHERE 句は、SELECT、UPDATE および DELETE の各コマンドとともに使用できます。

図 B-11 WHERE 句の構文

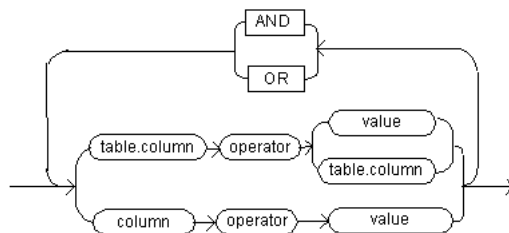


表 B-10 WHERE 句のパラメータ

要素	説明
<i>column</i>	列の名前。
<i>operator</i>	比較演算子。「 比較演算子 」を参照してください。
<i>value</i>	リテラル値。詳細は、「 リテラル値 」を参照してください。

比較文にはそれぞれ、左オペランド、比較演算子および右オペランドがあります。

左オペランドは、有効な列名である必要があります。SELECT 文の場合、列名は *table.column* 形式で指定できます。*table* は表の名前です。表名を指定しない場合、FROM 句で指定した最初の表が使用されます。

B.1.13 比較演算子

比較演算子は、左オペランドと右オペランドを比較する方法を定義します。次の表にサポートされる演算子をリストします。

表 B-11 比較演算子

演算子	説明
=	等しい。
<>, !=, ^=	等しくない。
<	より小さい。
>	より大きい。

表 B-11 比較演算子 (続き)

演算子	説明
<=	以下。
>=	以上。
LIKE	右オペランドに指定した文字から開始します。「%」記号は、文字列の最後に置かれる場合にのみサポートされます。
NOT LIKE	指定した文字からは開始しません。
IS NULL	NULL 値。
IS NOT NULL	NULL 値ではない。

右オペランドは、リテラル値または列名のいずれかにできます。UPDATE 文と DELETE 文の場合、右オペランドはリテラル値である必要があります。文が有効になるためには、2つのオペランドが同じ型である必要があります。

比較文は AND 演算子や OR 演算子で連鎖できます。AND 演算子は、OR 演算子に優先します。カッコを使用したグループ化は現在サポートしていません。

たとえば、EmpID 列 (INTEGER 型) が 158 に等しい列を持つ行を検索するには、次のようにします。

```
WHERE EmpID = 158
```

EmpID 列が 50 より大きく 100 未満でかつ 90 でない行、または Name 列 (VARCHAR 型) が 'Sam' で始まる行を検索するには、次のようにします。

```
WHERE EmpID > 50 AND EmpID < 100 AND EmpID <> 90 OR Name LIKE 'Sam%'
```

EmpID 列が Dept 表の行と一致し、Name 列が NULL でない Emp 表の行をすべて検索するには、次のようにします。

```
WHERE Emp.EmpID = Dept.EmpID AND Emp.Name IS NOT NULL
```

B.1.14 リテラル値

リテラル値という語は、固定データ値を意味します。たとえば、'Jack'、'Sam' および '101' はすべて文字リテラル値です。リテラル数値は、-2147483647 から 2147483647 に制限されています。より大きい数が必要な場合は、数値に小数点とゼロ (.0) を付加して、パーサーに強制的に実数として表示させます。たとえば、1234567890 のかわりに 1234567890.0 を使用します。

表 B-12 リテラル値パラメータ

リテラル	説明
テキスト	<p>CHAR、VARCHAR および VARCHAR2 のプロパティを持つリテラル文字列。テキスト・リテラル値は、引用符によってカプセル化されます。</p> <p>例: 'Jack' および 'How are you today?'</p> <p>テキスト・リテラルの内部に引用符を指定するには、内部の引用符の前にもう 1 つ引用符を付けます。</p> <p>例: 'My cat's name'</p> <p>空の文字列 (サイズがゼロ) を指定するには、引用符を 2 個 ("") 指定します。</p>
整数	<p>小数点を含まない数値。整数は数字の配列として指定され、オプションで前に符号文字 (+ または -) が付きます。たとえば、次のようになります。123、256789 および -125。整数リテラル値の型は、INTEGER または CHAR (単一文字) です。</p>
数値	<p>数値リテラル値は、小数点付きの実数です。数値リテラル値は、オプションの符号文字 (+ または -) で始まり、1 個以上の数字、1 つの小数点 (.) および 1 個以上の数字で構成される必要があります。たとえば、次のようになります。12.345、55.0、-1234.5567 および +123.9。数値リテラル値は、NUMBER 型、DECIMAL 型または NUMERIC 型として処理されます。小数点がない場合、値は整数として処理されます。</p>
日付、時間、タイムスタンプ	<p>日付と時間は、文字列を次のいずれかの書式で指定する必要があります。これを除いて、リテラル・テキストと同様に指定されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 'yyyy-mm-dd' (日付を指定) ■ 'hh:mm:ss' (時間を指定) ■ 'yyyy-mm-dd hh:mm:ss' (日付と時間を指定) <p>たとえば、次のようになります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ '1970-07-15' ■ '12:59:31' ■ '1999-12-30 12:50:00'

B.1.15 サポートされるデータ型

Oracle Lite for the Palm Computing Platform では、次のデータ型がサポートされます。

表 B-13 サポートされるデータ型

データ型	説明
BINARY	最高 4,096 バイトのバイナリ・データの格納が可能です。
BLOB	バイナリ・ラージ・オブジェクト (Binary Large Object: BLOB)。精度 (格納できる桁数またはビット数) を指定する必要があります。最大サイズは 64KB です。
CHAR	固定長文字データ。最大サイズは 10KB です。デフォルトおよび最小サイズは 1 バイトです。
DATE	BC4712 年の 1 月 1 日から AD4712 年の 12 月 31 日までの範囲の有効な日付。書式は 'yyyy-mm-dd' です。
DECIMAL	精度 (10 進数値) またはスケール (小数値) で測定可能な数値。精度は DECIMAL (<i>p</i>) を使用して計算できます。スケールは DECIMAL (<i>p, s</i>) を使用して計算できます。スケールは精度より大きくできません。
DOUBLE	仮数の小数精度が 15 の符号付き概数値。絶対値は 0 または 10^{-308} と 10^{308} の間です。
FLOAT	浮動小数点数。
INTEGER および INT	オペレーティング・システムによって精度が定義される整数値。値の範囲は、-214783647 ~ 214783647 です。
NUMBER および NUMERIC	精度 (10 進数値) またはスケール (小数値) で測定可能な数値。精度は NUMERIC (<i>p</i>) を使用して計算できます。スケールは NUMERIC (<i>p, s</i>) を使用して計算できます。精度の最大値は 38 です。スケールは精度より大きくできません。
REAL	オプションなしの単精度浮動小数点を要求できます。精度は実装によって選択され、通常はハードウェア・プラットフォームのデフォルトの単精度データ型となります。
SMALLINT	精度が実装で定義される小さい整数です。値の範囲は、-32768232767 ~ 32768232767 です。
TIME	時間値を時、分および秒で格納します。時は 00 ~ 23 の範囲の 2 つの数字で表され、分は 00 ~ 59 の範囲の 2 つの数字で表されます。秒の範囲は 00 ~ 59 です。書式は 'hh:mm:ss' です。
TIMESTAMP	日付と時刻を格納します。書式は 'yyyy-mm-dd hh:mm:ss' です。

表 B-13 サポートされるデータ型 (続き)

データ型	説明
VARCHAR	最大サイズ 10KB の可変長文字列。サイズを指定する必要があります。精度付きの VARCHAR データ型は、可変長文字列として定義されます。
VARCHAR2	最大サイズ 10KB の可変長文字列。サイズを指定する必要があります。

B.1.16 サポートされるグループ関数

グループ関数は、行のグループを基にした結果を戻します。グループ関数は、SELECT 文の列リストで使用できます。Oracle Lite for the Palm Computing Platform では、次のグループ関数がサポートされます。

表 B-14 サポートされるグループ関数

関数	説明
AVG(<i>column</i>)	行のグループの <i>column</i> の平均値。
COUNT(<i>column</i>)	問合せ内の行数。NOT NULL 値を指定された <i>column</i> を持つ行のみがカウントされます。
COUNT(*)	表内のすべての行数。行内の列が NULL かどうかにかかわらず。
MAX(<i>column</i>)	行のグループの <i>column</i> の最大値。
MIN(<i>column</i>)	行のグループの <i>column</i> の最小値。
SUM(<i>column</i>)	行のグループの <i>column</i> の合計。

注意： AVG と SUM は、INTEGER (INT) データ型および SMALLINT データ型でのみサポートされます。

SELECT 文でグループ関数を使用する場合は、GROUP BY 句を指定する必要があります。

B.1.17 サポートされる日付関数

日付関数は日付を戻します。Oracle Lite for the Palm Computing Platform では、次の日付関数がサポートされます。

表 B-15 サポートされる日付関数

関数	説明
CURRENT_DATE	現在の日付を戻します。
CURRENT_TIME	現在の時刻を戻します。
SYSDATE	現在の日付と時刻を戻します。

ODBC サポート

この章では、Oracle Lite for the Palm Computing Platform に対する Open Database Connectivity (ODBC) サポートについて説明します。内容は次のとおりです。

- [C.1 項「Oracle Lite for the Palm Computing Platform の ODBC サポート」](#)

C.1 Oracle Lite for the Palm Computing Platform の ODBC サポート

Oracle Lite for the Palm Computing Platform では、ODBC 3.0 Application Programming Interface (API) 標準のサブセットをサポートしています。ODBC API を使用すると、アプリケーションは携帯端末の Oracle Lite データベースに格納されたデータにアクセスできます。

Oracle Lite ODBC ライブラリは動的 SQL モデルをサポートしています。このモデルでは、アプリケーションが実行時に SQL 文を構成して携帯端末上で直接実行できます。

サポートされる全 ODBC API 関数を次にリストし、説明します。

表 C-1 ODBC API 関数

関数	説明
SQLAllocConnect	指定した環境を使用する接続ハンドルにメモリーを割り当てます。
SQLAllocEnv	環境ハンドルにメモリーを割り当てます。
SQLAllocHandle	環境ハンドル、接続ハンドルおよび文ハンドルを割り当てるための汎用関数です。
SQLAllocStmt	指定した接続を使用する文ハンドルにメモリーを割り当てます。
SQLFreeConnect	指定したハンドルを使用する接続中のデータベースを切断し、ハンドルを解放します。
SQLFreeEnv	指定したハンドルを解放します。ハンドルに関連するコミットされていないトランザクションはロールバックされます。
SQLFreeHandle	環境ハンドル、接続ハンドルおよび文ハンドルを解放するための汎用関数です。
SQLFreeStmt	指定した文ハンドルとそれに関連する一時メモリーを解放します。
SQLConnect	データベースに接続し、指定した接続ハンドルに接続に関する情報を保存します。
SQLDisconnect	以前接続していたデータベースを切断し、クローズします。
SQLBindParameter	データ・バッファを SQL 文のパラメータ・マーカーにバインドします。
SQLPrepare	SQL 文をコンパイルし、指定した文ハンドルにその情報を格納します。
SQLExecDirect	指定した SQL 文をコンパイルし、実行します。
SQLExecute	SQLPrepare を使用してプリコンパイルされた SQL を実行します。
SQLFetch	結果セットからデータ行を読み取ります。この関数をコールした後、カーソルは次に読み取る行に置かれます。

表 C-1 ODBC API 関数 (続き)

関数	説明
SQLBindCol	バッファを結果セットの列にバインドします。
SQLDescribeCol	結果セットの列に関する情報を取得します。
SQLError	指定したハンドルに関連する最新のエラーの詳細を取り出します。
SQLGetData	現在行から指定したバッファに単一列を読み取ります。
SQLNumResultCols	結果セット内の列数を戻します。
SQLRowCount	SQL SELECT 文、UPDATE 文または DELETE 文で影響を受けた行数を戻します。
SQLTransact	環境に対応付けられたすべての文のすべてのアクティブな操作に対して、コミットまたはロールバックを要求します。

C.1.1 SQLAllocConnect

指定した環境 `hEnv` を使用する接続ハンドルにメモリーを割り当てます。

構文

```
RETICODE SQLAllocConnect( hEnv, hDbc )
```

引数

表 C-2 SQLAllocConnect の引数

型	名前	説明
SQLHENV	hEnv	環境ハンドル。NULL に設定した場合、新しい環境を作成します。
SQLHDBC*	hDbc	接続ハンドルへのポインタ。ルーチンは新規に割り当てられたメモリーのアドレスをこのハンドルに格納します。

使用方法

この関数は、ODBC 2.0 との下位互換性のためにサポートされています。新規アプリケーションは、SQLAllocHandle 関数およびハンドル・タイプ `SQL_HANDLE_DBC` を使用してコード化する必要があります。SQLAllocConnect は内部的に SQLAllocHandle をコールします。

戻り値

成功した場合、SQLAllocConnect は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した環境ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.2 SQLAllocEnv

SQLAllocEnv は環境ハンドルにメモリーを割り当てます。

複数の接続や文ハンドルに対して単一のトランザクションを共有するには、SQLAllocConnection、SQLAllocStmt または SQLAllocHandle に同じ環境ハンドルを渡します。この方法により、新規ハンドルは同じ環境ハンドルを継承して共有できます。これらのハンドルを解放しても、実際の接続やトランザクションは解放されません。リソースは、元の環境ハンドルが解放されるまで解放されません。

構文

```
RETCODE SQLAllocEnv( hEnv )
```

引数**表 C-3 SQLAllocEnv の引数**

型	名前	説明
SQLHENV*	hEnv	環境ハンドルへのポインタ

使用方法

この関数は、ODBC 2.0 との下位互換性のためにサポートされています。新規アプリケーションは、SQLAllocHandle 関数およびハンドル・タイプ SQL_HANDLE_ENV を使用してコード化する必要があります。SQLAllocEnv は内部的に SQLAllocHandle をコールします。

戻り値

成功した場合、SQLAllocEnv は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから SQLError をコールして、ハンドル・パラメータとして NULL を渡します。

C.1.3 SQLAllocHandle

SQLAllocHandle は、環境ハンドル、接続ハンドルおよび文ハンドルを割り当てるための汎用関数です。

この関数は、個々のハンドル・タイプに対する古い割当て関数（SQLAllocEnv、SQLAllocConnection および SQLAllocStmt）を置き換えます。

新規環境ハンドルごとにトランザクション表（新規 OKAPI 環境）が作成されます。複数の接続や文ハンドルに対して単一のトランザクションを共有するには、同じ環境ハンドルを SQLAllocHandle の inputHandle 引数として渡します。この方法により、新規ハンドルは同じ環境ハンドルを継承して共有できます。これらのハンドルを解放しても、実際の接続やトランザクションは解放されません。リソースは、元の環境ハンドルが解放されるまで解放されません。同じ方法を使用して、接続も共有できます。

構文

```
RETCODE SQLAllocHandle( handleType, inputHandle, outputHandle )
```

引数

表 C-4 SQLAllocHandle の引数

型	説明	名前
SQLSMALLINT	割り当てるハンドルのタイプ。詳細は、次の「 使用方法 」を参照してください。	handleType
SQLHANDLE	新規ハンドルの基になるハンドル。環境ハンドルまたは接続ハンドルのいずれかです。 新規ハンドルを初めから作成するには、NULL を渡します。	inputHandle
SQLHANDLE*	新規に作成されたハンドル用の記憶域へのポインタ。	outputHandle

使用方法

アプリケーションは、使用する API 関数によって異なる種類のハンドルを割り当てます。ハンドルは各関数に対するコンテキストを提供します。次のハンドルがサポートされています。

表 C-5 ハンドル・パラメータ

ハンドル	型	説明
環境	SQL_TYPE_ENV	環境ハンドルは、環境を作成するために使用します。各環境には、データベースにアクセスするための汎用情報が含まれています。新規トランザクションは、新規に作成された環境ハンドルに対応付けられます。
接続	SQL_TYPE_DBC	接続ハンドルは、特定の Oracle Lite データベースへの接続をオープンするために使用します。同一の環境ハンドルに基づいて複数の接続ができるため、複数のデータベース接続で同一のトランザクションが共有されます。ただし、単一の環境ハンドルを共有できる最大接続数は 8 個です。
文	SQL_TYPE_STMT	文ハンドルには、コンパイル済み SQL 文とその結果についての情報が格納されます。

戻り値

成功した場合、SQLAllocHandle は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから inputHandle 引数を指定して SQLError をコールします。

C.1.4 SQLAllocStmt

SQLAllocStmt は、指定した接続 hDbc を使用する文ハンドルにメモリーを割り当てます。

構文

```
RETCODE SQLAllocStmt( hDbc, hStmt )
```

引数

表 C-6 SQLAllocStmt の引数

型	名前	説明
SQLHDBC	hDbc	新規ハンドルを作成する接続ハンドル
SQLHSTMT*	hStmt	文ハンドルへのポインタ

使用方法

この関数は、ODBC 2.0 との下位互換性のためにサポートされています。新規アプリケーションは、SQLAllocHandle 関数およびハンドル・タイプ SQL_HANDLE_STMT を使用してコード化する必要があります。SQLAllocStmt は内部的に SQLAllocHandle をコールします。

戻り値

成功した場合、SQLAllocStmt は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した接続ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.5 SQLFreeConnect

SQLFreeConnect は、指定したハンドルを使用する接続中のデータベースから切断し、ハンドルを解放します。

構文

```
RETCODE SQLFreeConnect( hDbc )
```

引数

表 C-7 SQLFreeConnect の引数

型	名前	説明
SQLHDBC	hDbc	解放する接続ハンドル

使用方法

この関数は廃止され、新規汎用関数 `SQLFreeHandle` に置き換われました。

戻り値

成功した場合、`SQLFreeConnect` は `SQL_SUCCESS` を戻します。それ以外の場合は、`SQL_ERROR` を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した環境ハンドルを使用して `SQLError` をコールします。

C.1.6 SQLFreeEnv

`SQLFreeEnv` は指定したハンドルを解放します。ハンドルに関連するコミットされていないトランザクションはロールバックされます。

構文

```
RETCODE SQLFreeEnv( hEnv )
```

引数**表 C-8 SQLFreeEnv の引数**

型	名前	説明
SQLHENV	hEnv	解放する環境ハンドル

注意

この関数は廃止され、新規汎用関数 `SQLFreeHandle` に置き換われました。

戻り値

成功した場合、`SQLFreeEnv` は `SQL_SUCCESS` を戻します。それ以外の場合は、`SQL_ERROR` を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した環境ハンドルを使用して `SQLError` をコールします。

C.1.7 SQLFreeHandle

`SQLFreeHandle` は、環境ハンドル、接続ハンドルおよび文ハンドルを解放するための汎用関数です。

ハンドルには最後に使用した方法に関する情報、つまり解放の方法が内部的に格納されているため、引数 `handleType` は使用されません。

構文

```
RETCODE SQLFreeHandle( handleType, handle )
```

引数

表 C-9 SQLFreeHandle の引数

型	名前	説明
SQLSMALLINT	handleType	解放するハンドルのタイプ
SQLHANDLE	handle	解放するハンドル

戻り値

成功した場合、SQLFreeHandle は SQL_SUCCESS を返します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を返します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定したハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.8 SQLFreeStmt

SQLFreeStmt は、指定した文ハンドルとそれに関連する一時メモリーを解放します。

構文

```
RETCODE SQLFreeStmt( hStmt, Option )
```

引数

表 C-10 SQLFreeStmt の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	解放する文ハンドル。
SQLUSMALLINT	オプション	この引数は現在サポートされていないため無視されます。

使用方法

この関数は廃止され、新規汎用関数 SQLFreeHandle に置き換われました。

戻り値

成功した場合、SQLFreeStmt は SQL_SUCCESS を返します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を返します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した環境ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.9 SQLConnect

SQLConnect は、データベースに接続し、指定した接続ハンドルに接続に関する情報を保存します。ハンドルは、SQLAllocateHandle 関数を使用して事前に割り当てる必要があります。

構文

```
RETCODE SQLConnect( hConn, dbName, dbNameLen, userName, userNameLen, auth, authLen )
```

引数

表 C-11 SQLConnect の引数

型	名前	説明
SQLHDBC	hConn	新規に割り当てた接続ハンドル。渡された接続ハンドルが使用中の場合、関数は既存の接続をクローズします。
SQLCHAR*	dbName	接続先のデータベース名。
SQLSMALLINT	dbNameLen	データベース名の長さ。
SQLCHAR*	userName	この引数は現在サポートされていないため無視されます。
SQLSMALLINT	userNameLen	この引数は現在サポートされていないため無視されます。
SQLCHAR*	auth	この引数は現在サポートされていないため無視されます。
SQLSMALLINT	authLen	この引数は現在サポートされていないため無視されます。

戻り値

成功した場合、SQLConnect は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した接続ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.10 SQLDisconnect

SQLDisconnect は以前接続していたデータベースを切断し、クローズします。

接続するために使用した環境が、接続をクローズする前にコミットされていない場合、以降のコミットは失敗します。

構文

```
RETCODE SQLDisconnect( hDbc )
```

引数

表 C-12 SQLDisconnect の引数

型	名前	説明
SQLHDBC	hDbc	切断する接続ハンドル

戻り値

成功した場合、SQLDisconnect は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した接続ハンドルを使用して SQL_ERROR をコールします。

C.1.11 SQLBindParameter

SQLBindParameter は、データ・バッファを SQL 文のパラメータ・マーカにバインドします。パラメータ・マーカは、SQL 文に「?」で示されます。

構文

```
RETCODE SQLBindParameter( hStmt, paramNo, paramType, cType, sqlType, colDef, scale, value, valueMaxSize, valueSize )
```

引数

表 C-13 SQLBindParameter の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル。
SQLUSMALLINT	paramNo	バインド先のパラメータ・マーカ番号。1 で始まり、左から右にカウントされます。

表 C-13 SQLBindParameter の引数 (続き)

型	名前	説明
SQLSMALLINT	paramType	パラメータ・タイプ。現在、SQL_PARAM_INPUT のみがサポートされます。
SQLSMALLINT	cType	パラメータの C 言語データ型。
SQLSMALLINT	sqlType	パラメータの SQL データ型。
SQLINTEGER	colDef	パラメータの精度。
SQLSMALLINT	scale	パラメータのスケール。
SQLPOINTER	value	パラメータを格納するバッファへのポインタ。
SQLINTEGER	valueMaxSize	パラメータ・バッファのサイズ。
SQLINTEGER*	valueSize	パラメータ値の実際のサイズ。

戻り値

成功した場合、SQLBindParameter は SQL_SUCCESS を返します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を返します。

C.1.12 SQLPrepare

SQLPrepare は SQL 文をコンパイルし、指定した文ハンドルにその情報を格納します。

構文

```
RETCODE SQLPrepare( hStmt, statement, statementLen )
```

引数

表 C-14 SQLPrepare の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル
SQLCHAR*	statement	SQL 文の文字列
SQLINTEGER	statementLen	SQL 文の文字列の長さ

戻り値

成功した場合、SQLPrepare は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.13 SQLExecDirect

SQLExecDirect は指定した SQL 文をコンパイルし、実行します。

構文

```
RETCODE SQLExecDirect( hStmt, statement, statementLen )
```

引数**表 C-15 SQLExecDirect の引数**

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル
SQLCHAR*	statement	SQL 文の文字列
SQLINTEGER	statementLen	SQL 文の文字列の長さ

戻り値

成功した場合、SQLExecDirect は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.14 SQLExecute

SQLExecute は SQLPrepare を使用してプリコンパイルされた SQL を実行します。

構文

```
RETCODE SQLExecute( hStmt )
```

引数**表 C-16 SQLExecute の引数**

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル

戻り値

成功した場合、SQLExecute は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.15 SQLFetch

SQLFetch は結果セットからデータ行を読み取ります。この関数をコールした後、カーソルは次に読み取る行に置かれます。

アプリケーションは SQLGetData をコールして、読み取られた行の列を読み取れます。

アプリケーションが SQLBindCol をコールして列をバインドした場合、SQLFetch は指定されたバッファに行のデータを格納します。

構文

```
RETCODE SQLFetch( hStmt )
```

引数

表 C-17 SQLFetch の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル

戻り値

新規データ行が正常に読み取られた場合、SQLFetch は SQL_SUCCESS を戻します。

読み取る行がない場合、SQLFetch は SQL_NO_DATA_FOUND を戻します。

エラーが発生した場合、関数は SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.16 SQLBindCol

SQLBindCol はバッファを結果セットの列にバインドします。バッファは、SQLFetch がコールされたときに更新されます。その後、結果セットの新規列が読み取られます。

SQLBindCol は、SQLFetch をコールする前であれば、文をプリコンパイルして実行する前でも後でもコールできます。

構文

```
RETCODE SQLBindCol( hStmt, columnNo, targetType, targetValue, targetSize, actualSize )
```

引数

表 C-18 SQLBindCol の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル。
SQLUSMALLINT	columnNo	バインド先の結果セットの列番号。
SQLSMALLINT	targetType	バッファの C 言語データ型。
SQLPOINTER	targetValue	列データを保持するバッファへのポインタ。
SQLINTEGER	targetSize	バッファのサイズ (バイト単位)。
SQLINTEGER*	actualSize	読み取ったデータのサイズを保持するバッファへのポインタ。この情報が必要ない場合は、NULL を指定できます。

戻り値

成功した場合、SQLBindCol は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.17 SQLDescribeCol

SQLDescribeCol は結果セットの列に関する情報を取得します。

構文

```
RETCODE SQLDescribeCol( hStmt, columnNo, columnName, columnNameMaxLen,
datatype, columnNameLen, columnSize, decimalDigits, nullable )
```

引数

表 C-19 SQLDescribeCol の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル。
SQLUSMALLINT	columnNo	結果セット内の列番号。
SQLCHAR*	columnName	戻された列名を格納する文字列バッファへのポインタ。
SQLSMALLINT	columnNameMaxLen	文字列バッファのサイズ。
SQLSMALLINT	*columnNameLen	戻された列名サイズ (バイト単位)。
SQLSMALLINT*	dataType	戻された SQL データ型。
SQLINTEGER*	columnSize	戻された列サイズ。
SQLSMALLINT*	decimalDigits	戻された列精度。
SQLSMALLINT*	nullable	列が NULL 化可能な場合は 1、可能でない場合は 0 に設定されます。

戻り値

成功した場合、SQLDescribeCol は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQL_ERROR をコールします。

C.1.18 SQLERROR

SQLERROR は指定したハンドルに関連する最新のエラーの詳細を抽出します。

構文

```
RETCODE SQLERROR( hEnv, hConn, hStmt, sqlState, nativeError, messageText,
messageMaxSize, messageLength)
```

引数

表 C-20 SQLERROR の引数

型	名前	説明
SQLHENV	hEnv	環境ハンドル
SQLHDBC	hConn	データベース・ハンドル
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル
SQLCHAR*	sqlState	戻された SQLSTATE を格納する文字列バッファへのポインタ
SQLINTEGER*	nativeError	システム固有のエラー・コード
SQLCHAR*	messageText	エラー・メッセージのテキスト
SQLSMALLINT	messageMaxSize	渡すバッファのサイズ
SQLSMALLINT*	messageLen	戻されたメッセージ・テキストの長さ

戻り値

最新のエラーに関連する情報を取得できた場合、SQLERROR は SQL_SUCCESS を戻します。指定したハンドルに関連するエラーがなかった場合、関数は SQL_NO_DATA_FOUND を戻します。

C.1.19 SQLGetData

SQLGetData は現在行から指定したバッファに単一行を読み取ります。このルーチンでは、データは宛先バッファの型に変換されます。

構文

```
RETCODE SQLGetData( hStmt, columnNo, targetType, targetValue, targetSize, actualSize )
```

引数

表 C-21 SQLGetData の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル
SQLUSMALLINT	columnNo	列数
SQLSMALLINT	targetType	targetValue バッファのタイプ
SQLPOINTER	targetValue	結果の列データを格納する バッファへのポインタ
SQLINTEGER	targetSize	バッファのサイズ
SQLINTEGER*	actualSize	指定したバッファに読み取ら れた実際のバイト数

戻り値

成功した場合、SQLGetData は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQL_ERROR をコールします。

C.1.20 SQLNumResultCols

SQLNumResultCols は結果セット内の列数を戻します。

構文

```
RETCODE SQLNumResultCols( hStmt, columnCount )
```

引数

表 C-22 SQLNumResultCols の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル
SQLSMALLINT*	columnCount	結果セット内に戻された列数を格納するバッファへのポインタ

戻り値

成功した場合、SQLNumResultCols は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQL_ERROR をコールします。

C.1.21 SQLRowCount

SQLRowCount は、SQL SELECT 文、UPDATE 文または DELETE 文で影響された行数を返します。

構文

```
RETCODE SQLRowCount( hStmt, rowCount )
```

引数

表 C-23 SQLRowCount の引数

型	名前	説明
SQLHSTMT	hStmt	文ハンドル
SQLINTEGER*	rowCount	結果セット内の行数

戻り値

成功した場合、SQLRowCount は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した文ハンドルを使用して SQLError をコールします。

C.1.22 SQLTransact

SQLTransact は、環境に対応付けられたすべての文に関するすべてのアクティブな操作に対して、コミットまたはロールバックを要求します。

構文

```
RETCODE SQLTransact( hEnv, hDbc, completionType )
```

引数**表 C-24 SQLTransact の引数**

型	名前	説明
SQLHENV	hEnv	環境ハンドル
SQLHDBC	hDbc	接続ハンドル。使用しません。
SQLUSMALLINT	completionType	トランザクション・アクション。SQL_COMMIT または SQL_ROLLBACK のいずれかにできます。

戻り値

成功した場合、SQLTransact は SQL_SUCCESS を戻します。それ以外の場合は、SQL_ERROR を戻します。エラーの詳細は、アプリケーションから指定した環境ハンドルを使用して SQLError をコールします。

Mobile SQL

この章では、Oracle Lite Mobile SQL について説明します。この章の各項では、それぞれ異なるトピックを説明します。内容は次のとおりです。

- D.1 項「概要」
- D.2 項「インストールとセットアップ」
- D.3 項「Main フォーム」
- D.4 項「Table フォーム」
- D.5 項「SQL フォーム」
- D.6 項「[「行の編集」オプション」
- D.7 項「Palm OS 固有の機能」

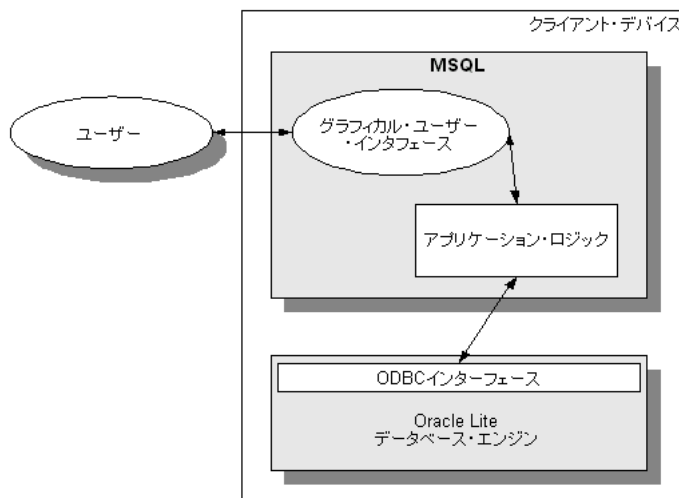
D.1 概要

Mobile SQL は、クライアント・デバイス（ラップトップ、Palm OS、EPOC および Windows CE）上で実行されるアプリケーションです。これを使用すると、ローカル・データベースに対して SQL 文を実行できます。このアプリケーションは開発ツールでもありコード例でもあります。ユーザーは、基盤となる Oracle Lite データベース・エンジンの ODBC および Oracle Lite OKAPI インタフェースによって提供される機能にアクセスできません。Mobile SQL（Palm OS マシン用）は、GUI ベースのインタフェースを持ちます。

D.1.1 データベース・アクセス

Mobile SQL は、ODBC と OKAPI の両方のインタフェースを介して、データベースにアクセスします。ほとんどの機能は ODBC を介して実行されますが、ODBC で処理できない機能は OKAPI ファンクション・コールを使用して実装されます。

図 D-1 Mobile SQL の概要



Mobile SQL では、次の機能が提供されます。

- データベースの作成と削除
- データベースへの接続
- データベースで使用できる表のリスト
- 表ビューでの表の行と列の表示
- 表の列の更新

- 表からの行の削除
- SQL 文入力用の対話型コンソール

D.2 インストールとセットアップ

Mobile SQL の使用を開始するには、次の構成手順に従います。

1. Java Runtime Engine バージョン 1.2.2 をインストールしてあることを確認します。バージョンが不確実な場合は、コンソール・コマンド「`java -version`」で、使用中の Java バージョンが返されます。
2. Palm Computing のインストール・ツールを使用して、**msql.prc**、**okindex.prc** および **odbc.prc** をインストールします。

インストールすると、Palm OS マシン画面に Mobile SQL アイコンが表示されます。

D.2.1 Mobile SQL の起動と停止

Mobile SQL は、デバイス画面で「Mobile SQL」アイコンをクリックして起動します。

D.3 Main フォーム

プログラムを実行したときに最初に表示されるフォームで、データベースへの接続をユーザーに要求します。ここで、データベースの作成や削除もできます。

図 D-2 Mobile SQL データベース画面



Main フォームの構成要素は、次のとおりです。

表 D-1 Main フォームのオプション

項目	説明
データベース・リスト	ローカル・デバイス上の使用可能な Oracle Lite データベースを表示します。
オープン	クリックすると、現在選択（または入力）されているデータベースがオープンされます。Mobile SQL により Table フォームが表示されます。
情報	「情報」ダイアログ・ボックスを表示します。
DB 作成	「列の編集」ダイアログ・ボックスを表示します。
削除	「確認」ダイアログ・ボックスに「Are you sure you want to delete the database "<Name>?" というメッセージを表示します。<Name> は、現在選択されているデータベース名です。「OK」ボタンをクリックすると、アプリケーションはデータベースを削除します。
上向き矢印	現在の選択をリスト内の 1 つ前のデータベースに移動します。
下向き矢印	現在の選択をリスト内の次のデータベースに移動します。

D.4 Table フォーム

データベースを選択すると、プログラムはそのデータベースに接続して、Table フォームを表示します。Table フォームでは、データベース内で使用可能なすべての表に対する簡単なビューが提供されます。表を選択すると、表の内容が表示されます。

図 D-3 表ビュー

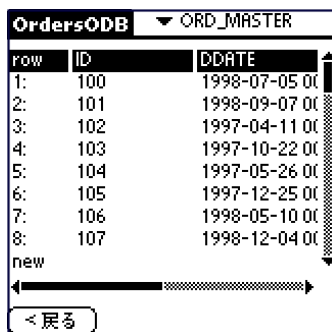


Table フォームの構成要素は、次のとおりです。

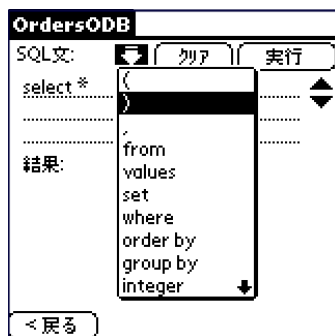
表 D-2 Table フォームの構成要素

項目	説明
表リスト	現在のデータベース内のすべての表をリストします。リストから表を選択すると、「行テーブル」に表の行が表示されます。
テーブルの行および列	<p>最初は空で、表が選択されたときに表コントロールにより表の内容が表示されます。表コントロールの各セルには、表の列が表示されます。</p> <p>ソート: 表コントロールの先頭行には、列の名前が表示されます。先頭行の列をクリックすると、プログラムは列によって表をソートします。最初にクリックしたとき、昇順で列がソートされ、列名の後にプラス (+) 符号が表示されます。同じ列をクリックすると、ソート順が降順 (-) と昇順 (+) で切り替わります。ソートに使用できる列は一度に1つのみです。</p> <p>スクロール: 列の数が表の1画面に表示できる数よりも多い場合、列をスクロールできるよう水平スクロールバーが表示されます。行の数が表の1画面に表示できる数よりも多い場合、行をスクロールできるよう垂直スクロールバーが表示されます。</p>
テーブル	Table フォームに切り替えます。
SQL 文実行	SQL フォームに切り替えます。
挿入	Mobile SQL により、表エントリを動的に編集できます。エントリをクリックすると、Mobile SQL により挿入位置が提供されます。新しい行を挿入します。「行の編集」ダイアログ・ボックスが表示されます。
削除	現在の行を削除します。行番号をクリックすると、行の削除の確認を要求されます。

D.5 SQL フォーム

SQL フォームを使用すると、ユーザー・インタフェースから SQL 文を入力し、実行できます。これにより、ODBC レイヤーによって公開された動的 SQL 機能にアクセスできます。

図 D-4 コマンド入力メニュー



SQL フォームの構成要素は、次のとおりです。

表 D-3 SQL フォームの構成要素

項目	説明
SQL 文	実行する SQL 文の入力をユーザーに要求します。文はセミコロン (;) 文字で終了できますが、必須ではありません。文の最大長は、511 文字です。下向き矢印アイコンをクリックすると、文の作成過程を解析して各ステップで最も使用される可能性の高いオプションをいくつか含んだメニューが表示されます。
クリア	このボタンをクリックすると、「SQL 文」編集ボックスと「結果」テキスト・ボックスの両方が消去されます。
実行	クリックすると、Mobile SQL により SQL 文が実行されます。
結果	SQL 文実行後の結果が表示されます。
テーブル	Table フォームに切り替えます。
SQL 文実行	SQL フォームに切り替えます。
編集、カット	選択されたテキストがある場合は、これを SQL 文からクリップボードにカットします。

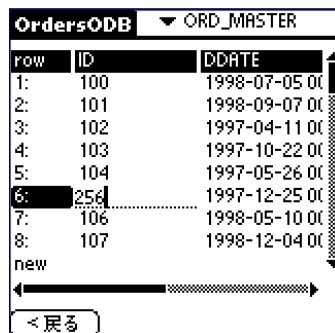
表 D-3 SQL フォームの構成要素 (続き)

項目	説明
編集、コピー	選択されたテキストがある場合は、これを「SQL 文」編集ボックスからクリップボードにコピーします。
編集、ペースト	クリップボードにテキストがある場合は、これを「SQL 文」フィールドの現在のカーソル位置にコピーします。

D.6 「行の編集」オプション

「行の編集」ダイアログ・ボックスを使用すると、特定の行の列を変更したり、新しい行を作成できます。

図 D-5 「行の編集」の例



「行の編集」ダイアログ・ボックスの構成要素は、次のとおりです。

表 D-4 「行の編集」ダイアログ・ボックスのオプション

項目	説明
ColumnsList	表内のすべての列名と値のリスト。新しい列が選択された場合、「値」編集ボックスの値が一時列に更新され、列リストが更新されます。
NullItButton	プッシュ・ボタン。このボタンを押すと、現在の列が NULL にされます。
値	現在の選択列の値を入力できる編集ボックス。
OK	プッシュ・ボタン。このボタンを押すと、列が更新され、ダイアログが消去されます。
取消し	プッシュ・ボタン。このボタンを押すと、変更内容が取り消され、ダイアログ・ボックスが消去されます。

D.7 Palm OS 固有の機能

次に、特に Palm OS 用に実装された機能をすべてリストします。

- インプレース編集 – 画面上の任意のセルをクリックすることで、Table フォームの列を変更できます。ダイアログをロードせずに列を編集できます。
- 表のビーム転送 – IRDA リンクを使用して、別のデバイスに表（スキーマおよびデータ）を送信できます。
- SQL ヒント – 推奨するすべての SQL キーワードおよび表名のリスト・ボックス。
- ORDER BY – SELECT 文によって戻された行を、指定された列に従って順序付けします。デフォルトの順序は降順です。オプションで、ASC キーワードで昇順を指定できます。

用語集

3 層 Web モデル (Three-Tier Web Model)

クライアント、中間層およびサーバーを含むインターネット・データベース構成。Web-to-Go アーキテクチャは 3 層 Web モデルに準拠しています。

Apache Server

National Center for Supercomputing Applications (NCSA) から発表されたパブリック・ドメインの HTTP サーバー。

Java Servlet Development Kit

Java サブレットの開発のために JavaSoft 社が提供しているツール。

Java Web Server Development Kit

Java Web Server Development Kit 1.0.1 は、JavaServer Pages (JSP) と Java サブレットの開発のために JavaSoft 社が提供しているツールです。

JavaServer Pages (JSP)

JavaServer Pages (JSP) とは、開発者がページの基になるコンテンツを変更せずにページのレイアウトを変更できるようにするテクノロジーです。JSP は HTML と Java コードを使用し、動的コンテンツとビジネス・ロジックを結び付けたプレゼンテーションを可能にします。

Java アプレット (Java Applets)

ブラウザで実行される小規模なアプリケーションで、動的コンテンツを追加することにより HTML ページの機能を拡張します。

Java サブレット (Java Servlets)

Java で作成されているプロトコルで、プラットフォームに依存しないサーバー側コンポーネント。Java サブレットは Java 対応のサーバーを動的に拡張し、要求 - 応答方式を使用して作成されたサービスのための汎用フレームワークを提供します。

JDBC

Java Database Connectivity (JDBC) は Java クラスの標準セットで、リレーショナル・データに対してベンダーに依存しないアクセスを提供します。JDBC クラスは ODBC をモデルにしたもので、複数データベースへの同時接続、トランザクション管理、単純問合せ、バインド変数によるコンパイル済文の操作、ストアド・プロシージャへのコールなどの標準機能を提供します。JDBC では、静的 SQL と動的 SQL の両方がサポートされます。

MIME

Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) とは、メッセージの内容を記述するためにインターネット上で使用されるメッセージ形式です。MIME は、HTTP サーバーが配布対象ファイルのタイプを記述するために使用します。

MIME タイプ (MIME Type)

Multipurpose Internet Mail Extensions (MIME) により定義されているファイル形式。

Mobile Development Kit (Web-to-Go 用) (Mobile Development Kit for Web-to-Go)

Mobile Development Kit for Web-to-Go を使用すると、アプリケーション開発者は、Java サブレット、JavaServer Pages (JSP) または Java アプレットで構成される Web-to-Go アプリケーションの開発とデバッグを行えます。

Web-to-Go 用 Mobile クライアント (Mobile Client for Web-to-Go)

Web-to-Go 用 Mobile クライアントは、Web-to-Go の 3 層 Web モデルのクライアント層です。この層には、Mobile サーバーと Oracle Lite データベースが含まれます。Web-to-Go は、ユーザーがオフライン・モードに切り替えたときにユーザー・アプリケーションとデータを Oracle Lite にレプリケートします。ユーザーが元のオンライン・モードに切り替ええると、Web-to-Go はすべてのデータ変更を Oracle データベースにレプリケートします。

Mobile サーバー (Mobile Server)

Mobile サーバーは、Web-to-Go の 3 層モデルのアプリケーション・サーバー層に常駐し、Web-to-Go 用 Mobile クライアントからのデータ変更要求を処理してデータベース・サーバー内のデータを変更します。Mobile サーバーは、Oracle HTTP Server、Apache Server、Oracle9i Application Server およびスタンドアロンの Mobile サーバーとともに実行されるように構成できます。

Mobile サーバー・リポジトリ (Mobile Server Repository)

Mobile サーバー・リポジトリとは、Oracle データベースに常駐する仮想ファイル・システムです。このリポジトリは、すべてのアプリケーション・ファイルとアプリケーション定義を含む永続リソース・リポジトリです。

ODBC

ODBC (Open Database Connectivity) は Microsoft 社の標準で、様々なプラットフォーム上でのデータベース・アクセスを可能にします。Web-to-Go 用 Mobile クライアント上では、トラブルシューティング用に ODBC サポートを使用可能にします。ODBC サポートを使用

すると、ローカルな Oracle Lite データベースに格納されているクライアントのデータを表示できます。この情報を表示するには、Mobile SQL を使用します。

Oracle Lite

Oracle Lite は、Web-to-Go 用 Mobile クライアント のデータベース・コンポーネントです。クライアントがオフライン・モードのときは、アプリケーションとデータは Oracle Lite に格納されます。

Oracle データベース

Oracle データベースは、Mobile サーバーのデータベース・コンポーネントです。Web-to-Go 用 Mobile クライアントがオンライン・モードのときは、アプリケーションとデータは Oracle データベースに格納されます。

SQL

Structured Query Language (SQL) は、リレーショナル・データベース・エンジンのほとんどで使用される非手続き型データベース・アクセス言語です。SQL 文はデータ・セットに対して実行される操作を記述します。SQL 文がデータベースに送られると、データベース・エンジンは指定されたタスクを実行するプロシージャを自動的に生成します。

Web-to-Go

Oracle Web-to-Go は、Web ベースのモバイル・データベース・アプリケーションを作成および配布するためのフレームワークです。Web-to-Go には、Web-to-Go 用 Mobile クライアント、Mobile サーバーおよび Oracle データ・サーバーで構成される 3 層データベース・アーキテクチャが含まれます。サーバーから一元管理されており、サーバーに接続されたとき（オンライン）またはサーバーから切断されたとき（オフライン）に Web-to-Go アプリケーションを実行できます。オフラインのときは Web-to-Go はデータをローカルにキャッシュし、オンラインに戻ったときにそのデータをサーバーと同期します。

WINDOW シーケンス (Window Sequence)

Web-to-Go がサポートする 2 つの順序のうちの 1 つで、オフライン・モードの Web-to-Go 用 Mobile クライアントに対して一意の主キー値を提供するために使用されるもの。WINDOW シーケンスには、一意の値範囲が含まれます。他のクライアントと値の範囲は重複しません。クライアントが順序の範囲内の値をすべて使用すると、Web-to-Go は新しい一意の値範囲を持つ順序を再び作成します。

一意キー (Unique key)

表の一意キーは、表の各列での一意の列または列グループです。UNIQUE KEY 制約を満たすには、一意キーの値が表の複数の行に出現することはできません。ただし、PRIMARY KEY 制約とは異なり、単一列からなる一意キーは NULL 値を含むことができます。

位置付け DELETE (Positioned DELETE)

位置付け DELETE 文により、カーソルの現在行が削除されます。書式は次のとおりです。

```
DELETE FROM table
      WHERE CURRENT OF cursor_name
```

位置付け UPDATE (Positioned UPDATE)

位置付け UPDATE 文により、カーソルの現在行が更新されます。書式は次のとおりです。

```
UPDATE table SET set_list
      WHERE CURRENT OF cursor_name
```

オフライン・モード (Offline Mode)

Web-to-Go 用 Mobile クライアントが Mobile サーバーから切断されている状態。オフライン・モードでは、クライアント・アプリケーションはローカルに実行され、データは Oracle Lite でアクセスおよび格納されます。「[オンライン・モード \(Online Mode\)](#)」も参照。

オンライン・モード (Online Mode)

Web-to-Go 用 Mobile クライアントが Mobile サーバーに接続されている状態。「[オフライン・モード \(Offline Mode\)](#)」も参照。

外部キー (Foreign Key)

外部キーとは表またはビューに存在する列または列グループのことで、その値は別の表またはビューに存在する行を参照します。外部キーには、一般に、別の表の主キー値と一致する値が含まれます。「[主キー \(Primary Key\)](#)」も参照。

結合 (Join)

2つの異なる表またはビューに存在するキー（主キーと外部キーの両方）の間に確立された関係。結合は、リレーショナル・データベース内の重複したデータを排除するために正規化された表のリンクに使用します。結合リンクの一般的なものとしては、1つの表の主キーを別の表の外部キーにリンクして、マスター・ディテール・リレーションを確立するものがあります。結合は SQL 文の WHERE 句条件に対応します。

コントロール・センター (Control Center)

Mobile サーバー・コントロール・センターはブラウザ内で実行される Web ベースのアプリケーションで、これを使用すると Web-to-Go アプリケーションとそのユーザーの管理が容易になります。管理者はコントロール・センターを使用して、ユーザーまたはグループに対するアクセス権の付与と取消し、スナップショット・テンプレート変数の変更、Web-to-Go からのアプリケーションの削除などの機能を実行します。

サイト (Site)

Web-to-Go は、Web-to-Go 用 Mobile クライアント上の各ユーザーに対してデータベースを作成します。このデータベースはサイトと呼ばれます。1つのクライアントに複数のサイト

を含められますが、サイトは1人のユーザーに1つのみ可能です。ユーザーは、異なるクライアント上に複数のサイトを所有できます。

索引 (Index)

表内のそれぞれの行に対する高速アクセスを提供するデータベース・オブジェクト。索引を作成すると、表のデータに対して実行される問合せおよびソート操作を高速化できます。また、索引を使用して、UNIQUE KEY 制約や PRIMARY KEY 制約などの制約を表に対して規定することもできます。

索引はいったん作成されると自動的にメンテナンスされ、データベース・エンジンにより可能な限りデータ・アクセスのために使用されます。

参照整合性 (Referential Integrity)

参照整合性は、レコードが追加、修正または削除されたときにメンテナンスされるマスター・ディテール・リレーション内の表間のリンクの精度として定義されます。

マスター・ディテール・リレーションを注意深く定義しておくことにより、参照整合性が高まります。データベース内の制約によって、データベース (クライアント / サーバー環境でのサーバー) レベルの参照整合性が規定されます。

参照整合性の目的は、孤立したレコード (マスター・レコードとの有効なリンクを持たないディテール・レコード) が作成されないようにすることです。参照整合性を規定する規則により、結果として孤立したレコードを作成するような、マスター・レコードの削除や更新、またはディテール・レコードの挿入や更新を予防できます。

実表 (Base Table)

ビューの基になるデータのソースで、表またはビューのいずれか。ビュー内のデータにアクセスするとき、実際は実表のデータにアクセスしています。

シノニム (Synonym)

表、ビュー、順序、スナップショットまたは別のシノニムに対する代替名 (エイリアス)。

主キー (Primary Key)

表の主キーは、表内の各行を一意に識別するのに使用される1つの列または列グループです。主キーを使用すると表のレコードにすばやくアクセスできます。また主キーは2つの表またはビューの間の結合の基礎として頻繁に使用されます。それぞれの表に対して主キーは1つしか定義できません。

PRIMARY KEY 制約を満たすには、主キー値が表の2つ以上の列で使用されたり、主キーの一部の列に NULL 値が含まれないようにします。

順序 (Sequence)

順次数を生成するスキーマ・オブジェクト。順序を作成した後は、これを使用してトランザクション処理用の一意の順次数を生成できます。これらの一意の整数には、主キー値を含むことができます。トランザクションで順序番号が生成される場合、トランザクションをコ

ミットしたかロールバックしたかにかかわらず順序が即時増分されます。「[WINDOW シーケンス \(Window Sequence\)](#)」も参照。

スキーマ (Schema)

表、ビュー、索引、順序などを含む、名前の付いたデータベース・オブジェクトの集まり。

スナップショット (Snapshot)

スナップショットとは Web-to-Go が Oracle データベースからリアルタイムで取得するアプリケーション・データのコピーで、オフラインになる前にクライアントにダウンロードされます。スナップショットは、データベース表全体のコピー、または表の行のサブセットのコピーです。ユーザーが初めてオンラインからオフラインに切り替えるとき、Web-to-Go はクライアント・マシン上にスナップショットを自動的に作成します。その後、オンラインまたはオフラインに切り替えるたびに、Web-to-Go はスナップショットの複雑さに応じて、スナップショットを最新のデータでリフレッシュするか、全体を再作成します。

整合性制約 (Integrity Constraint)

表の 1 つ以上の列に入力できる値を制限する規則。

接続 (Connected)

ユーザー、アプリケーションまたはデバイスがサーバーに接続されていることを指す一般的な用語。Web-to-Go 用 Mobile クライアントは、オンライン・モードのときに「接続」されています。

切断 (Disconnected)

ユーザー、アプリケーションまたはデバイスがサーバーに接続されていないことを指す一般的な用語。Web-to-Go 用 Mobile クライアントは、オフライン・モードのときに「切断」されています。

データベース・オブジェクト (Database Object)

データベース・オブジェクトとは、表、ビュー、順序、索引、スナップショットまたはシノニムなどの名前の付けられたデータベース構造体です。

データベース・サーバー (Database Server)

Web-to-Go の 3 層 Web モデルの 3 番目の層。アプリケーション・データを格納します。

同期 (Synchronization)

Web-to-Go が Web-to-Go 用 Mobile クライアントと Oracle データベースの間でデータをレプリケートするために使用するプロセス。Web-to-Go は、ユーザーがオフライン・モードに切り替えたときにユーザーのアプリケーションおよびデータを Oracle Lite にレプリケートします。ユーザーが元のオンライン・モードに切り替えると、Web-to-Go はすべてのデータ変更を Oracle データベースにレプリケートします。

トランザクション (Transaction)

リレーショナル・データベース内の選択されたデータに対して加えられる一連の変更。トランザクションは通常、INSERT、UPDATE、DELETEなどのSQL文を使用して実行します。トランザクションは、コミットされた（変更が永続的になる）とき、またはロールバックされた（変更が破棄された）ときに完了します。

トランザクションの前に問合せが実行されることがよくあります。問合せを使用して、変更対象の特定のレコードをデータベースから選択しておきます。「SQL」も参照。

パッケージ・ウィザード (Packaging Wizard)

パッケージ・ウィザードを使用すると、管理者が Web-to-Go アプリケーションを Mobile サーバー・リポジトリにパブリッシュできます。管理者は、パッケージ・ウィザードを使用して新しい Web-to-Go アプリケーションを作成したり、既存のアプリケーション定義を編集できます。

パブリケーション項目 (Publication Item)

パブリケーション項目は、クライアントがアクセスできるデータ・サブセットを指定する SQL の SELECT 文です。パブリケーション項目は、通常クライアント・デバイス上のレプリカ表に対応します。パブリケーション項目は、Mobile Server Admin API を使用して作成できます。この API には、パブリッシュ・サブスクライブ・モデルを実装する Java 関数が含まれています。API 中のこれらの関数は、Java プログラムの内部から標準のファンクション・コールとしてコールできます。

ビュー (View)

1 つ以上の表（または他のビュー）から選択されたデータをカスタマイズして表したものです。ビューは「仮想的な表」のようなもので、複数の表（実表と呼ばれます）およびビューからのデータを関連させ、組み合わせることができます。ビューは表示されるデータの選択条件を指定できるため、一種の「格納された問合せ」といえます。

ビューは、表のように、行と列に編成されます。ただし、ビューには、データそのものは含まれません。ビューを使用すると、複数の表またはビューを 1 つのデータベース・オブジェクトとして扱うことができます。

表 (Table)

行と列に編成されたデータを格納するデータベース・オブジェクト。上手に設計されたデータベースでは、各表に単一のトピックに関する情報（たとえば従業員や顧客の住所など）が格納されます。

マスター・ディテール・リレーション (Master-Detail Relationship)

1 つの表またはビュー（ディテール表またはビュー）の複数行が、別の表またはビュー（マスター表またはビュー）の単一のマスター行に関連付けられている場合に、マスター・ディテール・リレーションがデータベース内の表またはビューの間に存在すると言います。

マスター行およびディテール行は通常、ディテール表またはビュー内の外部キー列と一致するマスター表またはビュー内の主キー列により結合されます。

主キーの値を変更した場合、アプリケーションでは、外部キーの値が主キーの値と一致するように一連の新しいディテール・レコードを問い合わせる必要があります。たとえば、EMP 表内のディテール・レコードが、DEPT 表内のマスター・レコードと同期される場合、DEPT 内の主キーは DEPTNO で、EMP 内の外部キーは DEPTNO にします。「主キー (Primary Key)」および「外部キー (Foreign Key)」も参照。

モードの切替え (Switching Modes)

Web-to-Go 用 Mobile クライアントがオフラインに切り替えたりオンラインに戻るために使用するプロセス。クライアントがオフライン・モードに切り替わると、Oracle Lite がオフラインで作業するために必要なすべてのアプリケーションとデータがダウンロードされます。クライアントがオンラインに戻ったときに、Oracle Lite に対するデータ変更を Oracle データベースと同期します。

レジストリ (Registry)

レジストリには、Web-to-Go の一意の名前と値のペアが含まれます。レジストリの名前はすべて一意である必要があります。

レプリケーション (Replication)

分散データベース・システムを構成する複数のデータベース内で、データベース・オブジェクトをコピーしメンテナンスするプロセス。1つのサイトに適用された変更が取得されローカルに格納されてから、各リモート・サイトに転送され適用されます。レプリケーションは、共有データに対する高速のローカル・アクセスをユーザーに提供し、データ・アクセスの代替オプションを提供してアプリケーションの使用を保護します。1つのサイトが使用不可になっても、残りのサイトへの問合せや更新ができます。

レプリケーションの競合 (Replication Conflict)

レプリケーションの競合は、1つのデータに対して矛盾する変更が加えられるときに発生します。Web-to-Go では、切断されているクライアント用の順序値を使用して、レプリケーションの競合を回避します。

ワークスペース (Workspace)

Mobile サーバーのワークスペースとは、Web-to-Go アプリケーションに対するアクセスをユーザーに提供する Web ページです。Web-to-Go は、ユーザーが Web-to-Go にログインした後に、ユーザーのブラウザ内にワークスペースを生成します。ワークスペースは、ユーザーが使用できるすべてのアプリケーションのアイコン、リンクおよび説明を表示します。アプリケーションを使用できるようになるのは、管理者がアプリケーションを Web-to-Go システムにパブリッシュし、ユーザーに対してアクセス権を付与した後です。

索引

A

ALL_CONS_COLUMNS
システム・カタログ・オブジェクト, A-4

ALL_CONSTRAINTS
システム・カタログ・オブジェクト, A-3

ALL_IND_COLUMNS
システム・カタログ・オブジェクト, A-5

ALL_INDEXES
システム・カタログ・オブジェクト, A-4

ALL_OBJECTS
システム・カタログ・オブジェクト, A-5

ALL_SEQUENCES
システム・カタログ・オブジェクト, A-6

ALL_SYNONYMS
システム・カタログ・オブジェクト, A-6

ALL_TAB_COLUMNS
システム・カタログ・オブジェクト, A-8

ALL_TAB_COMMENTS
システム・カタログ・オブジェクト, A-9

ALL_TABLES
システム・カタログ・オブジェクト, A-7

ALL_USERS
システム・カタログ・オブジェクト, A-10

ALL_VIEWS
システム・カタログ・オブジェクト, A-10

B

BLOB, B-11

C

CAT
システム・カタログ・オブジェクト, A-11

CHAR, 3-9, B-11

CodeWarrior, 5-9
プロジェクトの作成, 5-15

COLUMN_PRIVILEGES
システム・カタログ・オブジェクト, A-11

COMMIT, B-7

CREATE INDEX, B-4

CREATE TABLE, B-3

D

DATE, 3-9, B-11

DDL 操作, 3-2

DECIMAL, B-11

DELETE, B-4

DOUBLE, B-11

DOUBLE PRECISION, 3-9

DROP TABLE, B-3

DRPO INDEX, B-5

DUAL
システム・カタログ・オブジェクト, A-12

F

FLOAT, 3-9, B-11

G

GNU GCC, 5-9

H

HotSync

ボタンの再割当て, 5-23

HTTP 転送

Palm Computing Platform, 5-21

I

INSERT, B-5

INSTEAD OF トリガー, 3-4

INT, B-11

INTEGER, 3-9, B-11

J

jar ファイル

パッケージ・ウィザードによるパッケージ化, 6-18

L

LONG RAW, 3-9

M

Message Generator and Processor, 3-2

Mobile SQL, 5-8

SQL 文の使用, 5-14

インストール, 5-11

起動, 5-12

データベースの作成, 5-12

表の表示, 5-12

Mobile サーバー

概要, 1-4, 3-2

構成, 1-9

N

NUMBER, 3-9, B-11

NUMERIC, B-11

O

ocTransportEnv, 5-7

ODBC, 1-5

開発, 5-2

ODBC サポート

Palm Computing Platform, C-2

OKAPI, 1-5

開発, 5-2

Orders サンプル・アプリケーション

Palm Computing Platform での使用, 4-3

サーバーの準備, 4-2

デバイスでのインストール, 4-6

ファイル, 4-2

P

Palm Computing Platform

アプリケーションの開発, 5-8

固有のアプリケーションのサポート, 1-4

データベース・サポート, 1-4

PL/SQL, 3-3

R

REAL, B-11

ROLLBACK, B-7

S

Satellite Forms

データ型, 3-9

SELECT, B-6

SMALLINT, 3-9, B-11

SNAPSHOTS

システム・カタログ・オブジェクト, A-12

SQLAllocConnect, C-3

SQLAllocEnv, C-4

SQLAllocHandle, C-5

SQLAllocStmt, C-7

SQLBindCol, C-15

SQLBindParameter, C-11

SQLConnect, C-10

SQLDescribeCol, C-16

SQLDisconnect, C-11

SQLError, C-17

SQLExecDirect, C-13

SQLExecute, C-13

SQLFetch, C-14

SQLFreeConnect, C-7

SQLFreeEnv, C-8

SQLFreeHandle, C-8

SQLFreeStmt, C-9
SQLGetData, C-18
SQLNumResultCols, C-19
SQLPrepare, C-12
SQLRowCount, C-19
SQLTransact, C-20
SQL サポート
 Palm Computing Platform, B-2
SQL 文
 Palm Computing Platform でサポート, B-2

T

TABLE_PRIVILEGES
 システム・カタログ・オブジェクト, A-15
TIME, B-11
TIMESTAMP, B-11

U

UPDATE, B-7
USER_OBJECTS
 システム・カタログ・オブジェクト, A-16

V

VARCHAR, 3-9, B-12
VARCHAR2, 3-9, B-12

X

XML ファイル, 6-18

あ

アプリケーション
 パッケージ・ウィザードによる編集, 6-21
 パッケージ・ウィザードによる命名, 6-5
 パブリッシュ, 6-19
 ファイルのリスト表示, 6-7
「アプリケーション」パネル
 パッケージ・ウィザード, 6-5

い

インストール, 1-6

う

ウィニング・ルール, 3-7

え

エミュレータ, 1-9
 Palm Computing Platform, 5-10
エラー, 3-7

お

オブジェクトのネーミング, 3-3
親表
 INSTEAD OF トリガー, 3-4
 更新可能, 3-4
 ヒント, 3-4

か

開発過程, 1-6
開発環境
 Palm Computing Platform, 2-2
 インストール, 2-2
 構成, 2-2
開発ツール
 Palm Computing Platform, 5-8
外部キー制約, 3-5, 3-6
 違反, 3-5
カスタマイズ DML 操作の定義, 3-27
仮想主キー, 3-30
環境サポート
 EPOC, 1-4
 Palm Computing Platform, 1-4

き

競合, 3-7

く

クライアント
 パブリケーションへのサブスクライブ, 3-22
クライアント・データベース
 作成, 3-2
グループ関数, B-12

リ

高速リフレッシュと更新, 3-4

さ

索引

パブリケーション項目用の作成, 3-18

サブスクリプション, 3-2, 3-10

インスタンス化, 3-25

サブスクリプション・パラメータ, 3-10

定義, 3-24

し

システム・カタログ・オブジェクト

ALL_CONS_COLUMNS, A-4

ALL_CONSTRAINTS, A-3

ALL_IND_COLUMNS, A-5

ALL_INDEXES, A-4

ALL_OBJECTS, A-5

ALL_SEQUENCES, A-6

ALL_SYNONYMS, A-6

ALL_TAB_COLUMNS, A-8

ALL_TAB_COMMENTS, A-9

ALL_TABLES, A-7

ALL_USERS, A-10

ALL_VIEWS, A-10

CAT, A-11

COLUMN_PRIVILEGES, A-11

DUAL, A-12

SNAPSHOTS, A-12

TABLE_PRIVILEGES, A-15

USER_OBJECTS, A-16

システム・カタログ・ビュー, A-1

主キー索引, 3-2

す

スナップショット

インポート, 6-14

パッケージ・ウィザードによる作成

「スナップショット」パネル, 6-13

編集, 6-16

スナップショット定義の作成, 1-6

「スナップショット」パネル

パッケージ・ウィザード, 6-11

せ

制限選択条件, 3-31

て

ディレクトリ構造

Palm Computing Platform, 2-2

データ型

Oracle Lite, 3-8

Satellite Forms, 3-9

サポート, B-11

マッピング, 3-8

データベース

Mobile SQL で作成, 5-11, 5-12

作成, 5-11

データベース・インタフェース

ODBC, 1-5

OKAPI, 1-5

データベース・サポート, 3-3

「データベース」パネル

パッケージ・ウィザード, 6-10

テスト

デバイスを使用, 1-10

転送

構成

Palm Computing Platform, 5-21

転送の構成

Palm Computing Platform デバイス, 5-21

転送プロトコル

サポート, 1-4

と

トランザクション

実行, 3-31

ページ, 3-32

は

ページ、トランザクション, 3-32

バージョニング, 3-7

パスワードの変更, 3-13

パッケージ・ウィザード

jar ファイルのパッケージ化, 6-18

「アプリケーション」パネル, 6-5

起動, 6-2

- スナップショットのインポート, 6-14
- スナップショットの編集, 6-16
- 「スナップショット」パネル, 6-11
- 「データベース」パネル, 6-10
- ファイルのソート, 6-9
- 「ファイル」パネル, 6-7
- パブリケーション, 3-2, 3-10
 - クライアントのサブスクライブ, 3-22
 - 作成, 3-14
- パブリケーション項目, 3-10
 - 索引の作成, 3-18
 - 作成, 3-16
 - パブリケーションへの追加, 3-19
- パブリケーション項目名の取得, 3-18
- パブリッシュ・サブスクライブ, 1-4
- パブリッシュ・サブスクライブ・モデル, 3-2, 3-10
 - 実装, 3-11

ひ

- 日付関数, B-13
- ビュー
 - 高速リフレッシュと更新, 3-4
- ヒント, 3-4

ふ

- 「ファイル」パネル
 - パッケージ・ウィザード, 6-7
- プラットフォームの選択, 6-4

ゆ

- ユーザーの削除, 3-13
- ユーザーの作成, 3-12

よ

- 要件
 - Oracle データベース, 2-2
 - 一般, 2-2

れ

- レプリケーション
 - エミュレータを使用, 1-9
 - エラー, 3-7
 - 競合, 3-7
- レプリケート・シーケンス
 - クライアントごとのパーティション化, 3-23
 - 作成, 3-22
- レプリケート・シーケンスのパーティション化, 3-23

